

IP OFFICE Mx

IP OFFICE Ex

操作説明書



- 本書は製品を安全にご使用いただくための注意事項が書かれています。ご使用になる前に必ずお読みください。
- ご使用になる間は、本書を製品の近くに保管していつでもご利用できるようにしてください。

このたびは、IP OFFICE MX/EXをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

- ご使用前に、本書をよくお読みの上、本装置を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本装置のそばなどいつもお手元においてお使いください。

商標について

- － IPOFFICEは、パナソニック株式会社の登録商標です。
- － CTstage、Com@WILL は、沖電気工業株式会社の登録商標です。
- － その他、記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

◆ ご注意

- (1) 本書に記載されている内容の一部または全部を無断記載・無断複写することは固くお断りいたします。
- (2) 本書に記載されている内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 天災、停電、あるいは本装置の故障や誤動作などにより、本装置が使えなかったことによる付随的損害保証については当社では、一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

表記の取り決め

本書では、読者の注意を喚起するために次の図記号を用いています。

■記号の意味



「禁止」を示します。この記号のついた警告・注意文が指定する行為は絶対に行わないでください。



「強制」を示します。この記号のついた警告・注意文が指定する行為は必ず実行してください。



注意 特に注意が必要な点を記載しています。



メモ 操作上のヒントや注意点を記載しています。



操作や機能の補足説明を記載しています。



関連した説明の参照箇所を記載しています。



漢字表示付電話機のみでできる操作を記載しています。



数字表示付電話機のみでできる操作を記載しています。

安全上のご注意













— ご使用の前に必ずお読みください —

この「安全上のご注意」には、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、守っていただきたい事項を示しています。

本装置をご使用の前に、本文をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。










■主装置について




 警告	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	LAN ポートや PC ポートに接続したネットワークケーブルを、コンセント、アナログ電話回線、デジタル電話回線 (ISDN)、PBX デジタル電話回線などには接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	本装置を分解、改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	本装置の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢など、液体の入った容器または、小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
	濡れた手で、電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
	電源コードのタコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
	電源コードに重い物を載せたり、加熱したり、引っ張ったりしないでください。コードが破損し、火災・感電の原因となります。
	本装置は AC100V ± 10V の電源電圧で動作するように設計されています。この定格電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
	電源プラグのほこりを取ってください。絶縁不良になり、火災の原因となります。
	万一、内部に水などが入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	煙が出ている、異臭がするなどの場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	内部の点検・修理は、取扱店に依頼してください。

 注意	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、およびチリ、ほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
	ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
	直射日光の当たる所や、湿度の高い所には置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。
	本装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。
	振動が多い場所には設置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
	強い磁界やノイズ発生源から離して設置してください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
	本機を上下逆さまの状態では設置しないでください。内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。
	壁掛け用に取り付ける場合は、重みにより本装置が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、コードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
	本装置を移動させるときは、先ず装置の電源スイッチの切り方に従い電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。次に、回線コードなど外部の接続線をすべて外してください。誤った電源スイッチの切り方をしますと、装置に異常をきたす場合があります。また、移設は接続線を外したことを確認した上で行なってください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。
	水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。内部に水滴が入ると火災や故障の原因となることがあります。
	お手入れの際は安全のために、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
	必ずアースを接続してください。

■電話機について

以下の内容は、パナソニック システムネットワークス製の VB-F 型デジタル多機能電話機、状態表示盤、停電切替アダプターについての記述です。パナソニック システムネットワークス製カールコードレス電話機、デジタルコードレス電話機、およびその他電話機や PHS などについては、各端末に添付されている取扱説明書をお読みください。

 警告	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容を示しています。
●共通	
	付属品または専用品以外を使用しないでください。指定以外の機器を使用すると、火災や感電の原因となります。
	通風孔をふさがないでください。また、機器の周りに物を置かないでください。内部に熱がこもり、発熱や火災の原因となります。
	水などをかけないでください。また、水などに浸さないでください。発熱や発火の原因となります。
	異物を入れないでください。隙間などから、金属類や紙類を入れると火災や感電の原因となります。万一、異物が入ったら、本体の電源プラグを電源コンセントから抜いて、取扱店へご相談ください。
	機器をあけたり、分解・改造しないでください。感電の原因となります。内部の点検や修理などは取扱店へご依頼ください。
	煙・異臭・異音がでたり、落下・破損したときは本体の電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。使用を中止し、取扱店へ相談してください。電源プラグの抜き差しの妨げにならないよう、コンセントの近くには物を置かないでください。
	接続コード*のプラグに、洗剤などの液体をかけたり、ぬらしたりしないでください。火災の原因となります。 *：主装置と電話機等を接続しているコード
	接続コード*を抜いたまま放置しないでください。接続コードのプラグが洗剤などの液体でぬれるとショート・感電・火災の原因となります。 *：主装置と電話機等を接続しているコード

 注意	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
●共通	
	浴室や加湿器のそばなど、湿気が多い場所や塩水などのかかるところ、ほこりの多いところで使用しないでください。火災や感電の原因となります。
	電源コードを抜くときは必ず電源プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると、コードが破損し火災や感電、ショートの原因となります。

お願い	
<ul style="list-style-type: none"> ● カールコードレス電話機、デジタルコードレス電話機をご利用の場合、それぞれの機器の取扱説明書に記載されている警告表示事項をお読みください。 ● 設置・増設・修理は、お買い上げの取扱店または販売会社に相談してください。設置・増設には、電話工事担任者の資格が必要です。 ● 機器に、強い衝撃や振動を与えないでください。落としたりぶつけたりして強い衝撃が加わると、故障や破損の原因となります。 ● 冷凍倉庫など特に温度の下がる場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。 ● ラジオ、テレビ、コンピューター、OA 機器、電子レンジ、エアコンなどから 2 m 以上離してお使いください。機器からのノイズにより雑音の発生など悪影響を受ける・与える原因となります。 ● 直射日光、暖房設備、ボイラーなどの、特に温度の上がる場所に置かないでください。機器表面や部分が変形・劣化するほか、故障の原因となります。 ● 硫化水素、リン、アンモニア、硫黄、炭素、酸、塵埃、有毒ガス等の発生する場所に置かないでください。故障や機器の寿命が短くなる原因となります。 ● 殺虫剤などの揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品などに長時間付着させたまにしないでください。変質したり、塗料がはげる原因となります。 ● 電磁波発生源や磁気を帯びたもの（高周波マシン・電気溶接機・磁石など）に近づけないでください。雑音の発生や故障の原因となります。 	

お手入れについて	
<ul style="list-style-type: none"> ● 掃除するときは本体の電源を切った状態で行ってください。誤動作の原因となります。 ● 機器は、乾いた柔らかい布でふいてください。汚れがひどい場合、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。 ● お手入れには次のものは使わないでください。 (石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん) 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。 	

■装置全体について

ご使用にあたってのお願い
<ul style="list-style-type: none">● この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適正な対策を講ずるよう要求されることがあります。● 停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた遺失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。● 本装置を人命や、危害に直接的または、間接的に高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください。● 本装置を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。● 本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります。
設置にあたって
<ul style="list-style-type: none">● ヘッドセットでお使いになる場合、別売のヘッドセットが必要です。● 放送局の近くや違法C B無線など、強い電波を受ける場所では通話中に雑音が入ることがあります。通話に支障をきたす場合には、取扱店にご相談ください。● テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります。
取り扱い上のご注意
<ul style="list-style-type: none">● 落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。● 本装置に接続されている受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれているラインコードを強く引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。● 本装置を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコール及びシリコン系クリーナーなどの使用は絶対にさけてください。変色、変形の原因になることがあります。水を含んだ布をかたく絞って拭いた後、柔らかい布でからぶきしてください。

製品の保証と責任の範囲

I. 本製品

■保証期間

本製品の保証期間はシステム運用開始日から1年間です。保証期間中に本製品が通常の使用状態で故障した場合、無償で修理いたします。

■保証の対象

保証の対象となる部分は、本製品のみです。

■保証の対象外

1. お客様の誤った操作に起因する損害については、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。
2. 本製品の品質・機能および本操作説明書に関して、お客様の使用目的に対する適合性、市場性などについては、一切の保証を致しかねます。また、そこから生じる直接的、間接的損害に対しても責任を負いかねます。

■その他

1. ソフトウェアおよび各種ドキュメントをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者の使用に供することは固く禁じられています。第三者の使用に供した場合、著作権の侵害行為となり、損害賠償請求の対象となります。
2. 本製品に対する保証は、日本国内においてのみ有効です。
3. IP OFFICE の運用・保守に関する疑問や質問、あるいは本マニュアルの記述で不明な箇所がありましたら、本製品を購入された取扱店までお問い合わせください。
4. 本製品のライセンスについて

本製品は、一部に GNU 一般公衆利用許諾契約書 (GNU General Public License : 以下「GPL」) および GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書 (GNU Lesser General Public License : 以下「LGPL」) が適用されたオープンソースソフトウェアを使用しています。これらのオープンソースソフトウェアに限り、GPL、LGPL の定めに従い、入手、改変、再配布等を行って頂くことが可能です。

本製品のライセンスの詳細や、GPL、LGPL 適用オープンソースソフトウェアのソースコードの入手方法につきましては、取扱店にお問合せください。

なお、個別の GPL、LGPL 適用オープンソースソフトウェアに関しましては、ソフトウェアの不稼働、稼働不良を含む法律上の瑕疵担保責任、その他保証責任を弊社は一切負わないものとします。

II . パナソニック システムネットワークス製の製品

■保証書

お買い上げ時に、品番が VB で始まるパナソニック システムネットワークス製の製品をまとめた製品保証書を取扱店からお渡しします。

お買い上げ日・取扱店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの取扱店からお受け取りください。

よくお読みのあと、保管してください。

保証期間はお買い上げ日（運用開始日）から 1 年間です。

なお、充電式電池は消耗品ですので、保証の対象外とさせていただきます。

■保証の対象外

正常な使用状態で本装置に故障が生じた場合、当社は本装置の保証書に定められた条件に従って修理をさせていただきます。ただし、落雷や停電などの外部要因、または本装置の故障、誤動作等で、本装置が使えなかったことによる付随的損害（料金管理など）の補償については、当社はその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■補修用性能部品の保有期間

品番が VB で始まるパナソニック システムネットワークス製の製品は補修用性能部品を、製造打ち切り後 7 年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき

お買い上げの取扱店へご連絡ください。

1. 保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

2. 保証期間を過ぎているときは、

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。

下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

3. 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

■ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話をさせていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

はじめに

■ 本書の目的

本書は、IP OFFICE MX/EX のビジネスホン機能に焦点をあて、IP OFFICE MX/EX 用の端末装置（電話機）の操作方法を説明しています。


本書で主に説明の対象としている電話機は VB-F 型デジタル多機能電話機です。

■ 対象読者

本書の対象読者として、以下の方を想定しています。

- IP OFFICE MX/EX のシステム管理者（お客様）
- IP OFFICE MX/EX の端末装置（電話機）の利用者

システム管理者だけが行える操作の場合には、その旨を記載しています。

 **メモ** ボイスメール機能には、標準搭載のボイスメール機能（IP OFFICE MX）、別売パッケージのボイスメール機能（8VMT）（IP OFFICE MX/EX）、CTstage Lite のボイスメール機能（IP OFFICE MX/EX）があります。本書の第 4 章で説明しているのは、標準搭載および別売パッケージのボイスメール機能です。CTstage Lite のボイスメール機能については、取扱店にご相談ください。

■ 本書の構成

第1章 お使いになる前に
IP OFFICE MX/EX（主装置）および端末装置（電話機）をご利用いただく上で必要な各部の名称や電話機のディスプレイの見方など、予備知識を説明しています。
第2章 電話の基本的な使い方
電話のかけ方、受け方、保留して転送する方法など、電話機の基本的な操作方法を説明しています。
第3章 ディスプレイのメニューの使い方
電話機のディスプレイのメニューを利用して電話帳や履歴などを操作する方法、メニューを使って電話機に機能を登録する方法などを説明しています。
第4章 電話の便利な使い方
夜間や留守中など電話に出られない場合に便利な機能など、知っておくと便利な機能を説明しています。ボイスメールの使い方なども説明しています。
第5章 電話機の調整
電話機を快適にお使いいただくために必要な、日時や角度や音量など、電話機の調節のしかたを説明しています。
第6章 さらに活用したいとき
周辺機器と接続している場合の操作、VB-F型デジタル多機能電話機以外の電話機（アナログ電話機、PHS、無線LANデュアル端末など）を使用する場合の留意点について説明しています。
付録
電話に登録できる機能の一覧、用語解説などを掲載しています。
ボイスメール操作早見表
ボイスメールの操作が一目で確認できます。切り取れるようになっていますので、必要に応じて切り取り線で切り取り、必要な部数をコピーして端末装置（電話機）の利用者の方々に配布してご利用ください。

目次

表記の取り決め	i
安全上のご注意	ii
製品の保証と責任の範囲	vi
はじめに	viii
本書の目的	viii
対象読者	viii
本書の構成	ix
第1章 お使いになる前に	1
1-1 IP OFFICE MX/EX の特長	2
1-2 構成図	4
1-3 主装置について	6
添付品	6
停電について	7
1-4 電話機の各部の名称と説明	8
漢字表示付電話機	8
数字表示付電話機	10
1-5 電話機のディスプレイの見方	12
1-6 システム管理電話機と一般電話機	15
第2章 電話の基本的な使い方	17
2-1 電話をかける	18
外線にかける	18
外線が空いていないときは	20
内線にかける	21
音声で内線呼び出す	22
ダイヤルしてから受話器を上げる	23
リダイヤルする	24
電話帳を使って電話をかける	25
履歴を使って電話をかける	26
短縮番号をダイヤルして電話をかける	27
ワンタッチで電話をかける	28
2-2 電話を受ける	29
外線を受ける	29
内線（着信音）を受ける	31
内線（音声呼出し）を受ける	31
内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける	32
特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける	32
キャッチホンの電話を受ける	34

2-3 電話を保留する	35
外線からの電話をすべての電話機で取れるように保留する	35
他の電話機で取れないように保留する	36
グループの中だけで取れるように保留する	37
2-4 電話を取り次ぐ	38
保留したあと口頭で取り次ぐ	38
転送先の内線と話してから取り次ぐ	39
転送先の内線と話さずに取り次ぐ	40
かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する	41
かかってきた電話を外線に転送する	43
第3章 ディスプレイのメニューの使い方	45
3-1 メニューを操作するためのキー	46
3-2 文字入力方法	47
入力モードとキーの割り当て	47
文字入力モードの切替え	48
漢字の入力例	49
カナの入力例	50
入力文字の修正例	51
3-3 メニュー項目について	52
3-4 パスワードを設定する	53
各電話機のパスワードを入力する	53
各電話機のパスワードを変更する	54
管理者用パスワードを入力する	55
3-5 内線の名前を登録する	57
3-6 電話帳を使う	59
電話帳に新規に登録する	59
電話帳にグループ名に登録する	62
電話帳を名前で検索する	63
電話帳をメモリ番号で検索する	64
電話帳をグループで検索する	65
電話帳の内容を修正する	66
電話帳から1件削除する	67
電話帳の内容をすべて消去する	68
3-7 履歴を使う	69
発信記録を表示する	69
着信記録を表示する	71
履歴を電話帳に登録する	73
履歴を1件ずつ削除する	74
履歴をすべて削除する	75
3-8 短縮ダイヤルを使う	76
相手の名前から短縮ダイヤルを検索する	76

メモリ番号から相手の名前を検索する	78
短縮ダイヤルを登録する	79
短縮ダイヤルの登録内容を変更する	82
短縮ダイヤルの登録を1件消去する	83
短縮ダイヤルの登録をすべて消去する	84
3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける	85
フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける	85
フレキシブルキーに短縮キーを割り付ける	87
フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける	88
フレキシブルキーに内線DSSを割り付ける	90
フレキシブルキーの割付けをクリアする	91
フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける	92
3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する	93
第4章 電話の便利な使い方	95
4-1 不在時に他の電話へ転送する	96
不在転送を有効にする／解除する	97
かかってきた電話の転送先を設定する	98
かかってきた相手によって転送先を設定する	100
4-2 留守番電話機能を使う	103
ボイスメールを留守番電話として使う	103
応答メッセージを録音する	105
4-3 指定した外線を別の外線へ転送する	107
転送電話を有効にする／解除する	107
転送する回線と転送先の外線を指定する	108
4-4 昼夜モードを切り替える	110
昼夜モードを手動で切り替える	110
昼夜モードごとに着信音を設定する	111
4-5 着信を1台の電話機で受ける	113
4-6 迷惑電話を拒否する	114
通話中の相手を着信拒否に設定する	114
着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する	115
着信拒否の電話番号を登録する	116
着信拒否の電話番号を削除する	118
迷惑電話への対処方法を設定する	120
4-7 3人以上で通話する	122
社内の人を口頭で呼びかけて会議通話に加える	123
社内外で会議通話をする	124
4-8 内線をもっと活用する	125
不在時にかかってきた内線の相手にメッセージを送る	126
転送先の内線から転送指示をする	128
グループ内の電話を一斉に音声で呼び出す	129

グループ内の一斉音声呼出しを受ける	130
他のグループを呼び出す	131
グループ内の電話に代理で応答する	132
他グループの電話に代理で応答する	133
話し中の内線を呼び出す	134
話し中の内線を予約する	135
話し中の内線の近くの内線を呼び出す	136
4-9 外出時に便利な機能	137
外出先から転送電話の設定などを変更する	137
無線 LAN デュアル端末を社内内で内線として使用する	139
4-10 ボイスメール機能を使う	140
メールセンターに接続する	142
メッセージを録音する (伝言録音)	146
メッセージを録音する	147
メッセージを再生する	149
メッセージを転送する	151
通話相手に転送先へのメッセージを録音してもらう	152
通話を録音する	153
外出先からメールセンターに接続する	155
通話相手をメールセンターに接続させる	156
メールボックスにパスワードを設定する	157
メッセージの着信を知らせる	159
状態表示盤でメールボックスを活用する	161
メールボックスの中を整理する	162
4-11 その他の便利な機能	165
i・ナンバー/ダイヤルイン機能を利用する	165
INS ボイスワープを利用する	165
プッシュホン信号を送る	169
第5章 電話機の調整	171
5-1 記入シートを取り替える	172
漢字表示付電話機	172
数字表示付電話機	172
集中受付装置	173
24 キー増設ユニット	173
5-2 電話機の角度を変える	174
漢字表示付電話機	174
数字表示付電話機	175
5-3 日付・時刻を合わせる	176
日付を合わせる	176
時刻を合わせる	178
5-4 着信音の音色を選択する	180

5-5 音量を調節する	181
着信音量を調節する	181
受話音量を調節する	182
マイクのオン/オフを切り替える	183
予告音のオン/オフを切り替える	184
キータッチ音のオン/オフを切り替える	185
5-6 ディスプレイ表示を調節する	186
バックライトタイマを調節する	186
ディスプレイの濃度を調節する	187
5-7 ハンドセット/ヘッドセットを切り替える	188
第6章 さらに活用したいとき	191
6-1 周辺機器との接続	192
構内放送装置との接続	192
ドアホンとの接続	194
6-2 アナログ電話機の操作	196
アナログ電話機で利用可能なサービス機能	196
アナログ電話機の操作手順	196
6-3 デジタルコードレス電話機 (PHS) の操作	200
デジタルコードレス電話機 (PHS) に特有な機能	200
デジタルコードレス電話機 (PHS) で利用可能なサービス機能	201
デジタルコードレス電話機 (PHS) の操作手順	202
6-4 無線 LAN デュアル端末について	208
6-5 集中受付装置 (DSS) の使い方	210
集中受付装置の各部の名称と説明	210
付録	213
フレキシブルキー機能一覧	214
短縮ダイヤル、電話帳、ワンタッチキー、オートダイヤルキーの機能のちがい	216
用語解説	217
故障かな？とお考えになる前に	223
保証とアフターサービス	224
保証について	224
修理を依頼されるときには	224
おわかりにならないことは	224
ボイスメール操作早見表	225
索引	229

第 1 章 お使いになる前に

1-1 IP OFFICE MX/EX の特長	2
1-2 構成図	4
1-3 主装置について	6
1-4 電話機の各部の名称と説明	8
1-5 電話機のディスプレイの見方	12
1-6 システム管理電話機と一般電話機	15

1 - 1 IP OFFICE MX/EX の特長

IP OFFICE MX/EX は、オフィスの規模や業務に合わせて、多彩なオプションから構築できるビジネスホンシステムです。以下のような特長があります。

● フル IP 対応

- IP 公衆電話直取機能を内蔵しているため、設備を増設することなく、IP 外線の使用を可能にします。通信コストの低減に役立ちます。
- IP 対応 PHS 基地局を使って、PHS 端末を LAN へ統合することが可能です。
- IP 対応の多機能電話機を利用することが可能です。

● モバイル対応

- 無線 LAN デュアル端末を、外出先では携帯電話、社内では内線電話として利用できます。社内も外出先も 1 台の端末で通話可能となり、社内用・外出用で複数の端末を使い分けるわずらわしさを解消します。
- 無線 LAN デュアル端末で社内から社外へ発信するときは、一般電話網が使用されるため、携帯電話としての通話料金が大幅に削減できます。
- 社内から無線 LAN デュアル端末へ発信するときは、相手が社内にいる場合は内線として接続され、外出先にいる場合は携帯電話網経由で接続されます。
※無線 LAN デュアル端末とは、無線 LAN と携帯電話網を利用できる電話機です。IP OFFICE MX/EX では、この電話機を無線 LAN 圏内では内線、無線 LAN 圏外では携帯電話として使用できます。

● VB-F 型デジタル多機能電話機

- IP OFFICE MX/EX 用デジタル多機能電話機として、VB-F 型デジタル多機能電話機が接続できます。
- 無段階に角度調整が可能なバックライト付き漢字対応 4 行ディスプレイにより高い情報視認性を提供します。
 - コマンドナビキーにより、電話帳検索や機能設定を簡単に行うことができます。
 - お客様の使い方にあわせて、12 / 24 キーや、停電対応、カールコードレス等の多彩なラインナップを提供します。

● 充実の電話機能

- オートダイヤル・電話帳・着信音などの設定を、電話機から簡単に操作できます。
- 使い方に応じた多彩な転送機能があります。
- 携帯電話へ発信する際、自動的に事業者識別番号「00xx」を付与するため、特別な操作なしに通信コストの低減化を図れます。
- 識別着信（発信番号を識別して、予め設定された内線番号に着信または着信拒否）が可能です。
- メロディ識別着信（かけてくる相手ごとに着信音を設定）が可能です。（IP OFFICE MX のみ）

● VB-C911A デジタルコードレス電話機

- ハンドオーバー機能により、広い通話エリアでのワイヤレス通話が可能です。

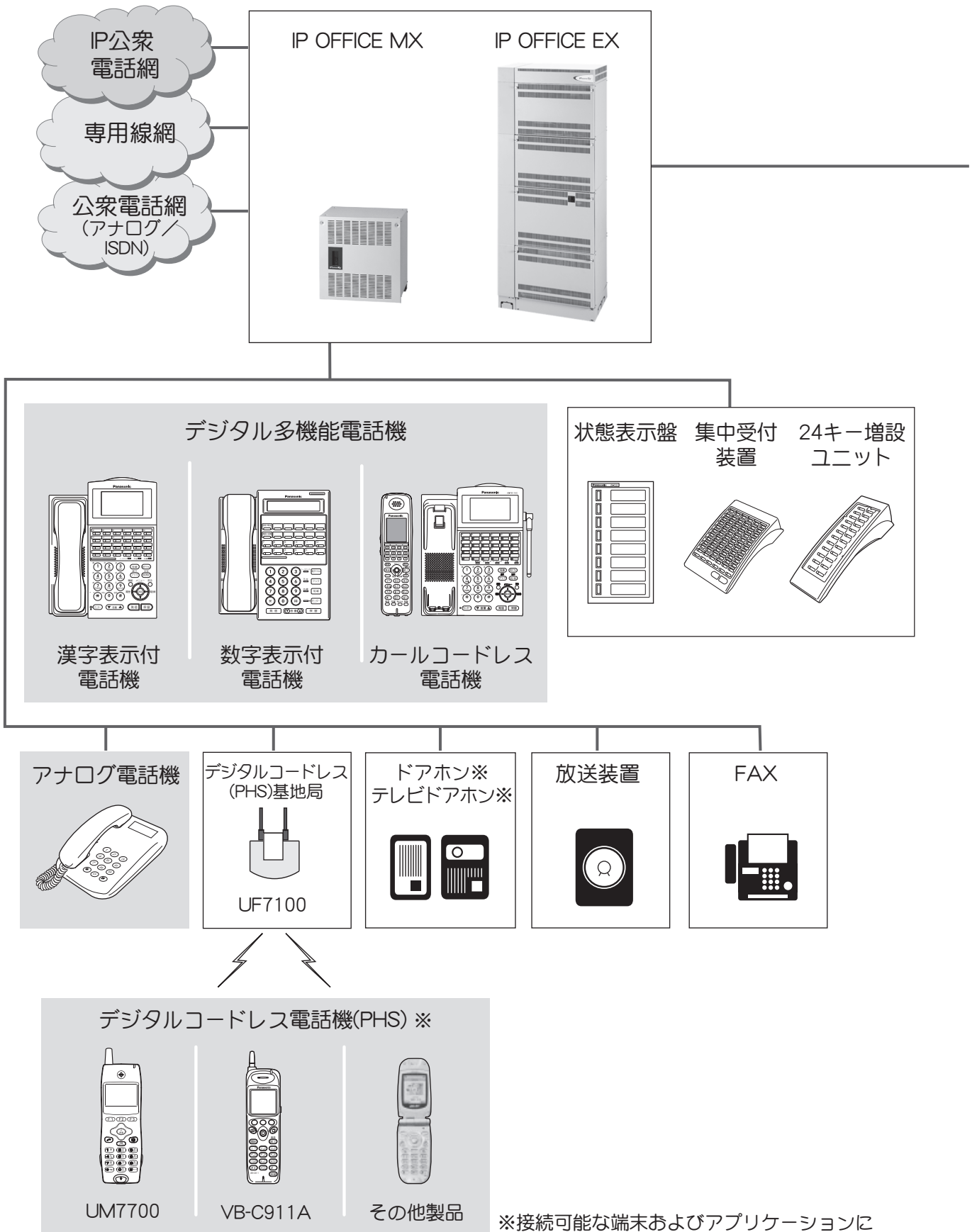
● UM7700 デジタルコードレス電話機

- ハンドオーバー機能により、広い通話エリアでのワイヤレス通話が可能です。
- ダイヤルロック機能を設定できますのでセキュリティに優れています。
- UM7700 デジタルコードレス同士を専用ケーブル（別売品）で接続することで、端末間の電話帳のコピーが簡単にできます。

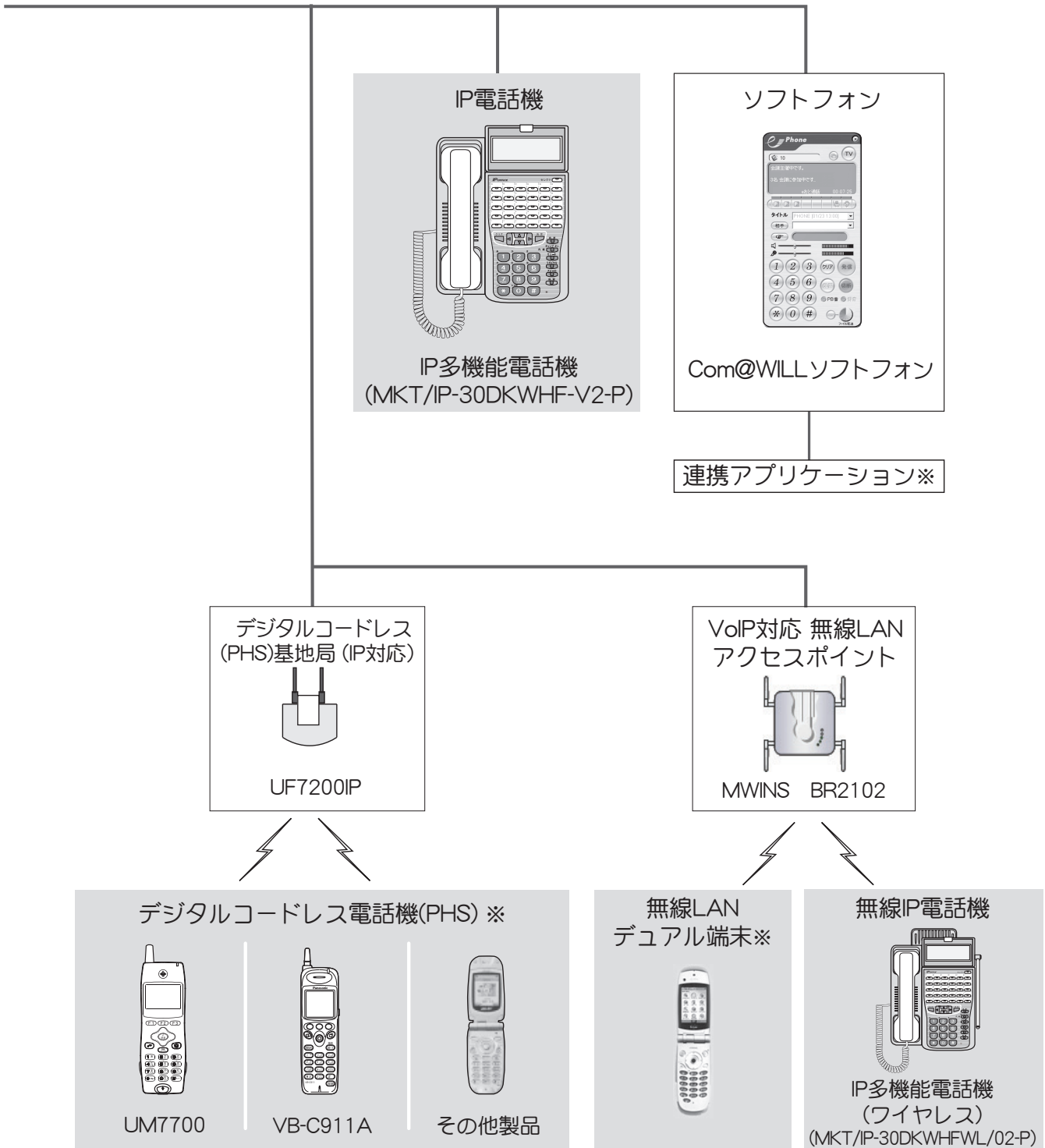
● 本格的なソフトフォン（Com @ WILL ソフトフォン®）の導入と CTI 連携

- ソフトフォンの導入により、小規模な CTI システムで一般的な PC 接続型専用電話機が不要になるため、安価にシステム構築が可能です。
- Com@WILL ソフトフォン（別売）により、4 者間の TV 会議が開催できます。さらに参加者間で資料を共有してビジネスコミュニケーションを効率化できます。

1-2 構成図



※接続可能な端末およびアプリケーションについては、取扱店にお問い合わせください。

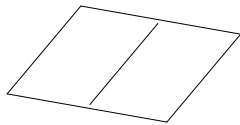


1-3 主装置について

ここでは、主装置（IP OFFICE MX/EX）について説明します。

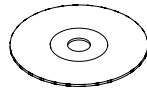
■ 添付品

はじめにお読みください



（保証書含む）

CD-ROM



- はじめにお読みください（PDF）
- IP OFFICE MX/EX 操作説明書（PDF）
- VB-F型 漢字表示付電話機／数字表示付電話機 操作早見表（PDF）
- デジタルコードレス電話機（VB-C911A）操作早見表（PDF）
- デジタルコードレス電話機（UM7700）操作早見表（PDF）
- IP多機能電話機 操作早見表（PDF）

■ 停電について

■ 停電中に一定時間電話の機能を維持する

以下の表のようにオプションのバッテリーを接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけたり、受けたりできます。

主装置には無停電電源装置も接続できます。

装置名	バッテリーの種類	動作時間
IP OFFICE MX	短時間バッテリー	約 10 分
	長時間バッテリー	約 3 時間
IP OFFICE EX	短時間バッテリー	約 10 分
	長時間バッテリー	約 1 時間

※ 動作時間は目安です。システムの構成や使用条件（トラヒック条件など）により異なります。

※ バッテリーは通常使用で3年に1度お取替えください。交換につきましては、お買い上げの取扱店にご相談ください。

■ 停電対応の電話機について

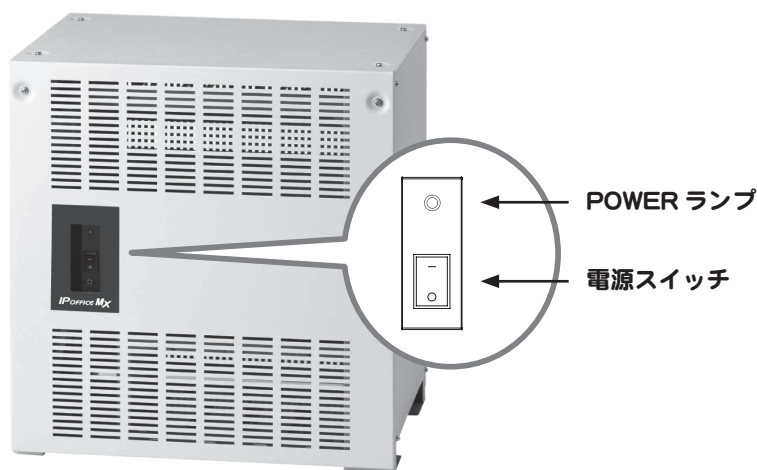
停電時は、停電対応の電話機を接続することにより、通常通り電話をかけたり受けたりできます。

停電対応の電話機としてアナログ電話機、または停電時アナログ回線直結対応の停電用デジタル多機能電話機が使用可能です。

 **メモ** 停電の対策は、取扱店にご相談ください。

IP OFFICE MX の電源スイッチと POWER ランプについて

POWER ランプは電源のオン/オフを表しています。

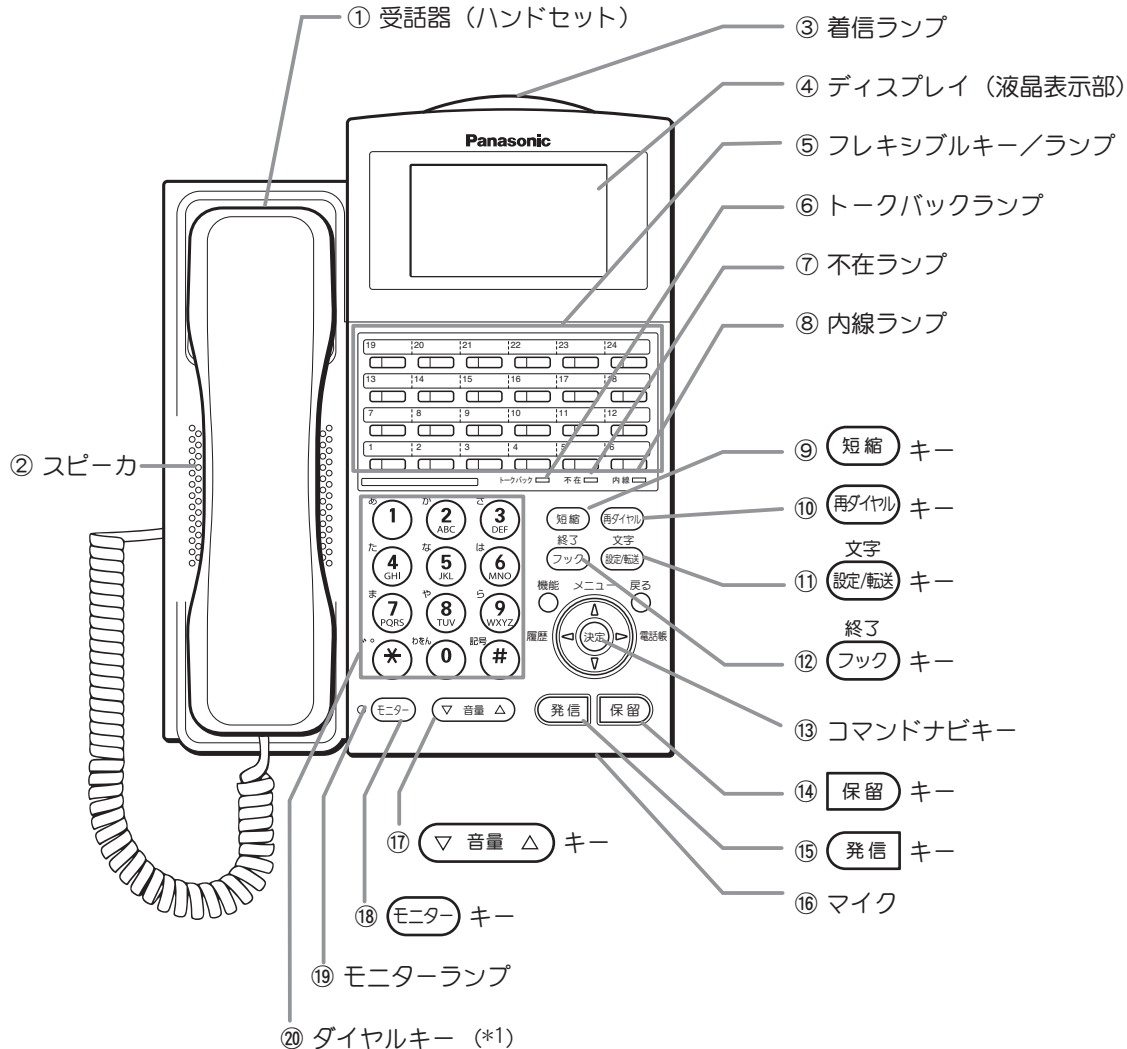


電源の状態	POWER ランプの表示
オン	緑点灯
オフ	消灯

※電源をオフにする前に、データを保護し安全にシャットダウンする必要があります。この場合につきましては取扱店にご相談ください。

1-4 電話機の各部の名称と説明

■ 漢字表示付電話機



(*1)ダイアルキーの斜め上に記載されている「あ」「か」などの小さな文字は、ダイアルキーで文字を入力するときに、各キーに割り当てられている文字（「あ行」「か行」…）を表しています。

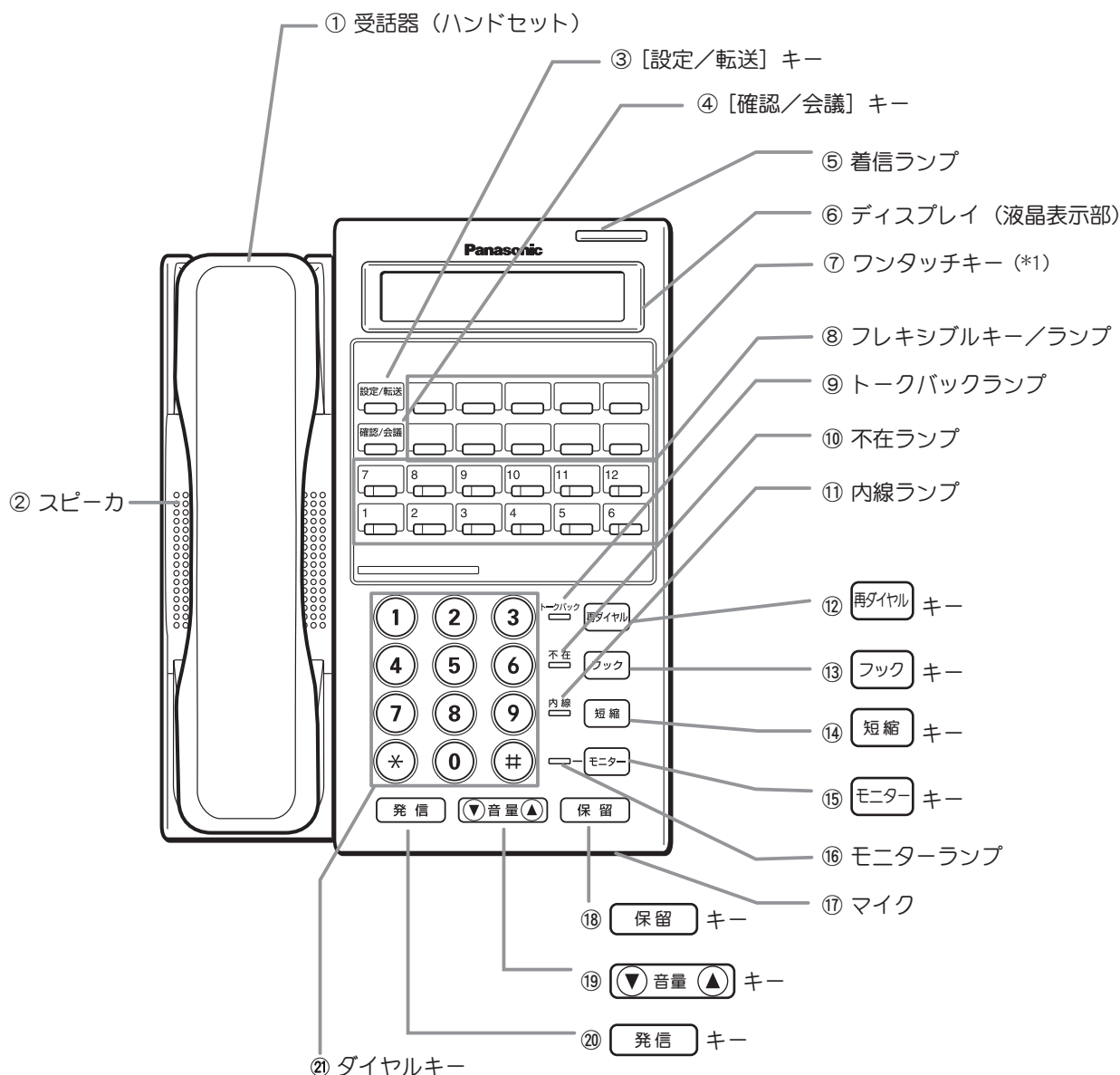
メモ ランプ表示について

ランプ表示は動作状態により点灯または点滅します。点滅には数種類あり、本説明書で記載している点滅表示は次の光り方になります。

- ダブルウインク点滅：
2秒に2回、ランプが短く消える（ウインクする）光り方を示しています。
- ダブルフラッシュ点滅：
2秒に2回、ランプが短く光る（フラッシュする）状態を示しています。
- フラッシュ点滅：
2秒に1回、ランプが短く光る（フラッシュする）状態を示しています。

名称		説明
①	受話器 (ハンドセット)	こちらの声を伝えたり、相手の声を聞くときに使います。
②	スピーカ	着信音を聞いたり受話器を取らずに相手の声を聞くことができます。
③	着信ランプ	個別着信時に点滅します。(グループ着信時は、グループを割り当てたフレキシブルキーが点滅します)
④	ディスプレイ (液晶表示部)	電話機を使うための操作案内や、登録・設定画面などを表示します。
⑤	フレキシブルキー/ランプ	様々な機能を割り当てて使えます。たとえば、外線キーとして設定すると、回線の使用状況を色で判別でき (自分が使っているときは緑、他人が使っているときは赤など)、発信や着信応答にも使用できます。
⑥	トークバックランプ	マイクのオン/オフの状態によりランプが赤く点灯/消灯します。
⑦	不在ランプ	不在設定を有効にしているときに点灯します。
⑧	内線ランプ	内線着信時と内線保留中に点滅、内線通話時に点灯します。
⑨	[短縮] キー	短縮ダイヤルで電話をかけるときに使用します。
⑩	[再ダイヤル] キー	前回発信した番号へワンタッチで発信できます。
⑪	[設定/転送] (文字) キー	通話中のダイヤル転送に使用します。また、文字入力モードの切替にも使用します。
⑫	[フック] (終了) キー	内線呼び出し中に呼び出しをキャンセルすることができます。また設定により、キャッチホン時の通話相手の切替をするために使用したり、ISDN フレックスホンを利用する場合には転送操作に使用します。
⑬	▲▼キー	ディスプレイにメニューを表示しているときは、カーソルを移動して項目を選択するために使います。
	◀▶キー	◀キーを押すと、発信記録/着信記録の履歴表示を表示します。 ▶キーを押すと、電話帳検索画面を表示します。 また、文字入力時、カーソルを移動するときに使用します。
	[決定] キー	ディスプレイに電話帳や短縮ダイヤルなど各種設定を行うメニューを表示します。また、設定の登録/変更の決定に使います。
	[戻る] キー	ディスプレイのメニューで設定した内容を無効にしたり、メニューを終了するときに使います。また、メニューの画面で前の画面に戻るときにも使用します。
	[機能] キー	会議通話、端末設定メニューの表示に使用します。端末設定メニューでは、電話音量やディスプレイ濃度、マイクのオン/オフなどを設定します。
⑭	[保留] キー	通話中に外線や内線を保留するときに使います。
⑮	[発信] キー	外線に電話をかけるときに使用します。
⑯	マイク	スピーカから音声が聞こえて内線で呼び出されたときに、受話器を上げずにマイクに向かって話すことができます。マイクのオン/オフの状態によりトークバックランプが点灯/消灯します。
⑰	[▼音量▲] キー	受話音量など電話機の音量を調節できます。
⑱	[モニター] キー	受話器を取らずに電話を受けたり、かけたりするときに使用します。
⑲	モニターランプ	ランプは、モニターキーを押したときや、電話機で各種設定をしているときに点灯します。
⑳	ダイヤルキー	電話をかけたり、登録や設定のときに使います。

■ 数字表示付電話機



(*1) ワンタッチキーについては、p.93「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。

メモ ランプ表示について

ランプ表示は動作状態により点灯または点滅します。点滅には数種類あり、本説明書で記載している点滅表示は次の光り方になります。

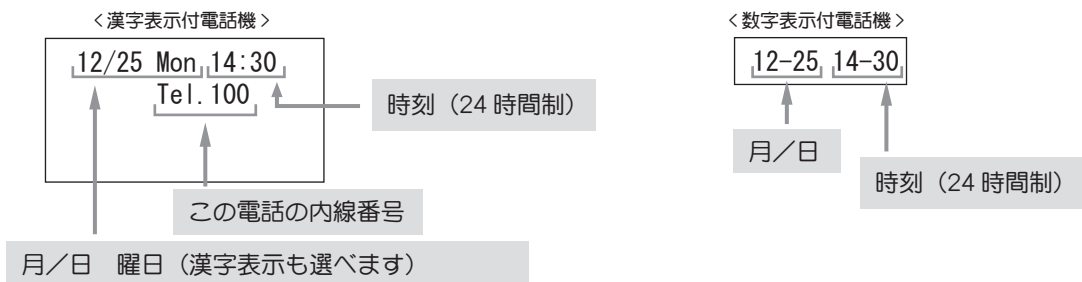
- ダブルウイंक点滅：
2秒に2回、ランプが短く消える（ウイंकする）光り方を示しています。
- ダブルフラッシュ点滅：
2秒に2回、ランプが短く光る（フラッシュする）状態を示しています。
- フラッシュ点滅：
2秒に1回、ランプが短く光る（フラッシュする）状態を示しています。

名称	説明
① 受話器 (ハンドセット)	こちらの声を伝えたり、相手の声を聞くときに使います。
② スピーカ	着信音を聞いたり受話器を取らずに相手の声を聞くことができます。
③ [設定/転送] キー	通話中のダイヤル転送に使用します。
④ [確認/会議] キー	会議通話、端末設定に使用します。端末設定では、電話音量やディスプレイ濃度、マイクのオン/オフなどを設定します。
⑤ 着信ランプ	個別着信時に点滅します。(グループ着信時は、グループを割り当てたフレキシブルキーが点滅します)
⑥ ディスプレイ (液晶表示部)	電話機を使うための操作案内や、登録・設定画面などを表示します。
⑦ ワンタッチキー	電話番号を登録すると、ワンタッチで電話をかけることができます。
⑧ フレキシブルキー/ランプ	様々な機能を割り当てて使えます。たとえば、外線キーとして設定すると、回線の使用状況を色で判別でき (自分が使っているときは緑、他人が使っているときは赤など)、発信や着信応答にも使用できます。
⑨ トークバックランプ	マイクのオン/オフの状態によりランプが赤く点灯/消灯します。
⑩ 不在ランプ	不在設定を有効にしているときに点灯します。
⑪ 内線ランプ	内線着信時と内線保留中に点滅、内線通話時に点灯します。
⑫ [再ダイヤル] キー	前回発信した番号へワンタッチで発信できます。
⑬ [フック] キー	内線呼び出し中に呼び出しをキャンセルすることができます。また設定により、キャッチホン時の通話相手の切替をするために使用したり、ISDNフレックスホンを利用する場合には転送操作に使用します。
⑭ [短縮] キー	短縮ダイヤルで電話をかけるときに使用します。
⑮ [モニター] キー	受話器を取らずに電話を受けたり、かけたりするときに使用します。
⑯ モニターランプ	ランプは、モニターキーを押したときや、電話機で各種設定をしているときに点灯します。
⑰ マイク	スピーカから音声聞こえて内線で呼び出されたときに、受話器を上げずにマイクに向かって話すことができます。マイクのオン/オフの状態によりトークバックランプが点灯/消灯します。
⑱ [保留] キー	通話中に外線や内線を保留するときに使います。
⑲ [▼音量▲] キー	受話音量など電話機の音量を調節できます。
⑳ [発信] キー	外線に電話をかけるときに使用します。
㉑ ダイヤルキー	電話をかけたり、登録や設定のときに使います。

1-5 電話機のディスプレイの見方

ディスプレイの表示は電話の操作によって変化します。各状態で表示される項目について説明します。

● 待機中

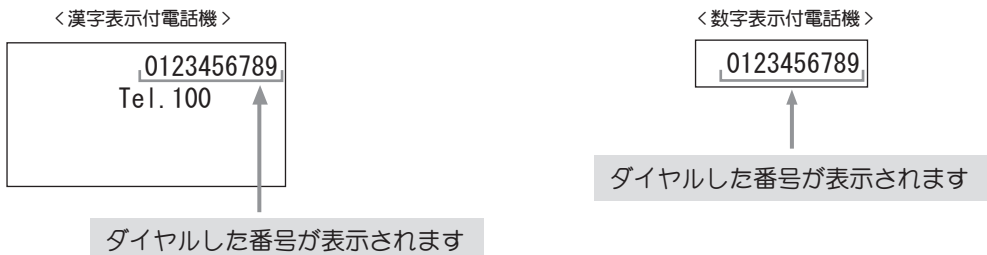


※ 漢字表示の設定については、取扱店にご相談ください。

● 外線にかける

(1) 発信中

■ 電話番号をダイヤルした場合

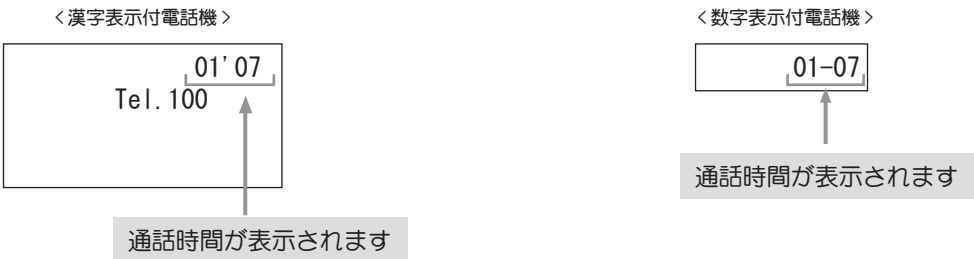


■ 電話帳/短縮ダイヤルを使った場合



※ 相手の名前が電話帳/短縮ダイヤルに登録されている場合は、リダイヤルで電話をかけた場合も名前が表示されます。

(2) 通話中



● 内線にかける

(1) 発信中

<漢字表示付電話機>



ダイヤルした番号が表示されます

<数字表示付電話機>



ダイヤルした番号が表示されます

(2) 通話中

<漢字表示付電話機>



相手の名前と内線番号が表示されます

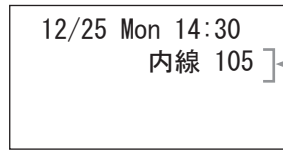
<数字表示付電話機>



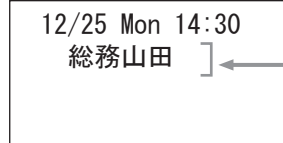
相手の内線番号が表示されます

● 内線から着信したとき

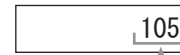
<漢字表示付電話機>



相手の内線番号または
名前が表示されます



<数字表示付電話機>



相手の内線番号が表示されます

※ 内線の名前は各電話機で設定します。詳しくは、p.57「3-5 内線の名前を登録する」を参照してください。

● 外線から着信したとき（発番号なし）

(1) 非通知理由なし

<漢字表示付電話機>



外線の回線番号（トランク番号）が表示されます

<数字表示付電話機>



外線の回線番号（トランク番号）が表示されます

(2) 非通知理由あり

<漢字表示付電話機>



「表示圏外」「通知不可」「公衆電話」「非通知」のいずれかが表示されます

<数字表示付電話機>



外線の回線番号（トランク番号）が表示されます

※ 上記の表示は、一般着信の場合の例です。DGL、DIL、DID 着信をご利用の場合は、画面表示が異なります。

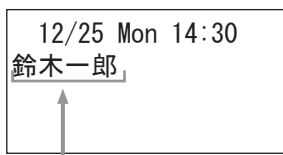
● 外線から着信したとき（発番号あり）

(1) 着信中

■ 電話帳／短縮ダイヤルに名前が登録されている場合

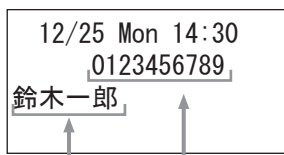
< 漢字表示付電話機 >

(2 段表示)



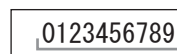
相手の名前が表示されます

(3 段表示)



相手の名前と電話番号が表示されます

< 数字表示付電話機 >

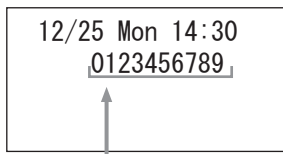


相手の電話番号が表示されます

■ 電話帳／短縮ダイヤルに名前が登録されていない場合

< 漢字表示付電話機 >

(2 段表示)



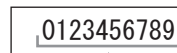
相手の電話番号が表示されます

(3 段表示)



相手の電話番号と回線番号が表示されます

< 数字表示付電話機 >



相手の電話番号が表示されます

※ ディスプレイの表示には、2 段表示と 3 段表示があり、主装置の設定により異なります。設定については取扱店にご相談ください。

(2) 通話中

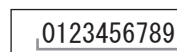
■ 電話帳／短縮ダイヤルに名前が登録されている場合

< 漢字表示付電話機 >



相手の名前が表示されます

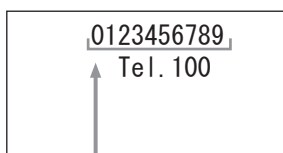
< 数字表示付電話機 >



相手の電話番号が表示されます

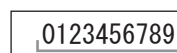
■ 電話帳／短縮ダイヤルに名前が登録されていない場合

< 漢字表示付電話機 >



相手の電話番号が表示されます

< 数字表示付電話機 >



相手の電話番号が表示されます

※ 電話をかけてきた相手の電話番号が、電話帳と短縮ダイヤルの両方に登録されている場合は、短縮ダイヤルの登録内容が優先して表示されます。



メモ

外線から着信したとき、電話番号や名前を表示させるには、ナンバーディスプレイの契約が必要です。

1-6 システム管理電話機と一般電話機

電話機は、工事設定により、システム管理者が使用する電話機とそれ以外の方が使用する電話機に分かれています。

- **システム管理電話機**

システム共通の設定や、データの表示・変更ができます。

- **一般電話機**

自分の電話機についての設定やデータの表示・変更ができます。

それぞれのタイプの電話機から行える機能は、あらかじめ決まっています。たとえば、システムで共通に使用する短縮ダイヤル番号は、システム管理電話機から登録できますが、一般電話機からは登録できません。

ただし、一般電話機に管理者用パスワードを入力することで、一時的にシステム管理電話機と同じ機能を持たせることができます（漢字表示付電話機のみ）。

第2章 電話の基本的な使い方

2-1 電話をかける	18
2-2 電話を受ける	29
2-3 電話を保留する	35
2-4 電話を取り次ぐ	38

2-1 電話をかける

ここでは、外線、内線に電話をかけるときの基本的な操作について説明します。

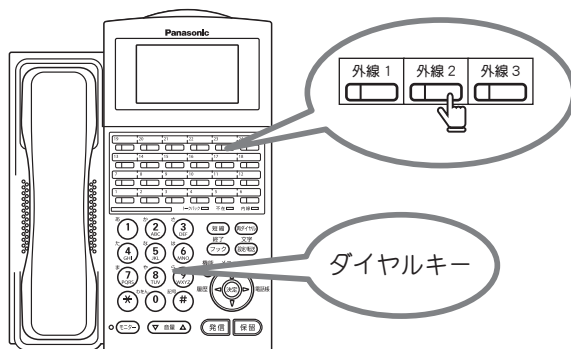
電話をかける相手	説明箇所	
外線	外線にかける	p.18
	外線が空いていないときは	p.20
内線	内線にかける	p.21
	音声で内線呼び出す	p.22
外線／内線	ダイヤルしてから受話器を上げる	p.23
	リダイヤルする	p.24
	電話帳を使って電話をかける（※）	p.25
	履歴を使って電話をかける	p.26
	短縮番号をダイヤルして電話をかける（※）	p.27
	ワンタッチで電話をかける（※）	p.28

（※）：各機能の違いについては、「付録」の p.216「短縮ダイヤル、電話帳、ワンタッチキー、オートダイヤルキーの機能のちがい」を参照してください。

➤ 電話のもっと応用的な使い方は「第4章 電話の便利な使い方」で紹介しています。

■ 外線にかける

受話器を上げてダイヤルします。一般的な外線のかけ方です。



メモ

- 外線キーはフレキシブルキーです。あらかじめ割り当てておく必要があります。
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 外線用のフレキシブルキーのランプがすべて点灯しているときは、その電話機から利用可能な外線がすべて使われています。ランプが消えるまでお待ちください。
- 使用したい外線が使われているとき、発信を予約しておくことができます。この予約操作については、p.20「外線が空いていないときは」を参照してください。

1 受話器を上げる
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 ランプが点灯していない外線キーを押す
 ・使用中の外線キーのランプは赤点灯しています。
 ・外線とつながり、発信音は「ツー」に変わります。
 ・押したキーのランプは緑ダブルウインク点滅します。他の電話機では、同じキーのランプは赤点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルする
相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら受話器を戻す
使用したキーのランプは消灯します。

IP 回線通話時は、こちらが受話器を戻す前でも、相手が受話器を戻したときに、キーのランプが消灯します。



外線に発信できるキー

- 外線キーの代わりに以下のキーを押して外線に発信することもできます。
 - ・ **発信** を押して、相手の電話番号をダイヤル
 - ・ **0** を押して、相手の電話番号をダイヤル（ルート選択発信）
- 社内の部署ごとに、発信のためのキーを割り当てている場合は、各部署に割り当てられたキーの中で空いているキーを押して発信を行います。

例：営業部で

営業部 1	営業部 2	営業部 3
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

 総務部で

総務部 1	総務部 2
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

部署ごとにキーを割り当てる方式の詳細については、p.29「2-2 電話を受ける」の「着信方式について」で説明しています。発信のためのキーについては、「MSA（マルチステーションアクセス）モード」の説明を参照してください。



受話器を上げるだけで外線につながる設定

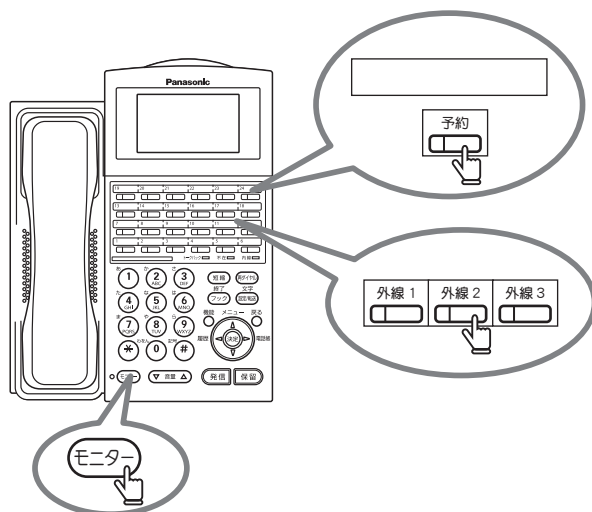
キーを何も押さずに、受話器を上げるだけで外線とつながることができます。この設定は「オフフック外線自動捕捉」といいます。ご利用になるには取扱店への相談が必要です。なお、この設定を行った場合は、内線にかける場合には、**モニター** を押す必要があります。

■ 外線が空いていないときは


(トランクキャンプオン)



外線が空いていない場合の便利な機能を紹介します。
 使用したい外線が使われているとき、この操作を行っておくと、その外線が空いたことを知らせる呼出し音が鳴ります。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「予約」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 外線キーと  はフレキシブルキーです。あらかじめ割り当ておく必要があります。
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例)  

1 外線が空いていない状態で、 を押す

2 使用したい外線キーを押す

 のランプは赤点灯します。

3  を押す

- ・この状態で外線が空くの待ちます。
- ・外線が空くと呼出し音が鳴ります。

4 呼出し音が鳴ったら受話器を上げる

5 相手の電話番号をダイヤルする

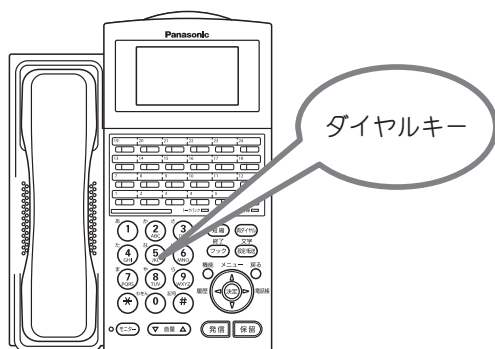
相手が応答すると、通話ができます。

6 通話が終了したら受話器を戻す

使用した外線ランプは消灯します。

■ 内線にかける

受話器を上げてダイヤルします。一般的な内線のかけ方です。



メモ

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **1** の前に **モニター** を押します。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 相手の内線番号をダイヤルする

相手の電話機で名前が登録されている場合は、ディスプレイに相手の所属や名前が表示されます。

総務山田	100
Tel. 105	

内線電話機の名前の登録方法については、p.57「3-5 内線の名前を登録する」を参照してください。

3 通話が終了したら受話器を戻す



こんな内線のかけ方もできる

● ホットライン

受話器を上げるだけで、登録されている内線に電話をかけることができます。

この機能を利用する場合は、取扱店にご相談ください。

● DSS キーを使う

DSS (Direct Station Selection) は、相手の内線をワンタッチのキー操作で呼び出せるようにした機能のことです。フレキシブルキーに割り付けて使用します。

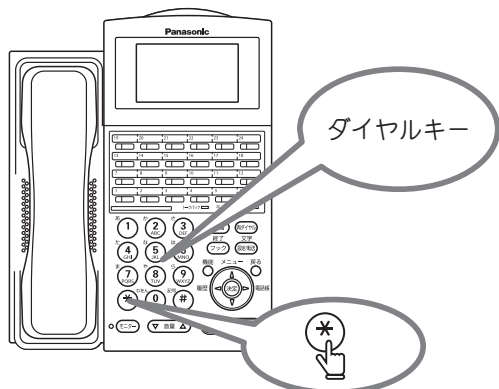
DSS キーは、登録している相手の電話機が使用中のとき点灯するため、相手の電話機が使用中かどうか一目でわかります。

フレキシブルキーに DSS 機能を登録するには、p.90「フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける」を参照してください。

■ 音声で内線呼び出す

(内線音声呼出し)

内線では、電話機の着信音の代わりに、自分の声で相手を呼び出すことができます。



メモ

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **1** の前に **モニター** を押します。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーター」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルする

受話器から「ブルルー」と相手を呼び出す音が聞こえます。

3 * を押す

* を複数回押すことにより、音声での内線呼び出しと着信音での内線呼び出しを交互に切り替えることができます。

4 受話器に向かって、音声で相手を呼び出す

たとえば「田中さん」と呼ぶと、相手の電話機のスピーカから、その音声流れます。相手が応答すると、通話ができます。

音声で呼び出された場合の応答方法については、以下を参照してください。

p.31「内線（音声呼出し）を受ける」

p.32「内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける」

5 通話が終了したら受話器を戻す



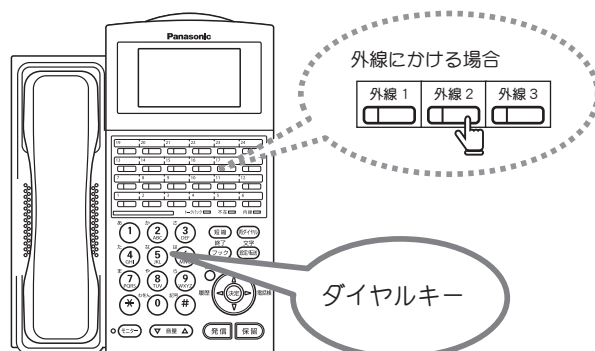
内線の活用方法

内線にはグループ全体を一斉に音声で呼び出したり、呼び出そうとした内線が通話中の場合、その近くの内線を呼び出すなどの便利な使い方があります。詳しくは、p.125「4-8 内線をもっと活用する」を参照してください。

■ダイヤルしてから受話器を上げる

(プリセットダイヤル)

携帯電話のように、電話番号をダイヤルしてから発信操作を行う方法です。内線にかけるときも外線にかけるときも、この方法を使うことができます。この機能を利用するには、取扱店にご相談ください。



1 相手の電話番号をダイヤルする

2 かける相手により、以下のキーを押す

- ・外線にかける場合：
ランプが点灯していない外線キーを押す
- ・内線にかける場合：(モニター) を押す

- ・外線キーは、外線に発信するためのキーです。キー名称はお使いの電話機によって異なります。
- ・外線キーの代わりに、(発信) を押すこともできます。

3 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話する

4 通話が終了したら受話器を戻す



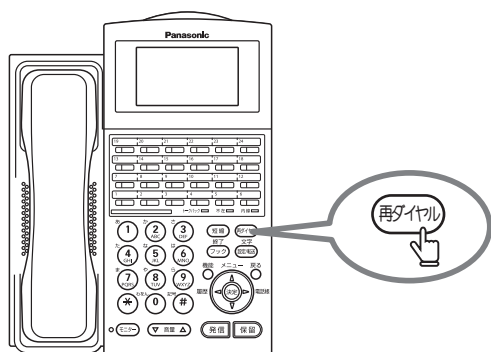
手順 **1** と手順 **2** の順番を逆にしても電話をかけることができます。
その場合は、外線キーの代わりに **0** を押すこともできます。

■ リダイヤルする

(リダイヤル)

最後にかけた電話番号にもう一度かける場合、リダイヤル機能を利用すると便利です。
内線へリダイヤルするには、取扱店にご相談ください。

➤➤ 最後にかけた番号ではなく、もっと前にかけた番号にかかけたい場合は履歴を利用できます。使い方は p.26「履歴を使って電話をかける」を参照してください。



1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げる操作は省略できます。その場合、**再ダイヤル**を押すと、自動的にスピーカ状態になって発信します。

2 **再ダイヤル**を押す

- ・最後にかけた相手に自動的にダイヤルされます。
- ・ディスプレイには電話番号が表示されます。
- ・外線の場合、あらかじめ外線キーを押しておくと、その外線を指定して発信することができます。

123456789
Tel. 105

※相手の名前が電話帳／短縮ダイヤルに登録されている場合は、名前も表示されます。

3 通話が終了したら受話器を戻す



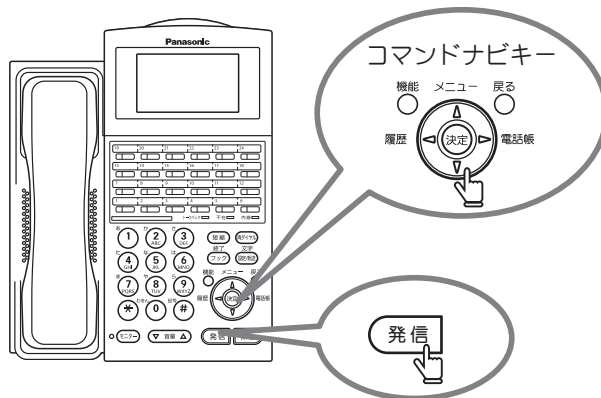
クイックリダイヤル

相手が話中だったのですぐかけ直したいという場合には、受話器を戻すことなく、**再ダイヤル**を押すだけでリダイヤルすることができます。また、フレキシブルキーに[オートリピート]キーを登録しておくと、相手が話中だったとき、[オートリピート]キーを押すことで、相手が応答するまで最大15回発信を繰り返すこともできます (p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照)。

■ 電話帳を使って電話をかける

漢字

相手の電話番号が電話帳に登録されている場合は、電話帳を使って電話をかけることができます。電話帳に電話番号を登録する方法については、p.59「3-6 電話帳を使う」を参照してください。



メモ

電話帳はディスプレイのメニューを使って表示します。
ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

1 電話帳から相手の情報を検索してディスプレイに表示する

電話帳から相手の情報を検索する方法は、下の「電話帳の表示方法」を参照してください。また、詳細な操作については以下を参照してください。

- p.63「電話帳を名前で検索する」
- p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」
- p.65「電話帳をグループで検索する」

	No. 100
外線	HN
	0312345678
鈴木一郎	

2 発信を押す

自動的にダイヤルされます。

	0312345678
鈴木一郎	

相手が外線の場合は、外線キーまたは MSA キーを押して発信することもできます。

3 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話する

4 通話が終了したら、受話器を戻す



電話帳の表示方法

電話機が待受状態のときに、コマンドナビキー  を押すと、電話帳検索画面が表示されます。

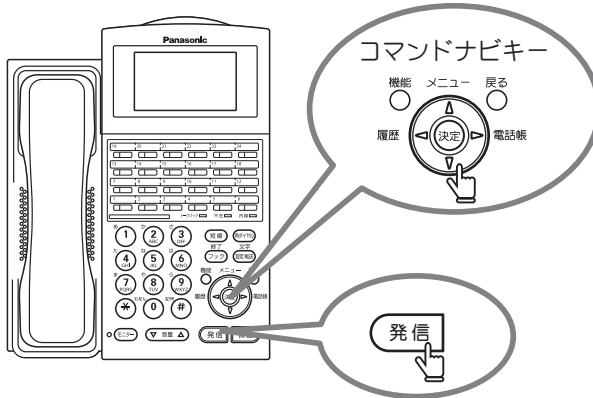
電話帳検索
1: 名前検索
2: メモリ番号検索
3: グループ検索

※パスワードを設定している場合は、この画面が表示される前にパスワード入力画面が表示されます。
詳しい操作については、p.63「電話帳を名前で検索する」、p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」または、p.65「電話帳をグループで検索する」を参照してください。

履歴を使って電話をかける

漢字

これまでに発信／着信した番号（履歴）に電話をかけることができます。



メモ

履歴はディスプレイのメニューを使って表示します。
ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

1 履歴から相手の情報を検索してディスプレイに表示する

履歴から相手の情報を検索する方法は以下を参照してください。

- p.69「発信記録を表示する」
- p.71「着信記録を表示する」

発信記録	01
01/15 13:45 外線	
	0312345678
鈴木一郎	

2 発信を押す

自動的にダイヤルされます。

0312345678
鈴木一郎

相手が外線の場合は、外線キーまたは MSA キーを押して発信することもできます。

※ 発信記録からは、この操作では発信できません。

3 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話する

4 通話が終了したら、受話器を戻す




履歴の表示方法

電話機が待受状態のときに、コマンドナビキー  の  を押すと、履歴表示画面が表示されます。

履歴表示
1: 発信記録
2: 着信記録
3: 着信記録(グループ)

※パスワードを設定している場合は、この画面が表示される前にパスワード入力画面が表示されます。

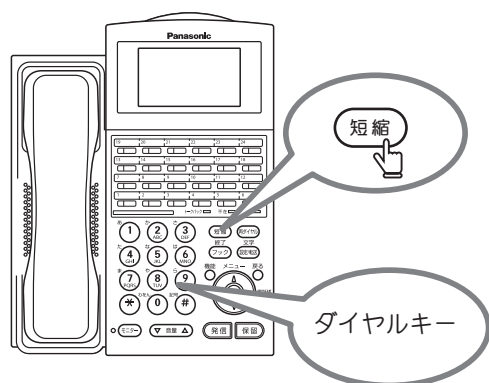
※最新の発信記録または着信記録を表示したあとは、 を押してもっと古い履歴を表示することもできます。

※内線の発信記録の表示については取扱店にご相談ください。なお、内線の着信記録は表示できません。

■ 短縮番号をダイヤルして電話をかける

相手の短縮番号を知っている場合は、この方法で電話をかけることができます。短縮番号には外線も内線も登録することができます。

- 短縮番号の登録はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行うことができます。短縮番号の登録方法については、p.79「短縮ダイヤルを登録する」を参照してください。



1 受話器を上げる

受話器から「ツーター」と発信音が聞こえます。

2 短縮を押す

ディスプレイに短縮番号の入力をうながすメッセージが表示されます。

(数字表示付電話機では表示されません。)

3 短縮番号 (たとえば“123”) をダイヤルする

- ・ 電話番号を表示すると同時に、自動的にダイヤルされます。
- ・ 相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

< 漢字表示付電話機 >

短縮 No:
Tel. 100

短縮 No:123
Tel. 100

田中太郎 1234567890
Tel. 100

< 数字表示付電話機 >

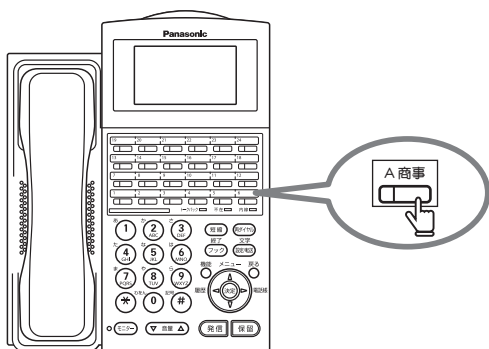
0123456789

- 登録されている短縮番号は、ディスプレイのメニューから検索して確認することができます。詳しくは p.76「3-8 短縮ダイヤルを使う」を参照してください。

■ワンタッチで電話をかける

(オートダイヤル)
オートダイヤル機能を登録したフレキシブルキーや、オートダイヤル機能を持つワンタッチキーに電話番号を割り当てると、そのキーを押すだけで電話番号がダイヤルされます。オートダイヤルには外線も内線も登録することができます。

▶▶ フレキシブルキーにオートダイヤルを登録する方法については、p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。ワンタッチキーに電話番号を割り当てる方法については、p.93「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話番号を登録したフレキシブルキーやワンタッチキーには、相手先の名称を書いておくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 オートダイヤルキーやワンタッチキー (たとえば) を押す

- ・電話番号がダイヤルされます。
- ・相手が応答すると通話ができます。

3 通話が終了したら受話器を戻す

ワンタッチキーは数字表示付電話機でのみ使用できません。

2-2 電話を受ける

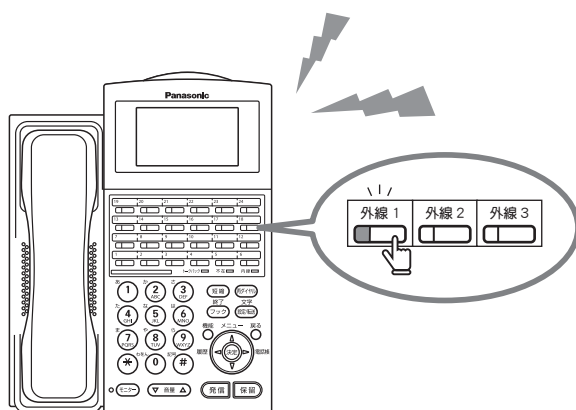
ここでは、外線（または専用線）、内線からの電話を受ける方法を説明します。外線と内線の区別は、点灯するランプや着信音の違いで判断することができます。以下の表を参考にし、対応する説明をお読みください。

電話機から聞こえる音	説明箇所	
外線着信音が鳴り、かかってきた回線のキーが赤速い点滅する	外線を受ける	p.29
内線着信音が鳴る	内線（着信音）を受ける	p.31
スピーカから人の声がする	内線（音声呼出し）を受ける	p.31
	内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける	p.32
外線着信音、内線着信音でもない着信音がする	特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける	p.32
通話中に「プップッ プップッ」という音がする	キャッチホンの電話を受ける	p.34

■ 外線を受ける

（任意外線応答）

外線から電話がかかってくると外線着信音が鳴り、かかってきた外線キーのランプが赤速い点滅します。外線着信音は、お使いの電話機の設定によって異なる場合があります。



メモ

- 外線キーはフレキシブルキーです。あらかじめ割り当てておく必要があります。
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 外線自動応答が設定されている電話機では、受話器を上げるだけで相手と通話できます。

電話機の設定については、取扱店にご相談ください。

1 着信音が鳴ったら、受話器を上げる

2 点滅している外線キーを押す

- ・ 通話ができる状態になります。
- ・ 外線ランプは、赤速い点滅から緑ダブルウィンク点滅に変わります。

3 相手と通話する

4 通話が終了したら受話器を戻す

使用した外線ランプは消灯します。

着信方式が DGL モード（次ページの説明参照）の場合は、通話中、再度着信があると同一ランプが点滅し、他の電話機で応答できます。

IP 回線通話時は、こちらが受話器を戻す前でも、相手が受話器を戻したときに、外線ランプが消灯します。



着信方式について

内線を任意のグループ（部署）に分け、それぞれのグループの応答キーを設定できます。ダイヤルイン番号の着信先を応答キーに割り当てておけば、どのグループへの着信か一目でわかるうえ、そのキーを押すと応答もできます。これらの機能をご利用になる場合は取扱店にご相談ください。

● DGL（ダイレクトグループライン）モード

グループに着信があると、割り当てられた応答キーのランプが点滅します。通話中に再度着信しても同じランプが点滅し、グループ内の他の電話機で応答できます。



● MSA（マルチステーションアクセス）モード

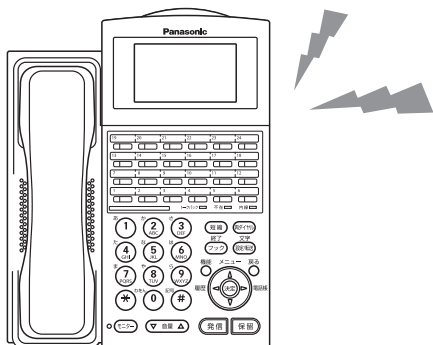
グループに着信があると、割り当てられた複数の応答キーのうち、空いているキーのランプが点滅します。発信や保留も同じキーで行えます。また、電話機操作によって応答キーごとの着信規制／解除ができます。



この機能が設定されている場合は、自部門に割り当てられたキーを押して発信／応答を行います。マルチステーションアクセスでは、割り当てたキーごとに契約した番号を発信番号として通知する機能があります。

■ 内線（着信音）を受ける

内線は、着信音でかかってくる場合と、音声呼出しでかかってくる場合があります。ここでは、内線着信音が鳴った場合の内線の受け方を説明します。内線着信音は、お使いの電話機の設定によって異なる場合があります。



1 着信音が鳴ったら、受話器を上げる

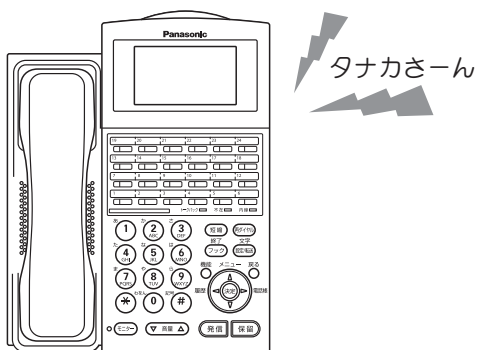
通話ができる状態になります。

2 相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

■ 内線（音声呼出し）を受ける

スピーカから音声が聞こえて呼び出されたときは、次のように操作します。



メモ

設定によっては音声が聞こえる前に「ピピッ」と予告音が鳴ります。予告音の、鳴らす（オン）／鳴らさない（オフ）の設定については、p.184「予告音のオン／オフを切り替える」を参照してください。

1 スピーカから音声が聞こえたら、受話器を上げる

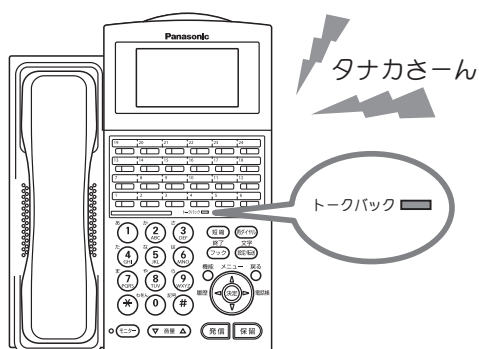
通話ができる状態になります。

2 相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

■ 内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける

スピーカから音声聞こえて呼び出されたときは、受話器を上げずにマイクに向かって話すことでも通話できます。



1 スピーカから音声聞こえたら、マイクに向かって話す

【トークバック】ランプが赤点灯している状態が、マイクでの通話ができる状態です。

3 通話が終了したら **モニター** を2回押す

メモ

- 受話器を上げずに受けるには、あらかじめマイクをオンにしておく必要があります。設定方法については、p.183「マイクのオン/オフを切り替える」を参照してください。
- マイクのオン/オフは音声呼出中に切替えるできません。
- 設定によっては音声聞こえる前に「ピピッ」と予告音が鳴ります。予告音の、鳴らす（オン）／鳴らさない（オフ）の設定については、p.184「予告音のオン/オフを切り替える」を参照してください。

■ 特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける

(DIL / 付加番号 DID 着信)

普通の外線や内線とは違う着信音（たとえば「プルプル」）が鳴り、着信ランプが表示されるのは、以下の着信があった場合です。

- DIL（ダイレクトインライン）
- PBXダイヤルイン
- 付加番号 DID

このような着信の場合は、受話器を上げるだけで通話ができる状態になります。

各着信方式については、次ページの説明を参照してください。また、着信音はお使いの電話機の設定によって異なる場合があります。



1 ディスプレイの表示を確認する

2段目に「DIL nnn」または「DID nnn」と表示されます。(nnnは回線番号(トランク番号))

※数字表付電話機では、トランク番号または発信者の電話番号が表示されます。

12/25 Mon 14:30
DID nnn

2 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

3 相手と通話する**4 通話が終了したら受話器を戻す**

使用した外線ランプは消灯します。

➤ ドアホンから着信した場合は、上記とは異なる「ピンポーン」という着信音になります。ドアホンについては、p.192「6-1 周辺機器との接続」を参照してください。

**着信方式について**● **DIL (Direct-In-Line) 方式**

個別着信方式ともいいます。

外線ごとに着信させる内線を決めて使用する方式です。

● **PBX ダイヤルイン方式**

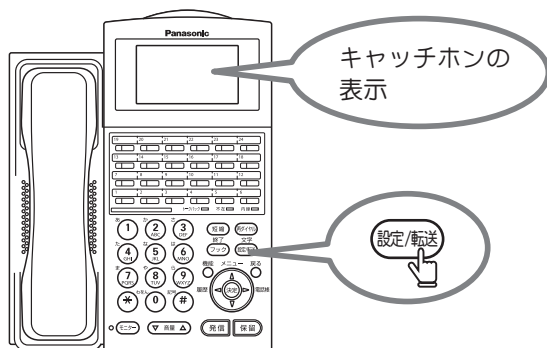
利用する通信事業者とダイヤルイン契約を行うことで、電話回線の数よりも多くの電話番号(ダイヤルイン番号)を持つことができます。ダイヤルイン番号をそれぞれの内線に割り当てて、オフィス内の一人ひとりの電話機を呼び出すことができます。

● **付加番号 DID 方式**

通信事業者とダイヤルイン契約を行わずに、オフィス内の一人ひとりの電話機を呼び出すことができます。DID専用の代表番号をダイヤルし、音声メッセージに従って内線番号をダイヤルするだけで、目的の相手を直接呼び出せます。

■ キャッチホンの電話を受ける

外線または内線と通話中に他の内線から着信があると、「キャッチホン」の信号が聞こえ、ディスプレイに「CWT」と表示されます。通話中の相手を一時保留し、着信の相手と通話できます。この機能を利用するには、取扱店にご相談ください。



メモ
 設定/転送 を押す操作を繰り返すことにより、2つの相手と交互に通話できます。

1 キャッチホンの信号が聞こえたら、ディスプレイの表示を確認する
 ディ스플레이の2段目に『CWT（割り込み先内線）』と表示されます（数字表示付電話機では表示されません）。

総務 1 100
 CWT200

2 通話中の相手に保留することを伝え
 設定/転送 を押す

- かかってきた内線電話とつながります。
- 通話中だった相手には、保留音（メロディー）が聞こえます。
- 内線ランプが赤ダブルウインク点滅します。

3 前の相手に戻るときは、設定/転送 を押す
 相手が受話器を戻すまでは、設定/転送 で繰り返し相手を変えて通話できます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

2-3 電話を保留する

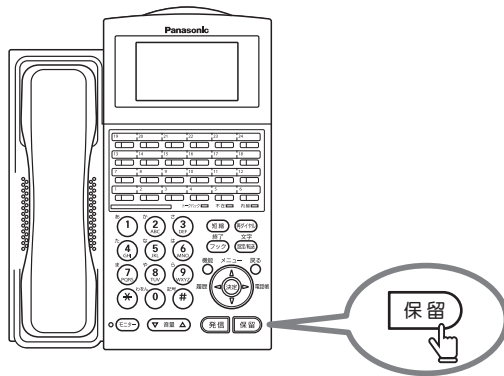
通話中の相手に一時お待ちいただく場合は、電話を保留にします。保留を解除すると通話を再開できます。保留には、それを解除できる電話機の範囲によって次の3種類があります。

保留の種類	解除できる電話機	説明箇所	
保留 (回線保留)	すべての電話機	外線からの電話をすべての電話機で取れるように保留する	p.35
自己保留	保留した電話機のみ	他の電話機で取れないように保留する	p.36
パーク保留	保留した電話機と同じグループの電話機のみ	グループの中だけで取れるように保留する(外線/内線)	p.37

■ 外線からの電話をすべての電話機で取れるように保留する

(回線保留)

外線からの電話を他の人に取り次ぐ場合や、自分が移動して他の電話機で通話を再開したいときなどは、この方法で保留します。



1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 保留を押して、受話器を置く

- ・ 保留を押すと、受話器は「ツーター」の発信音に変わります。
- ・ 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。
- ・ 保留した外線キーのランプは緑遅い点滅します。他の電話機では、該当する外線キーのランプは赤遅い点滅します。

3 再度通話するときは、点滅している外線キーを押す

保留した電話機でも、他の電話機でも、通話を再開できます。

4 受話器を上げて通話する

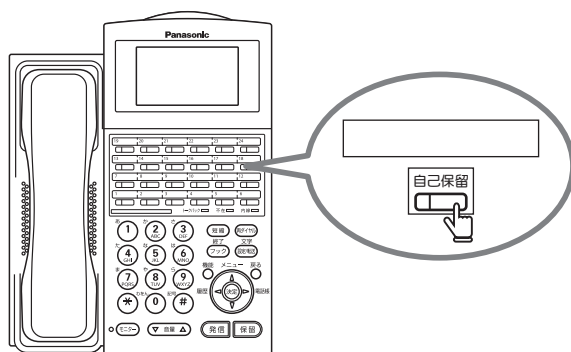
5 通話が終了したら受話器を戻す

■ 他の電話機で取れないように保留する

(自己保留)

保留した電話機以外では、保留の解除ができないようにすることができます。
他の電話機から保留を解除されたくない場合にこの方法を使用します。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「自己保留」キーを登録しておく必要があります。
フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例)

保留

自己保留

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 | | |------| | 自己保留 | |------| を押して、受話器を置く

- | |
|------|
| 自己保留 |
|------|

を押すと、受話器は「ツーター」の発音音に変わります。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。
- | |
|------|
| 自己保留 |
|------|

のランプは緑遅い点滅します。
- 外線を保留した場合は、その外線ランプは緑遅い点滅します。

3 再度通話するときは、 | | |------| | 自己保留 | |------| を押す

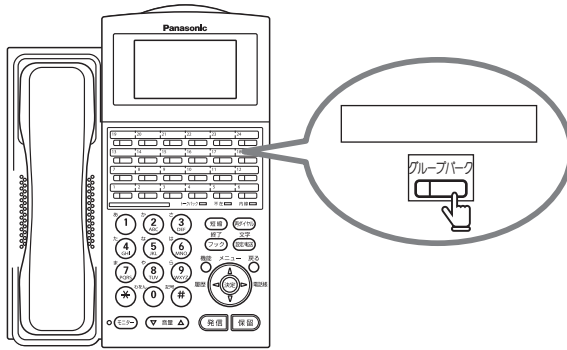
4 受話器を上げて通話する

5 通話が終了したら受話器を戻す

他の電話機からは、保留を解除できません。

■ グループの中だけで取れるように保留する

(パーク保留)
 パーク保留（グループパーク保留）は、目的に合わせてグループを設定し、そのグループ内の電話機で保留と解除ができるようにした機能です。グループの設定については取扱店にご相談ください。また、この機能を利用する場合は、フレキシブルキーに「グループパーク」キーを登録しておく必要があります。「グループパーク」キーの登録についても、取扱店にご相談ください。



メモ



- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものとは異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例) **グループ保留**



1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 を押して、受話器を置く

-  を押すと、受話器は「ツーター」の発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。
-  のランプは緑遅い点滅します。
- 外線を保留した場合は、その外線ランプは赤点灯します。

3 再度通話するときは、 を押す

グループ外の電話機からは、保留を解除できません。

4 受話器を上げて通話する

5 通話が終了したら受話器を戻す



システムパーク保留とグループパーク保留

パーク保留には、グループ内からの電話機からのみ保留を解除できる機能である「グループパーク保留」のほかに、グループ外の電話機からでも保留を解除できる機能「システムパーク保留」もあります。

外線からの電話をすべての電話機から取れるようにしたい場合は、システムパーク保留を使って保留します。

システムパーク保留を利用するには、フレキシブルキーに「システムパーク」キーを登録しておく必要があります。「システムパーク」キーの登録については、取扱店にご相談ください。

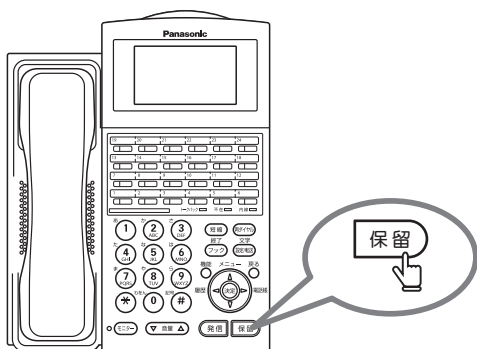
2-4 電話を取り次ぐ

外線からかかってきた電話を内線や外線に取り次ぐ方法を説明します。ここでは、以下の5つの取次ぎ方を説明します。

説明箇所	
保留したあと口頭で取り次ぐ	p.38
転送先の内線と話してから取り次ぐ	p.39
転送先の内線と話さずに取り次ぐ	p.40
かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する	p.41
かかってきた電話を外線に転送する	p.43

■ 保留したあと口頭で取り次ぐ

外線からの電話を受けたら、いったん通話を保留します。取り次ぐ人に口頭で伝えてその人に保留を解除してもらう方法です。



メモ

あらかじめ外線キー/ランプ（フレキシブルキー）を割り当てておく必要があります。外線キー/ランプの割り当てについては、取扱店にご相談ください。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 保留を押して、受話器を戻す

- ・受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ・内線ランプは赤点灯します。
- ・外線ランプは緑遅い点滅します。
- ・保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 口頭で呼びかけて用件を伝える

例) 「タナカさん。××さんから外線○番にお電話です。」

転送される人の操作

1 受話器を上げて、赤遅い点滅している外線キーを押す

- ・通話ができる状態になります。
- ・外線ランプは緑ダブルウイंकに変わります。

2 つながった外線の相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

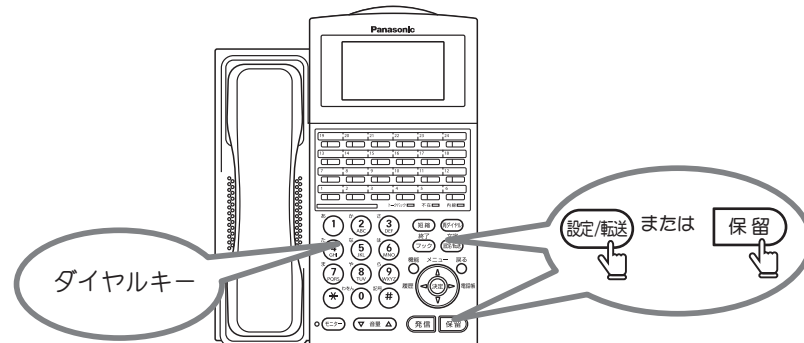
メモ

長時間保留のままにしておくと「プー・・・、プー・・・」という警告音が鳴ります。

■ 転送先の内線と話してから取り次ぐ

(ダイヤル転送)

外線からの電話を受けたら、それを内線に転送できます。その際、転送先の人と話してから外線と転送先をつなぐ方法です。



▶▶ **保留** を押して取り次ぐ場合は設定が必要です。設定については、取扱店にご相談ください。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 **設定/転送** または **保留** を押す

設定/転送 のとき：

- ・受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- ・内線ランプは赤ダブルウインク点滅します。
- ・外線ランプは緑ダブルウインク点滅のままです。
- ・保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

保留 のとき：

- ・受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ・内線ランプは赤点灯します。
- ・外線ランプは緑遅い点滅します。
- ・保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

短縮ダイヤル、オートダイヤルなども使えます。

4 転送先に用件を伝える

例) 「××さんからのお電話を転送します。」

5 受話器を戻す

転送される人の操作

(内線着信音が鳴る)

1 受話器を上げて内線を受け、用件を聞く

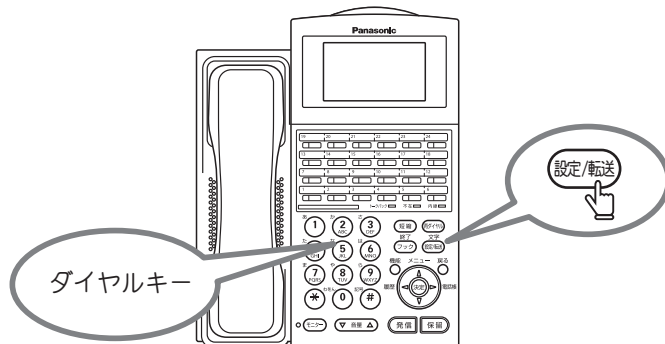
2 転送された外線につながるので、相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

■ 転送先の内線と話さずに取り次ぐ

(キャンプオンラインング)

外線／内線からの電話を、内線で用件を伝えずにそのまま転送する方法です。



➤➤ この機能を使用するには、取扱店にご相談ください。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に、転送するため待つていただくよう伝える

たとえば、「担当部署にお回ししますので、そちらでご確認お願いいたします。」

2 設定/転送を押す

- ・ 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- ・ 内線ランプは赤ダブルウインク点滅します。
- ・ 外線ランプは緑ダブルウインク点滅のままです。
- ・ 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

- ・ 短縮ダイヤル、ワンタッチキーなども使えます。
- ・ 内線の呼出し音を確認します。

4 受話器を戻す

転送される人の操作

(着信音が鳴る)

1 受話器を上げて、つながった相手と通話する

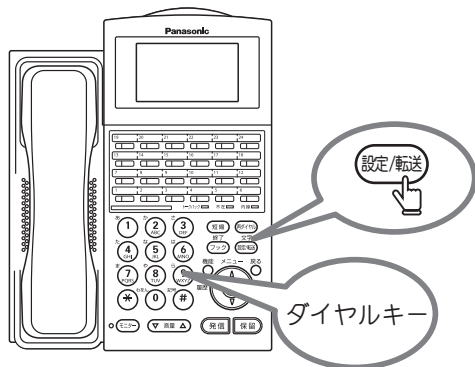
2 通話が終了したら受話器を戻す

メモ 相手が応答しない場合は、呼び返しとなり画面に「呼び返し」と表示されて電話が鳴ります。

■ かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する

(チェンジオーバー)

電話をかけてきた人と、転送先の人と交互に通話することができます。



メモ

設定/転送を押す操作を繰り返すことにより、2つの相手と交互に通話できます。

なお、保留による通話の切り替えはできません。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 設定/転送を押す

- ・受話器は「ツツツツ」の発音音に変わります。
- ・内線ランプは赤ダブルウインク点滅します。
- ・外線ランプは緑ダブルウインク点滅のままです。
- ・保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

短縮ダイヤル、ワンタッチキーなども使えます。

4 転送先に用件を伝える

例) 「タナカさんに、××さんからお電話です。」

5 設定/転送を押して、かかってきた相手と再び通話する

例) 「申し訳ありません。タナカはただ今、席をはずしております。ご用件をお伺いします。」

6 設定/転送を押して、転送先との通話を再開して用件を伝える

- ・以降も設定/転送を押す操作を繰り返すことで、転送先とかかってきた相手と交互に通話ができます。
- ・受話器を戻すと、かけてきた相手と転送先がつながります。

転送される人の操作

(内線着信音が鳴る)

1 受話器を上げて用件を聞く

2 たとえば、発信元にどのような用件が聞いて欲しいと返答する



(保留音が聞こえている)

3 保留が解除され、内線がつながるので、用件を聞く




こんなこともできる

- 3人で会話

転送する人が  (漢字表示付電話機) または  (数字表示付電話機) を押すと、発信元と転送先との3者会議通話ができます。詳しくは、p.122「4-7 3人以上で通話する」を参照してください。

- 2本の外線と交互に通話する

外線から外線へ転送する際にも、 を押す操作を繰り返すことにより、2つの相手と交互に通話できます。

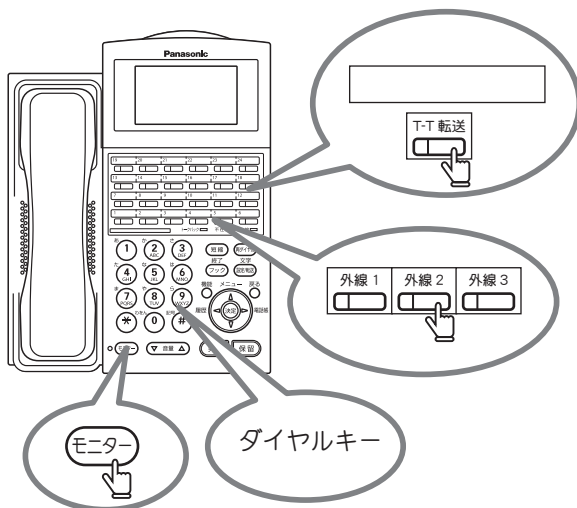
外線へ転送する方法については、p.43「かかってきた電話を外線に転送する」を参照してください。

■ かかってきた電話を外線に転送する

かかってきた電話を、空いている外線を使って他の外線に転送することができます。



この機能を利用するには、フレキシブルキーに「指定外線転送」キー（「T-T 転送」キー）を登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例) 指定外線転送



※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に、外線に転送するので待っていただくよう伝える

2 **設定/転送** を押す

- ・受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- ・内線ランプは赤ダブルウインク点滅します。
- ・外線ランプは緑ダブルウインク点滅のままです。
- ・保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 空いている外線キーを押す

ランプが点灯していない外線キーを押します。

4 転送先の電話番号をダイヤルする

短縮ダイヤル、オートダイヤルなども使えます。

5 転送先に用件を伝える

例) 「××さんからのお電話を転送します。」

転送される人の操作

(転送先の電話機の着信音が鳴る)

1 受話器を上げて用件を聞く

6  **を押す**

- かかってきた相手と転送先が通話状態となります。
- 使用中の外線ランプは赤点灯となります。

7 **受話器を戻す**

2 **外線につながるので、相手と通話する**

3 **通話が終了したら受話器を戻す**



自動転送もできる

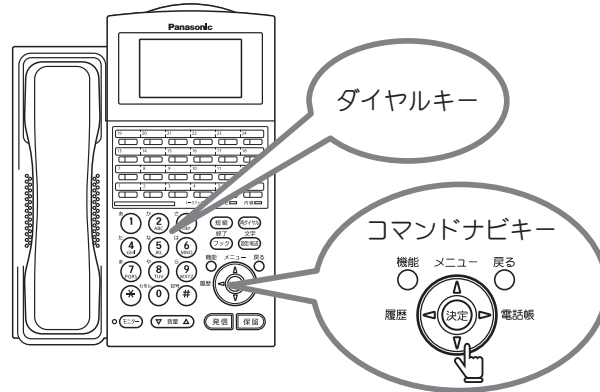
席を離れるときなど、かかってきた電話をあらかじめ指定した電話に自動転送させることができます。自動転送機能については、p.96「4-1 不在時に他の電話へ転送する」、p.107「4-3 指定した外線を別の外線へ転送する」を参照してください。

第3章 ディスプレイのメニューの使い方

3-1 メニューを操作するためのキー	46
3-2 文字入力方法	47
3-3 メニュー項目について	52
3-4 パスワードを設定する	53
3-5 内線の名前を登録する	57
3-6 電話帳を使う	59
3-7 履歴を使う	69
3-8 短縮ダイヤルを使う	76
3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける	85
3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する	93

3-1 メニューを操作するためのキー

漢字表示付電話機では、ディスプレイにメニューを表示して、電話帳や履歴を表示したり、短縮ダイヤルやフレキシブルキーを登録することなどができます。ここでは、ディスプレイのメニューを操作するためのキーについて説明します。
メニューを操作するときには使用するの、コマンドナビキーとダイヤルキーです。



■ コマンドナビキー

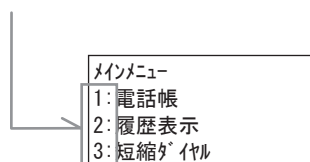
キー	操 作
	<ul style="list-style-type: none"> 待受状態のとき、このキーを押すと、メインメニューが表示されます。(※) メニューで行った設定を登録/変更/決定するときには押します。
	<ul style="list-style-type: none"> 待受状態のとき、このキーを押すと、メインメニューが表示されます。(※) メニュー内の項目を選択するためにカーソルを移動するときには押します。 検索結果が複数ある場合、検索結果を順番に表示するときには押します。
	<ul style="list-style-type: none"> メニュー内の項目を選択するためにカーソルを移動するときには押します。 検索結果が複数ある場合、検索結果を順番に表示するときには押します。
	<ul style="list-style-type: none"> 待受状態のとき、このキーを押すと、発信記録/着信記録の履歴表示メニューを表示します。(※) 文字入力時、カーソルを移動させる場合に押します。
	<ul style="list-style-type: none"> 待受状態のとき、このキーを押すと、電話帳検索メニューが表示されます。(※) 文字入力時、カーソルを移動させる場合に押します。
機能	<ul style="list-style-type: none"> 待受状態のとき、このキーを押すと、電話機の音量やディスプレイの設定などを行う端末設定メニューが表示されます。
戻る	<ul style="list-style-type: none"> 1つ前のメニューに戻るときには押します。 入力した文字を1文字削除するときには押します。

(※)：パスワードを設定している場合は、先にパスワード入力画面が表示されます。

■ ダイヤルキー



メニュー内の項目を番号で選択するときには使用します。



メモ

メニュー内の項目を 、 で選択する場合は、カーソル移動後に を押しますが、ダイヤルキーで選択する場合は、ダイヤルキーを押すだけでその項目が選択され、次の画面に移ります。


3-2 文字入力方法

漢字表示付電話機のメニューを使った操作では、電話帳の名前を登録するなど、文字入力が必要な場合があります。ここでは、文字入力の操作について説明します。

■ 入力モードとキーの割り当て

漢字

各ダイヤルキーには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、キーを押した回数により表示文字が切り替わります。また、入力モードによって、各キーで入力できる文字が変わります。

例：かなモードで  を続けて押したときに表示される文字

押した回数 : 1回 → 2回 → 3回 → 4回 → 5回 → 6回・・・
表示される文字 : か → き → く → け → こ → か・・・

文字入力時には、漢字、ひらがな、カタカナ（全角）、英数字（全角）を入力することができます。各ダイヤルキーで入力できる文字と、文字入力時に使用するキーについて、下表に示します。

キー	入力モード			
	かなモード	カナモード	英字モード	数字モード
 1	あいうえおあいうえお	アイウエオアイウエオ	@. / _	1
 2 ABC	かきくけこ	カキクケコ	a b c A B C	2
 3 DEF	さしすせそ	サシスセソ	d e f D E F	3
 4 GHI	たちつとっ	タチツテトツ	g h i G H I	4
 5 JKL	なにぬねの	ナニヌネノ	j k l J K L	5
 6 MNO	はひふへほ	ハヒフヘホ	m n o M N O	6
 7 PQRS	まみむめも	マミムメモ	p q r s P Q R S	7
 8 TUV	やゆよやゆよ	ヤユヨヤユヨ	t u v T U V	8
 9 WXYZ	らりるれろ	ラリルレロ	w x y z W X Y Z	9
 0	わをん	ワヲン		0
 *	* °	* °	無効	*
 #	ー、。?!「」() { } []	ー、。?!「」() { } []	. / + - = : ; * ? ! < > () { } []	#
	・文字候補からの変換 ・前の変換候補を表示	無効		
	・文字候補からの変換 ・次の変換候補を表示	無効		
	・入力位置を左に移動 ・変換したい文字を左に移動	入力位置を左に移動		
	・入力位置を右に移動 ・変換したい文字を右に移動	入力位置を右に移動		
	・入力候補の決定 ・変換候補の決定 ・入力文字の決定	入力文字の決定		
	・入力文字の消去 ・変換のキャンセル	入力文字の消去		



メモ 入力モードは  または  で切り替えます。

■ 文字入力モードの切替え

漢字

文字入力が必要な画面では、自動的に文字入力モードになります。
 たとえば電話帳の登録では、漢字名称を入力する画面は自動的にかなモードになり、フリガナを入力する画面は自動的にカナモードになります。
 もし漢字名称の中にアルファベットや数字を入力する必要がある場合は、入力モードを切り替えます。

● 電話帳登録の例

<漢字名称入力時>

自動的にかなモードになる。
 かなモードで入力して漢字に変換する

名前:
たろう

かな 全角

<フリガナ入力時>

自動的にカナモードになる

フリガナ:
タロウ

カナ 全角

← 入力中の文字が表示される

← 入力モード名が表示される

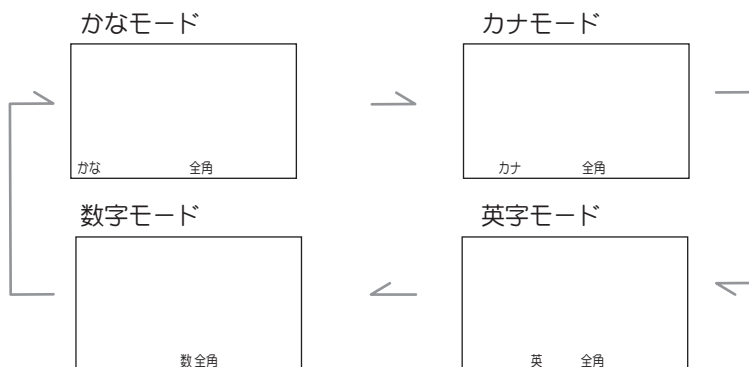
上記画面の文字入力の概要

ダイヤルキーを押すと、画面の3行目にその文字が表示されます。

● 入力モードの切替え

入力モードを切り替えるときは、3行目に確定前の文字を表示していない状態で、**保留** または **設定/転送** を押します。

保留 または **設定/転送** を押すごとに、下図のように切り替わります。



■ 漢字の入力例






漢字

漢字を入力するときの操作を説明します。

ここでは、電話帳の登録画面を例に説明します。電話帳の登録画面を表示するまでの操作については、p.59「3-6 電話帳を使う」を参照してください。


例) 「鈴木」と登録する

1 よみがなを入力する






- ① 「す」:  を3回押す
- ②  を押し、カーソルを移動する
- ③ 「ず」:  を3回押し、 を1回押す
- ④ 「き」:  を2回押す

名前:
すずき

かな 全角

- ・「すず」のように同じキーを使用する文字を続けて入力するときは、 を押してカーソルを右に移動します。

2 を押して漢字に変換する

- ・変換候補が表示されます。
- ・変換候補が複数あるときは、、 を押して前後の候補を表示することができます。
- ・「す」、「すず」だけの変換候補を表示させたい場合は、、 を押して変換する範囲を変え、再度  を押します。

名前:

鈴木

かな 全角

名前:

ずすき

かな 全角

3 変換が正しい場合は を押す

漢字が確定されます。

名前:

鈴木

かな 全角

■ カナの入力例

漢字

カナは変換しないでそのまま確定します。

ここでは、電話帳の登録画面を例にして説明します。電話帳の登録画面を表示するまでの操作については、p.59「3-6 電話帳を使う」を参照してください。

例) 名前「桜塚 (さくらづか)」を入力する際に「おう」「つか」と入力したためフリガナが「オウツカ」になってしまった。フリガナを「サクラヅカ」に入力し直す

1 フリガナを入力する画面を表示する

現在設定されているフリガナが表示されます。

フリガナ:
オウツカ

カナ 全角

2 修正したい文字を削除する

ここでは、すべて削除するので^{戻る}○を4回押します。

フリガナ:

カナ 全角

3 正しいフリガナを入力する

- ① 「サ」: ³DEF を1回押す
- ② 「ク」: ²ABC を3回押す
- ③ 「ラ」: ⁹WXYZ を1回押す
- ④ 「ヅ」: ⁴GHI を3回押し、^{*} を1回押す
- ⑤ 「カ」: ²ABC を1回押す

フリガナ:
サクラヅカ

カナ 全角

4 確定する場合は^{決定}○を押す

フリガナが確定されます。

フリガナ:
サクラヅカ

カナ 全角



メモ

電話帳や短縮ダイヤルの登録では、フリガナ登録の前に漢字名称の登録を行っているので、そのときの漢字のよみがながフリガナとして自動的に表示されます。表示されたフリガナが正しくない場合だけ、修正が必要になります。

また、一度登録した漢字名称を修正した場合、その修正はフリガナには反映されませんので、そのような場合もフリガナを修正します。

■ 入力文字の修正例

漢字

文字を確定する前に修正する場合は、以下のように操作します。

例) イタロウ → イチロウ に修正する

1 修正する文字にカーソルを移動する

←、→ を押して、「夕」にカーソルを移動します。

フリガナ:
イ~~タ~~ロウ

カナ 全角

2 戻るを押す

修正する文字は、正しい文字を入力する前に削除します。

フリガナ:
イ~~ロ~~ウ

カナ 全角

3 正しい文字を入力する

4 (GH) を 2 回押します。
カーソルの位置に新しい文字が挿入されます。

フリガナ:
イ~~ロ~~イロウ

カナ 全角

4 確定する場合は (決定) を押す

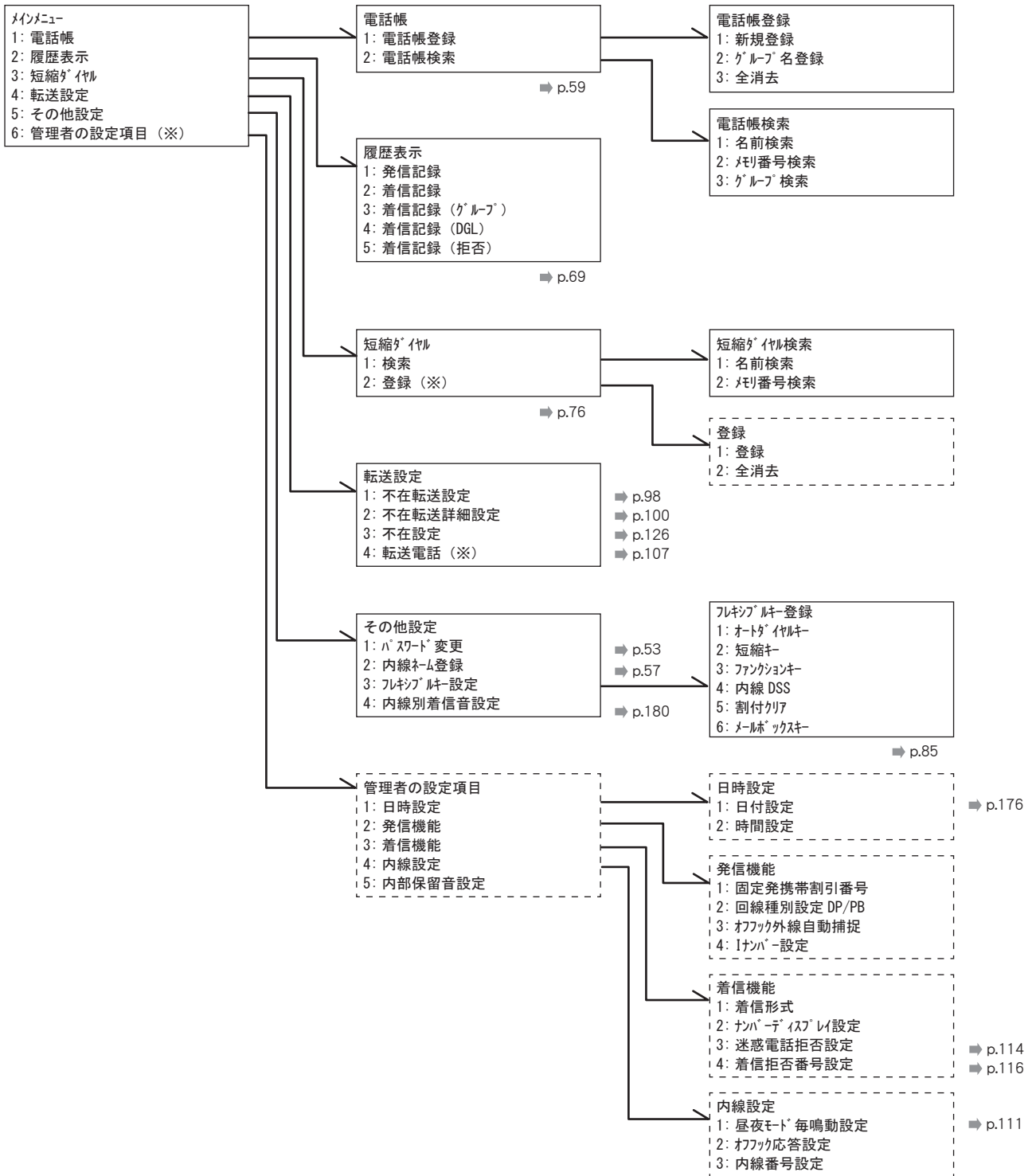
入力が確定されます。

フリガナ:
イ~~ロ~~イ~~ロ~~ウ

カナ 全角

3-3 メニュー項目について

漢字表示付電話機のメインメニューおよびサブメニューの項目を以下に示します。
 (ページ番号は、詳細説明が記載されているページです)。



(※) の付いている項目と [] で囲まれた項目は、システム管理電話機で表示されます。
 一般電話機で表示するためには、管理者用パスワードの入力が必要になります。

3-4 パスワードを設定する

電話帳、履歴などの個人情報を保護するため各電話機でパスワードが設定できます。個人用パスワードの設定は必須ではありませんが、管理者用パスワードは、一般電話機で管理者用項目を操作するときに入力が必須となります。

■ 各電話機のパスワードを入力する

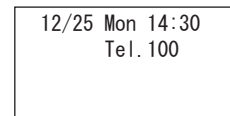
漢字

電話機にパスワードを設定すると、ディスプレイにメニューを表示したときに、パスワード設定画面が表示されます。電話機は、最初はパスワードが設定されていません。次ページの「各電話機のパスワードを変更する」の操作で、パスワードを設定すると、次回からメニューを表示するたびにパスワード入力画面が表示されるようになります。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

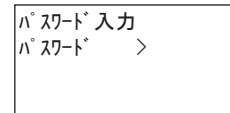
パスワード入力画面が表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例



2 パスワードを入力し、を押す

- パスワードは数字4桁で入力します。
- この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。
- メインメニューが表示されます。



■ 各電話機のパスワードを変更する

漢字

以下のような場合は、パスワードの変更操作を行います。

- ・パスワードを設定していなかったが、設定するようにしたい
- ・パスワードを設定していたが、設定をなくしたい
- ・パスワードを変更したい

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力	
パスワード	>

待受状態のディスプレイの表示例



12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

2 「5：その他設定」を, で選び、を押す

その他設定メニューが表示されます。

メインメニュー
3: 短縮ダイヤル
4: 転送設定
5: その他設定

メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「1：パスワード変更」を, で選び、を押す

パスワード変更画面が表示されます。


その他設定
1: パスワード変更
2: 内線メモ登録
3: フレキシブルキー設定

4 新パスワードを入力し、を押す

- ・パスワードは数字4桁で入力します。
- ・この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。

入力が終わると、新パスワードの確認画面が表示されます。パスワード変更画面で、入力したパスワードをもう一度入力してください。

パスワード変更	
新パスワード	>


パスワード設定を削除したい場合は、ここで何も入力しないでを押します。

5 新パスワードを確認し、を押す

パスワードの登録が完了し、その他設定メニューに戻ります。

表示例

パスワード変更（確認）	
新パスワード	>****

パスワード設定を削除したい場合は、ここで何も入力しないでを押します。

■ 管理者用パスワードを入力する

漢字

ここでは、一般電話機で管理者用項目を操作するために管理者用パスワードを入力する手順を説明します。管理者用パスワードは、工事者による電話機設置時に設定します。管理者用パスワードについては取扱店にご相談ください。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※個人用パスワード設定を行っている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

2 を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

メインメニュー

1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

「0:」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字4桁）を入力し、を押す

- ・パスワードはあらかじめ設定されているものを入力します。
- ・この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。

入力が終わると、メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目が表示されます。



入力例

管理者用パスワード入力
パスワード >****

4 「6: 管理者の設定項目」を、で選び、を押す

管理者の設定項目のメニューが表示されます。

メインメニュー
4: 転送設定
5: その他設定
6: 管理者の設定項目

メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

 **メモ 管理者用パスワードが必要な項目**

メインメニューの「6:管理者の設定項目」以外にも管理者用パスワードが必要な項目があります。以下の2つです。

- システム短縮ダイヤルの登録
- 転送電話

一般電話機からこれらの設定を行うときも、前ページの手順で管理者用パスワードを入力してください。

3-5 内線の名前を登録する

漢字

電話機 1 台 1 台に、部署名や個人名などの名称を登録することができます。この登録を行ってあと、内線をかけた相手の電話機に、内線の名前が表示されます。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100



電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「5：その他設定」を、で選び、を押す

その他設定メニューが表示されます。

メインメニュー
3: 短縮ダイヤル
4: 転送設定
5: その他設定

メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「2：内線名前登録」を、で選び、を押す

内線名前を登録する画面が表示されます。



その他設定
1: パスワード変更
2: 内線名前登録
3: フレキシブルキー設定

4 名前を漢字で入力してを押す

この画面は、自動的にかな入力モードになっています。ダイヤルキーを押して文字を入力します。漢字の入力方法については、p.49「漢字の入力例」を参照してください。

名前:
総務山田
かな 全角

メモ 内線の名前を削除するには

上記と同様の操作を行い、手順 4 で内線の名前が表示されたら、削除したい文字数分  を押し、 を押すと、内線の名前が削除されます。

5 フリガナを確認して  を押す

- 入力された漢字名から自動的にフリガナが表示されます。修正する場合は、ダイヤルキーを使って修正します。この画面は自動的にカナ入力モードになっています。
- フリガナの入力方法については、p.50「カナの入力例」を参照してください。

入力が終わると、内線ネームが登録され、その他設定メニューに戻ります。

フリガナ:
ソウムヤマダ

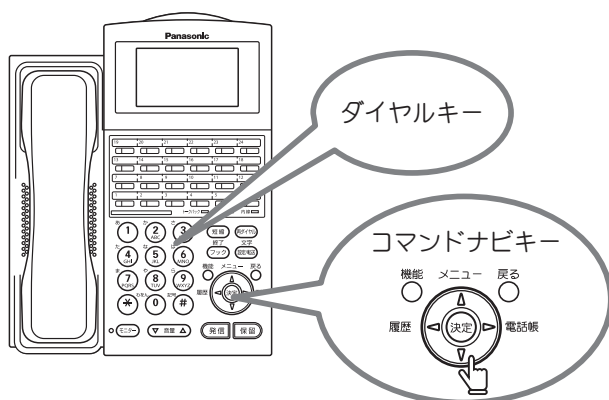
カナ 全角

3-6 電話帳を使う

相手の電話番号を電話帳に登録しておく、メモリ番号、名前、グループから検索して電話をかけることができます。電話帳には外線も内線も登録できます。ここでは、電話帳を使った以下の操作について説明します。

操作	説明箇所	
電話帳への登録	電話帳に新規に登録する	p.59
	電話帳にグループ名を登録する	p.62
電話帳を検索 (電話をかける)	電話帳を名前で検索する	p.63
	電話帳をメモリ番号で検索する	p.64
	電話帳をグループで検索する	p.65
電話帳を修正	電話帳の内容を修正する	p.66
電話帳を削除	電話帳から1件削除する	p.67
	電話帳の内容をすべて消去する	p.68

電話帳の操作は、以下のキーを使って行います。



電話帳に新規に登録する

漢字

電話帳に相手の電話番号、名前などを新規に登録します。

メモ 登録したい相手の発信/着信記録がある場合は、それを利用して電話帳に登録することができます。詳しくは、p.73「履歴を電話帳に登録する」を参照してください。

1 電話機が待受状態のとき、**決定**を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード(数字4桁)を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100




電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、外線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「1：電話帳」を 、 **で選び、**  **を押す**



電話帳メニューが表示されます。

メインメニュー
1:電話帳
2:履歴表示
3:短縮ダイヤル

3 「1：電話帳登録」を 、 **で選び、**  **を押す**

電話帳登録メニューが表示されます。


電話帳
1:電話帳登録
2:電話帳検索

4 「1：新規登録」を 、 **で選び、**  **を押す**

電話帳に登録するメモリ番号を入力する画面が表示されます。

電話帳登録
1:新規登録
2:グループ名検索
3:全消去

5 メモリ番号を入力して  **を押す**

- メモリ番号には、最初、使用されていないメモリ番号の中で一番若い番号が表示されます。違うメモリ番号で登録したい場合は、 を押して数字を削除してから入力します。
- メモリ番号は000～999の範囲で、ダイヤルキーで入力します。
- 入力したメモリ番号がすでに登録されている場合は、上書きするかどうか尋ねられます。上書きする場合は「1：はい」を選び、上書きしないで、別のメモリ番号を入力し直す場合は「2：いいえ」を選びます。

上書きしますか?
1:はい
2:いいえ

- メモリ番号の設定が終わると、「番号種別」の選択画面になります。



メモリ番号	No:003
未登録	

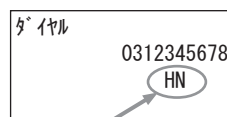
6 番号種別を 、 **で選び、**  **を押す**

番号種別が設定され、電話番号を登録する画面が表示されます。



番号種別
1:外線
2:内線
3:PBX

7 電話番号を入力して  **を押す**

- 電話番号はダイヤルキーで入力します。
- 相手にこちらの番号を非通知にする場合は  を押します。ディスプレイの右下に「H」と表示されます。
- 相手に電話をかけるときに ARS 機能を停止させる場合は、 を押します。ディスプレイの右下に「N」が表示されます。

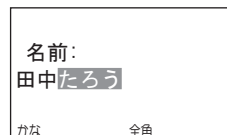


H：非通知
N：ARS 停止

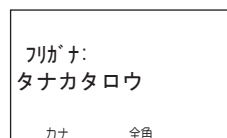
、 は、フレキシブルキーにあらかじめ登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.85「3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。ARSについては、p.217「用語解説」を参照してください。


8 名前を漢字で入力して  **を押す**

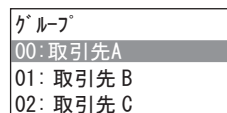
この画面は、自動的にかな入力モードになっています。ダイヤルキーを押して文字を入力します。漢字の入力方法については、p.49「漢字の入力例」を参照してください。

**9 フリガナを確認して**  **を押す**

- 入力された漢字名から自動的にフリガナが表示されます。修正する場合は、ダイヤルキーを使って修正します。
- フリガナの入力方法については、p.50「カナの入力例」を参照してください。

**10 グループを** 、 **で選び、**  **を押す**

- グループは「00」～「15」までの 16 個あります。
- 電話帳への登録が完了し、手順 **4** の電話帳登録画面に戻ります。
- 続けて登録する場合は、手順 **4** ～ **10** を繰り返します。
- 登録を終了する場合は、 を押します。



グループ名をまだ登録していない場合は、グループ番号だけが表示されます。グループ名を登録する手順は、p.62「電話帳にグループ名を登録する」を参照してください。

■ 電話帳にグループ名を登録する

漢字

電話帳にはグループ番号0～15までの16個のグループが用意されています。最初は、グループ名が登録されていないので、用途に合わせたグループ名を登録することができます。

1 電話帳登録メニューを表示する

p.59「電話帳に新規に登録する」の手順 **1**～**3**を行ってください。

2 「2：グループ名登録」を 、 で選び、 を押す

グループ名を登録するための画面が表示されます。


電話帳登録
1:新規登録
2:グループ名登録
3:全消去

3 グループ名を登録するグループ番号を 、 で選び、 を押す

- ・グループは「00」～「15」までの16個あります。
- ・すでに登録されているグループには、グループ名が表示されます。

グループ名登録
00:取引先A
01:
02:

4 グループ名を入力して を押す

- ・文字の入力方法については、p.47「3-2 文字入力方法」を参照してください。
- ・グループ名が設定され、グループ名登録の画面に戻ります。
- ・他のグループ名も登録する場合は、手順 **3**～**4**を繰り返します。
- ・登録を終了する場合は、 を押します。

名前:
取引先 C
かな 全角

電話帳を名前で検索する

漢字

電話をかけるときや、電話帳を編集するときに、電話帳を名前のフリガナで検索できます。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイに電話帳検索メニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「1：名前検索」を、で選び、を押す

検索する名前を入力する画面が表示されます。



電話帳検索
1:名前検索
2:メロ番号検索
3:グループ検索

3 検索する名前のフリガナの先頭から1～5文字を入力してを押す


- 文字の入力方法については、p.47「3-2 文字入力方法」を参照してください。
- 検索結果が表示されます。

検索：
スズ
カナ 全角

4 検索結果を確認する

- 検索結果が複数ある場合は、、を押して、検索結果を順番に表示することができます。
- 目的の相手を表示します。

<ス> No. 100
外線 HN ← H：非通知
0312345678 N：ARS 停止
鈴木一郎

この画面でを押すと、表示されている電話帳を編集することができます。

- p.66「電話帳の内容を修正する」
- p.67「電話帳から1件削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、を押す

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーまたはMSAキーを押して発信することもできます。

■ 電話帳をメモリ番号で検索する

漢字

電話をかけるときや、電話帳を編集するとき、電話帳をメモリ番号で検索できます。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイに電話帳検索メニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「2:メモリ番号検索」を、で選び、を押す

メモリ番号を入力する画面が表示されます。



電話帳検索
1:名前検索
2:メモリ番号検索
3:グループ検索

3 メモリ番号を入力する

- ・メモリ番号は000～999の範囲で、ダイヤルキーで入力します。
- ・検索結果が表示されます。
- ・登録されていないメモリ番号を入力した場合は、ディスプレイの4行目に「未登録」と表示されます。


メモリ番号検索 No:xxx

4 検索結果を確認する

- ・目的の相手が表示されていることを確認します。
- ・、を押すと、前後のメモリ番号の内容を確認することができます。

No. 100
HN
0312345678
外線
鈴木一郎

H: 非通知
N: ARS 停止

この画面でを押すと、表示されている電話帳を編集することができます。

- p.66「電話帳の内容を修正する」
- p.67「電話帳から1件削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、を押す

- ・自動的にダイヤルされます。
- ・相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーまたはMSAキーを押して発信することもできます。

■ 電話帳をグループで検索する

漢字

電話帳の中には 16 個のグループに分かれています。電話をかけるときや、電話帳を編集するとき、電話帳をその中の 1 つのグループを指定して検索できます。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイに電話帳検索メニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「3：グループ検索」を、で選び、を押す

グループを選択する画面が表示されます。



電話帳検索
1: 名前検索
2: 電話番号検索
3: グループ検索

3 グループを、で選び、を押す

- ・グループは「00」～「15」までの 16 個あります。
- ・選択したグループの中で、最初に登録されている名前が表示されます。


グループ
00: 取引先 A
01: 取引先 B
02: 取引先 C

4 目的の相手を表示する

- ・、を押すとそのグループに登録されている内容を順番に表示することができます。
- ・目的の相手を表示します。

00: 取引先A No. 100
外線 HN
0312345678
鈴木一郎

H: 非通知
N: ARS 停止

この画面でを押すと、表示されている電話帳を編集することができます。

- p.66「電話帳の内容を修正する」
- p.67「電話帳から 1 件削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、を押す

- ・自動的にダイヤルされます。
- ・相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーまたは MSA キーを押して発信することもできます。

■ 電話帳の内容を修正する

漢字

相手の電話番号が変わったときなど、電話帳に登録している内容を修正します。

1 修正したい相手の情報を電話帳で表示する

電話帳から相手の情報を検索する方法は、以下を参照してください。

- p.63「電話帳を名前で検索する」
- p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」
- p.65「電話帳をグループで検索する」

	No. 100
外線	HN
	0312345678
鈴木一郎	

2 を押す

登録内容変更メニューが表示されます。

3 「1: 内容変更」を 、 で選び、 を押す

電話帳の各項目を設定する画面が表示されます。

登録内容変更
1: 内容変更
2: 登録削除

4 登録内容を修正する

以降の操作は、電話帳を新規に登録するときと同じ操作になります。詳細は、p.59「電話帳に新規に登録する」を参照してください。

■ 電話帳から 1 件削除する

漢字

電話帳から 1 件削除します。

1 削除したい相手の情報を電話帳で表示する

電話帳から相手の情報を検索する方法は、以下を参照してください。

- p.63「電話帳を名前で検索する」
- p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」
- p.65「電話帳をグループで検索する」

	No. 100
外線	HN
	0312345678
鈴木一郎	

2 を押す

登録内容変更メニューが表示されます。

3 「2：登録削除」を 、 で選び、 を押す

登録削除を確認する画面が表示されます。

登録内容変更
1: 内容変更
2: 登録削除

4 削除してよい場合は、「1：はい」を 、 で選び、 を押す

登録内容が削除され、電話帳検索メニューに戻ります。

消去しますか?
1: はい
2: いいえ

■ 電話帳の内容をすべて消去する

漢字

電話帳に登録した電話番号などの情報をすべて消去することができます。

1 電話帳登録メニューを表示する

p.59「電話帳に新規に登録する」の手順 **1** ~ **3**を行ってください。

2 「3：全消去」を 、 で選び、 を押す

全消去を確認する画面が表示されます。

電話帳登録

1: 新規登録

2: グループ名登録

3: 全消去

3 削除してよい場合は、「1：はい」を

、 で選び、 を押す

電話帳の内容がすべて消去され、電話帳登録メニューに戻ります。

消去しますか？

1: はい

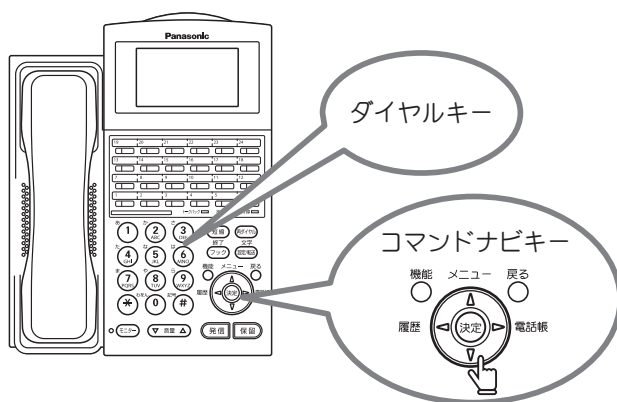
2: いいえ

3-7 履歴を使う

これまでに発信または着信した番号は、履歴として記録されています。
履歴を使って電話をかけたり、履歴の中から必要なものを電話帳に登録することができます。
ここでは、履歴の以下の操作について説明します。

操作	説明箇所	
履歴の表示	発信記録を表示する	p.69
	着信記録を表示する	p.71
履歴から電話帳への登録	履歴を電話帳に登録する	p.73
履歴の削除	履歴を1件ずつ削除する	p.74
	履歴をすべて削除する	p.75

履歴の操作は、以下のキーを使って行います。



■ 発信記録を表示する

漢字

発信記録を表示します。

1 電話機が待受状態のとき、 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パ*ワード*入力
パ*ワード* >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。




パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「2：履歴表示」を, で選び、 を押す

履歴表示のメニューが表示されます。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

次ページに操作つづく

**3 「1：発信記録」を 、 で選び、
 を押す**

最新の発信記録が表示されます。



履歴表示
1: 発信記録
2: 着信記録
3: 着信記録(グループ)

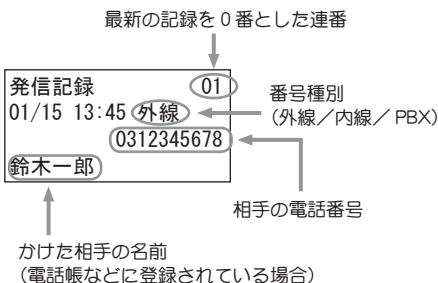
**4   を押して、目的の発信記録を
表示する**


発信記録には次の情報が表示されます。

- 発信日時
- 番号種別 (外線/内線※/ PBX)
- 相手の電話番号
- 相手の名前 (電話帳や短縮ダイヤルに登録されている場合のみ)


※内線の発信記録を表示するには、取扱店に相談して設定を行う必要があります。

-  を押すと1つずつ古い発信記録が表示されます。 で1つずつ新しい発信記録に戻ります。
- 発信記録は20件まで記録されています。



ここで  を押すと、発信記録を電話帳に登録したり、履歴から削除することができます。

- p.73 「履歴を電話帳に登録する」
- p.74 「履歴を1件ずつ削除する」
- p.75 「履歴をすべて削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、 を押す

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。



簡単に発信記録/着信記録を表示する

電話機が待受状態のとき、 を押すと、履歴表示画面を表示できます。

履歴表示
1: 発信記録
2: 着信記録
3: 着信記録(グループ)

※パスワードを設定している場合は、履歴表示画面が表示される前にパスワード入力画面が表示されます。

■ 着信記録を表示する

漢字

着信記録を表示します。内線からかかってきた電話は着信記録には残りません。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。


2 「2：履歴表示」を、で選び、

を押す

履歴表示のメニューが表示されます。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

3 表示する着信記録を、で選び、

を押す

着信記録は、次の4種類に分かれています。目的の着信記録の種類を選ぶと、最新の着信記録が表示されます。

• 着信記録

この電話機で応答したすべての着信（個別着信／グループ着信／DGL着信）の履歴が記録されます。最新の着信記録から順に最大20件表示することができます。

• 着信記録（グループ）

グループ着信のすべての履歴が記録されます。最新の着信記録から順に最大100件表示することができます。



• 着信記録（DGL）

DGL/MSA着信のすべての履歴が記録されます。最新の着信記録から順に最大100件表示することができます。本機能をご使用になるには取扱店にご相談ください。

• 着信記録（拒否）



電話に出たくない相手の番号をあらかじめ登録しておいた場合、拒否した着信の履歴が記録されます。最新の着信記録から順に最大100件表示することができます。

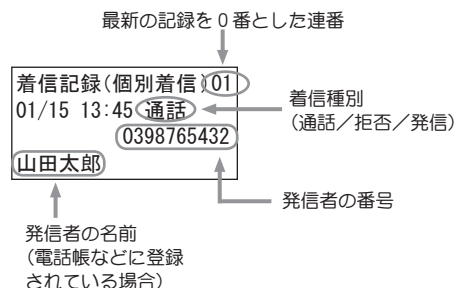
履歴表示
1: 発信記録
2: 着信記録
3: 着信記録(グループ)
4: 着信記録(DGL)
5: 着信記録(拒否)


メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

個別着信／グループ着信／DGL着信については、次ページの説明を参照してください。


4   を押して、目的の着信記録を表示する

- ・着信記録には次の情報が表示されます。
 - － 着信日時
 - － 着信種別（通話／拒否／発信）
 - － 相手の電話番号
 - － 相手の名前（電話帳や短縮ダイヤルに登録されている場合）
- ・  を押すと1つずつ古い着信記録が表示されます。  で1つずつ新しい着信記録に戻ります。



ここで  を押すと、着信記録を電話帳に登録したり、履歴から削除することができます。

- p.73 「履歴を電話帳に登録する」
- p.74 「履歴を1件ずつ削除する」
- p.75 「履歴をすべて削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、 を押す

- ・自動的にダイヤルされます。
- ・相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーまたはMSAキーを押して発信することもできます。



個別着信／グループ着信／DGL 着信

- **個別着信とは**
内線電話機を個別に呼び出す着信を個別着信と呼びます。
- **グループ着信とは**
着信があった場合、グループ内の電話機の外線キーが点滅し、キーを押すことで応答できる着信をグループ着信と呼びます。
- **DGL 着信とは**
DGL（ダイレクトグループライン）/MSA（マルチステーションアクセス）は、グループ着信とは別のグループで着信を受けることができます。着信があった場合、DGL/MSAグループ内のDGL/MSAキーが点滅し、キーを押すことで応答できます。本機能をご使用になる場合は、取扱店にご相談ください。

履歴を電話帳に登録する

漢字

履歴の中から必要な番号を電話帳に登録することができます。

1 電話帳に登録したい履歴を表示する

履歴の表示方法は、p.69「発信記録を表示する」または p.71「着信記録を表示する」を参照してください。

発信記録	00
01/15 13:45 外線	
	1234567890

2 を押す

編集メニューが表示されます。

3 「1：電話帳登録」を 、 で選び、 を押す

電話帳登録の画面が表示されます。

編集
1:電話帳登録
2:記録削除
3:全記録削除

4 電話帳の各項目を設定する

以降の操作は、電話帳を新規に登録するときと同じ操作になります。詳細は、p.59「電話帳に新規に登録する」を参照してください。

ただし、電話番号は自動的に設定されています。

履歴を1件ずつ削除する

漢字

履歴から1件を選んで削除できます。

1 削除したい履歴を表示する

履歴の表示方法は、p.69「発信記録を表示する」または p.71「着信記録を表示する」を参照してください。

発信記録	00
01/15 13:45 外線	
1234567890	

2 を押す

編集メニューが表示されます。

編集
1: 電話帳登録
2: 記録削除
3: 全記録削除

3 「2: 記録削除」を 、 で選び、 を押す

記録削除を確認する画面が表示されます。

消去しますか?
1: はい
2: いいえ

4 削除してよい場合は、「1: はい」を 、 で選び、を押す

履歴が1件削除されます。

履歴をすべて削除する

漢字

表示した履歴種別（発信記録、着信記録、着信記録（グループ）、着信記録（DGL）、着信記録（拒否）など）ごとに、履歴をすべて削除することができます。

1 全削除したい種別の履歴を表示する

履歴の表示方法は、p.69「発信記録を表示する」または p.71「着信記録を表示する」を参照してください。

発信記録	00
01/15 13:45 外線	
1234567890	

2 を押す

編集メニューが表示されます。

編集
1: 電話帳登録
2: 記録削除
3: 全記録削除

3 「3：全記録削除」を 、 で選び、 を押す

全記録の削除を確認する画面が表示されます。

消去しますか？
1: はい
2: いいえ

4 削除してよい場合は、「1：はい」を 、 で選び、 を押す

表示した履歴種別のすべての記録が削除されます。

3-8 短縮ダイヤルを使う

短縮ダイヤルは、電話番号を3桁の番号に短縮して登録したものです（短縮番号／メモリ番号）。短縮ダイヤルは、社内の共通電話帳として使用するものです。登録しておくことで、どの電話機からもダイヤルすることができます。

相手の短縮番号（メモリ番号）を知っていれば、**短縮**を押した後、その番号をダイヤルするだけで電話をかけることができます。

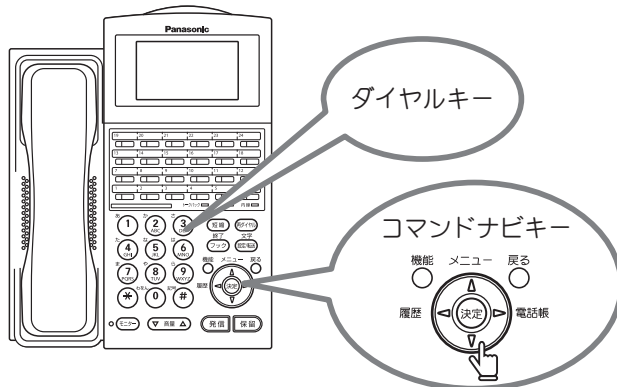
短縮番号の相手の名前がわからない場合や、相手の名前から短縮番号を知りたい場合は、検索することができます。

ここでは、短縮ダイヤルについて以下の操作を説明します。

操作	説明箇所	
短縮ダイヤルの検索	相手の名前から短縮ダイヤルを検索する	p.76
	メモリ番号から相手の名前を検索する	p.78
短縮ダイヤルの登録(※)	短縮ダイヤルを登録する	p.79
短縮ダイヤルの変更(※)	短縮ダイヤルの登録内容を変更する	p.82
短縮ダイヤルの1件削除(※)	短縮ダイヤルの登録を1件消去する	p.83
短縮ダイヤルの全削除(※)	短縮ダイヤルの登録をすべて消去する	p.84

(※) 短縮ダイヤルの登録／変更／削除ができるのは、システム管理電話機、または一般電話機で管理者用パスワードを入力した場合です。

短縮ダイヤルの操作は、以下のキーを使って行います。



■ 相手の名前から短縮ダイヤルを検索する

漢字

短縮ダイヤルに登録されている名前で、短縮ダイヤルを検索することができます。

1 電話機が待受状態のとき、**決定**を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「3：短縮ダイヤル」を \leftarrow 、 \rightarrow で選び、 \odot を押す

短縮ダイヤルのメニューが表示されます。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

3 「1：検索」を \leftarrow 、 \rightarrow で選び、 \odot を押す

短縮ダイヤル検索のメニューが表示されます。

短縮ダイヤル
1: 検索
2: 登録

「2：登録」はシステム管理電話機（または管理者用パスワードを入力した一般電話機）の場合だけ表示されます。

4 「1：名前検索」を \leftarrow 、 \rightarrow で選び、 \odot を押す

名前を入力する画面が表示されます。

短縮ダイヤル検索
1: 名前検索
2: 電話番号検索

5 検索する名前のフリガナの先頭から 1～5 文字を入力して \odot を押す

- ・この画面は、自動的にカナ入力モードになっています。ダイヤルキーを押して文字を入力します。
- ・文字の入力方法については、p.47「3-2 文字入力方法」を参照してください。
- ・検索結果が表示されます。

検索:
タ
カナ 全角

6 検索結果を確認する

- ・検索結果が複数ある場合は、 \leftarrow 、 \rightarrow を押して、検索結果を順番に表示することができます。
- ・目的の相手を表示します。

<タ>	No. 003
外線	N
	1234567890
田中太郎	

システム管理電話機（または管理者用パスワードを入力した一般電話機）の場合は、ここで \odot を押すと、短縮ダイヤルを編集することができます。

- p.79「短縮ダイヤルを登録する」
- p.84「短縮ダイヤルの登録をすべて消去する」

7 表示されている相手に電話をかける場合は、 \odot を押す

- ・自動的にダイヤルされます。
- ・相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーまたは MSA キーを押して発信することもできます。

■ メモリ番号から相手の名前を検索する

漢字

メモリ番号（短縮番号）から、短縮ダイヤルに登録されている相手の情報を検索します。

1 短縮ダイヤル検索メニューを表示する

p.76「相手の名前から短縮ダイヤルを検索する」の手順 **1** ~ **3** を行ってください。

詳しい手順は、p.76「相手の名前から短縮ダイヤルを検索する」を参照してください。

2 「2:メモリ番号検索」を 、 で選び、 を押す

メモリ番号を入力する画面が表示されます。



短縮ダイヤル検索	
1:	名前検索
2:	メモリ番号検索

3 メモリ番号を入力する


- メモリ番号は000～999の範囲で、ダイヤルキーで入力します。
- 検索結果が表示されます。
- 登録されていないメモリ番号を入力した場合は、4行目に「未登録」と表示されます。

メモリ番号検索	No:003

4 検索結果を確認する

- 目的の相手が表示されていることを確認します。
- 、 を押すと、前後のメモリ番号の内容を確認することができます。

	No. 003
外線	N
	1234567890
田中太郎	

システム管理電話機（または管理者用パスワードを入力した一般電話機）の場合は、ここで  を押すと、短縮ダイヤルを編集することができます。

→ p.79「短縮ダイヤルを登録する」

→ p.84「短縮ダイヤルの登録をすべて消去する」


5 表示されている相手に電話をかける場合は、 を押す

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーまたはMSAキーを押して発信することもできます。

■ 短縮ダイヤルを登録する

電話番号を短縮ダイヤルに登録します。短縮ダイヤル 1 件ごとに、着信音や着信時の着信ランプの色設定を行うことができます。

 **メモ** この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、短縮ダイヤルを登録する方法を説明します。システム管理電話機では、手順**2**～**3**の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

「0 :」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字 4 桁）を入力し、を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。

管理者用パスワード入力
パスワード >****

管理者用パスワードについては、取扱店にご相談ください。

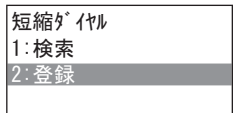
4 「3 : 短縮ダイヤル」を、で選び、を押す

短縮ダイヤルのメニューが表示されます。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

5 「2：登録」を \uparrow 、 \downarrow で選び、 \odot を押す

登録メニューが表示されます。



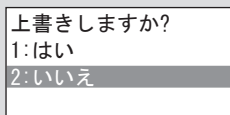
6 「1：登録」を \uparrow 、 \downarrow で選び、 \odot を押す

短縮ダイヤルを登録するための画面が表示されます。

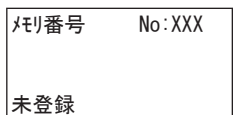


7 メモリ番号を入力して \odot を押す

- メモリ番号には、最初、使用されていないメモリ番号の中で一番若い番号が表示されます。違うメモリ番号で登録したい場合は、 \odot を押して数字を削除してから入力します。
- 入力したメモリ番号がすでに登録されている場合は、上書きするかどうか尋ねられます。上書きする場合は「1：はい」を選び、上書きしないで、別のメモリ番号を入力し直す場合は「2：いいえ」を選びます。



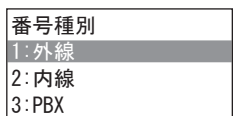
- メモリ番号の設定が終わると、「番号種別」の選択画面になります。



ここで設定したメモリ番号が短縮番号になります。
使用可能なメモリ番号は、000～999です。

8 番号種別を \uparrow 、 \downarrow で選び、 \odot を押す

番号種別が設定され、電話番号を登録する画面が表示されます。



9 電話番号をダイヤルキーで入力して \odot を押す

- 電話番号は市外局番から入力します。市外局番から登録しないと、着信時の名前表示ができません。
- 相手にこちらの番号を非通知にする場合は \square を押します。ディスプレイの右下に「H」と表示されます。
- 相手に電話をかけるときにARS機能を停止させる場合は、 \square を押します。ディスプレイの右下に「N」が表示されます。



H：非通知
N：ARS 停止



\square 、 \square は、フレキシブルキーにあらかじめ登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.85「3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。ARSについては、p.217「用語解説」を参照してください。

10 名前を漢字で入力して  を押す

漢字の入力方法については、p.49「漢字の入力例」を参照してください。

名前:	田中たろう
かな	全角

11 フリガナを確認して  を押す




- ・入力された漢字名から自動的にフリガナが表示されます。修正する場合は、ダイヤルキーを使って修正します。
- ・フリガナの入力方法については、p.50「カナの入力例」を参照してください。
- ・番号種別で「外線」を選んだ場合は手順 **12** と手順 **13** を行います。それ以外を選んだ場合は、これで短縮ダイヤルの登録が完了し、短縮ダイヤルの登録メニューに戻ります。


フリガナ:	タナカタロウ
カナ	全角

12 この相手から電話がかかってきたときの着信音を 、 で選び、 を押す

着信音は、着信音なしと8種類の着信音から選べます。

発信者番号毎の着信音
1: 指定なし
2: 着信音1
3: 着信音2

13 この相手から電話がかかってきたときの着信ランプの色を 、 で選び、 を押す





- ・短縮ダイヤルの登録が完了し、短縮ダイヤルの登録メニューに戻ります。
- ・続けて登録する場合は、手順 **6** ~ **13** を繰り返します。終了する場合は、 を押します。

発信者番号毎バックライト
1: 色を変えない
2: 着信時に色変える

画面は「バックライト」ですが、実際には着信ランプの色が緑色に変わります。

メモ

数字表示付電話機の場合は、以下の操作で登録できます。


 →  → 短縮番号 (000 ~ 999) → 番号種別 (0 : 外線、1 : 内線、2 : PBX) → 相手先の電話番号 →  → 

※数字表示付電話機では、名前、着信音、着信ランプの色は登録できません。

■ 短縮ダイヤルの登録内容を変更する

漢字

登録した短縮ダイヤルの内容を変更することができます。

 **メモ** この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。

1 変更する短縮ダイヤルを検索して表示する

- ・名前から検索する場合：
 - p.76「相手の名前から短縮ダイヤルを検索する」の**1**～**6**を行います。
- ・短縮番号から検索する場合：
 - p.78「メモリ番号から相手の名前を検索する」の**1**～**4**を行います。

一般電話機で操作する場合は、短縮ダイヤルを検索する前に、メインメニューで①を押して管理者用パスワードを入力してください。この操作については、p.79「短縮ダイヤルを登録する」の手順**2**～**3**を参照してください。

2 を押す

登録内容変更メニューが表示されます。

<夕>	No. 003
外線	N
	1234567890
田中太郎	

3 「1：内容変更」を、で選び、を押す

内容を変更する短縮ダイヤルの画面が、もう一度表示されます。




登録内容変更
1: 内容変更
2: 登録削除

4 を押す

p.79「短縮ダイヤルを登録する」の**8**～**13**と同じ画面が表示されます。

<夕>	No. 003
外線	N
	1234567890
田中太郎	


5 登録内容を変更する

- ・内容を変更したい画面で変更を行います。内容を変更しない画面ではを押して、次の画面を表示します。
- ・電話番号や名前を変更する場合は、で一文字ずつ削除してから、新しい番号や名前を入力します。
- ・最後の画面の設定まで終了すると、「ピー」と音が鳴って、内容変更が終了します。終了する場合は、を押します。

着信音の選択画面と着信ランプの色の選択画面は、「番号種別」で「外線」を選択した場合だけ表示されます。

■ 短縮ダイヤルの登録を 1 件消去する

短縮ダイヤルに登録されている情報を 1 件消去することができます。

 **メモ** この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。

1 消去する短縮ダイヤルを検索して表示する

- ・ 名前から検索する場合：
 - p.76「相手の名前から短縮ダイヤルを検索する」の **1** ~ **6** を行います。
- ・ 短縮番号から検索する場合：
 - p.78「メモリ番号から相手の名前を検索する」の **1** ~ **4** を行います。

一般電話機で操作する場合は、短縮ダイヤルを検索する前に、メインメニューで **0** を押して管理者用パスワードを入力してください。この操作については、p.79「短縮ダイヤルを登録する」の手順 **2** ~ **3** を参照してください。

2 を押す

登録内容変更メニューが表示されます。


<夕>	No. 003
外線	N
	1234567890
田中太郎	

3 「2：登録削除」を 、 で選び、 を押す

短縮ダイヤルを 1 件消去してよいかを確認する画面が表示されます。


登録内容変更
1: 内容変更
2: 登録削除

4 削除してよい場合は、「1：はい」 を 、 で選び、 を押す

- ・ 短縮ダイヤルが 1 件消去されます。
- ・ 終了する場合は、 を押します。

消去しますか?
1: はい
2: いいえ


 **メモ** 数字表示付電話機がシステム管理電話機の場合は、以下の操作で 1 件消去できます。

 保留 →  短縮 → 短縮番号 (000 ~ 999) →  保留 →  モニター

■ 短縮ダイヤルの登録をすべて消去する

漢字

短縮ダイヤルに登録されている情報をすべて消去することができます。

 **メモ** この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。

1 短縮ダイヤルの登録メニューを表示する


p.79「短縮ダイヤルを登録する」の手順 **1** ~ **5**を行います。

2 「2：全消去」を 、 で選び、 を押す

短縮ダイヤルをすべて消去してよいかを確認する画面が表示されます。

登録
1:登録
2:全消去

3 削除してよい場合は、「1：はい」 を 、 で選び、 を押す

- ・短縮ダイヤルの登録情報がすべて消去され、短縮ダイヤル登録メニューに戻ります。
- ・終了する場合は、 を押します。

消去しますか?
1:はい
2:いいえ

3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける

フレキシブルキーに、オートダイヤルや短縮キーを割り付けて、ワンタッチで電話をかけられるようにすることができます。また、フレキシブルキーに、あらかじめ用意されている機能を割り付けて、電話の機能を追加していくことができます。

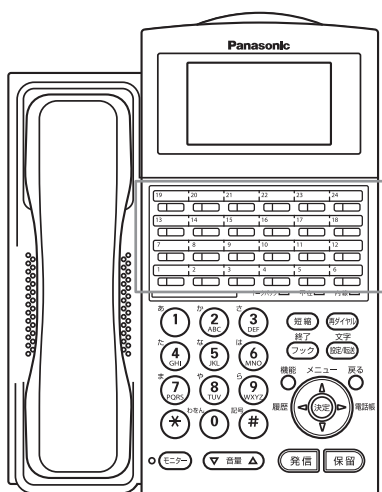
ここでは、フレキシブルキーへの機能割付けについて説明します。

説明箇所	
フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける	p.85
フレキシブルキーに短縮キーを割り付ける	p.87
フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける	p.88
フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける	p.90
フレキシブルキーの割付けをクリアする	p.91
フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける	p.92

■ フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける

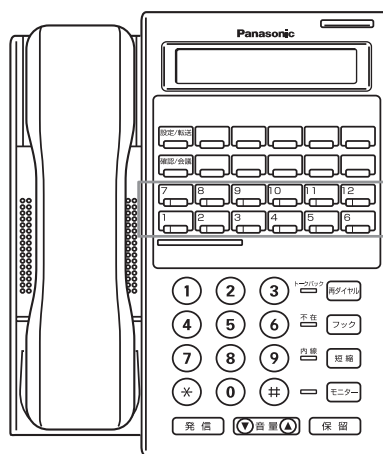
電話番号を登録すると、ワンタッチで電話をかけられるようになります。

< 漢字表示付電話機 >



フレキシブル
キー

< 数字表示付電話機 >



フレキシブル
キー

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。




パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100



電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「5：その他設定」を 、 **で選び、**
 **を押す**

その他設定メニューが表示されます。




メインメニュー
3:短縮ダイヤル
4:転送設定
5:その他設定

メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「3：フレキシブルキー設定」を 、
 **で選び、**  **を押す**


フレキシブルキー登録メニューが表示されます。

その他設定
1:パスワード変更
2:内線転送登録
3:フレキシブルキー設定
4:内線別着信音設定

4 「1：オートダイヤルキー」を 、 **で選び、**  **を押す**

オートダイヤルキーを登録する画面が表示されます。

フレキシブルキー登録
1:オートダイヤルキー
2:短縮キー
3:ファンクションキー
4:内線DSS
5:割付クリア
6:メールボックスキー

5 オートダイヤルキーを登録するフレキシブルキー  **を押す**

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、ピピッとエラー音が鳴り、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。

オートダイヤルキー登録
登録 フレキシブルキー押下してください


6 番号種別を 、 **で選び、**  **を押す**

番号種別が設定され、電話番号を登録する画面が表示されます。

未登録
1:外線
2:内線
3:PBX

現在割り付けられている機能名称が表示されます。何も割り付けられていない場合は「未登録」と表示されます。

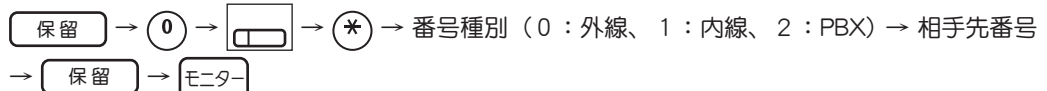
7 電話番号を入力して  **を押す**

- ・電話番号はダイヤルキーで入力します。
- ・オートダイヤルの登録が完了し、手順 **5** の画面に戻ります。
- ・続けて登録する場合は、手順 **5** ~ **7** を繰り返します。終了する場合は、 を押します。

ダイヤル
0312345678



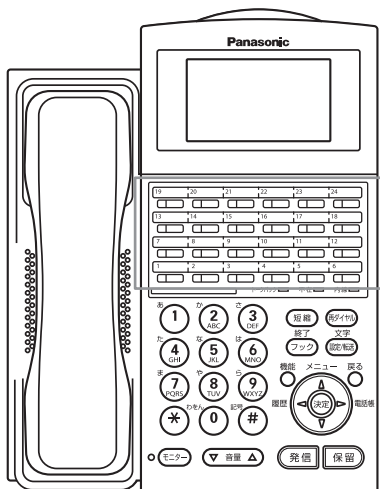
メモ 数字表示付電話機では、以下の操作でオートダイヤルをフレキシブルキーに割り付けられます。オートダイヤルキーは、ワンタッチキーだけでは足りないときに使用してください。



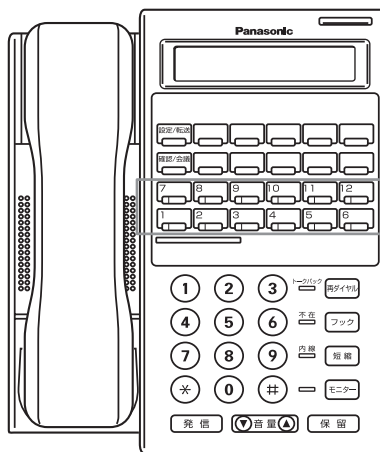
■ フレキシブルキーに短縮キーを割り付ける

短縮ダイヤルは、電話番号を3桁に短縮して電話をかけやすくしたのですが、さらにフレキシブルキーに「短縮キー」として登録することで、ワンタッチで電話をかけられるようになります。

< 漢字表示付電話機 >



< 数字表示付電話機 >



1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 **1** ~ **3** を行います。

2 「2：短縮キー」を 、 で選び、 を押す

短縮キーを登録する画面が表示されます。

フレキシブルキー登録

- 1: オートダイヤルキー
- 2: 短縮キー
- 3: ファンクションキー

- 4: 内線DSS
- 5: 割付クリア
- 6: メールボックスキー

3 短縮キーを登録するフレキシブルキー を押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、ピピッとというエラー音が鳴り、この画面が表示されたままになります。別のキーを押して直してください。

短縮キー登録
登録 フレキシブルキー押下
してください

4 短縮番号を入力して を押す

- ・短縮キーの登録が完了し、手順 **3** の画面に戻ります。
- ・続けて登録する場合は、手順 **3** ~ **4** を繰り返します。終了する場合は、 を押します。

未登録
短縮No: 111

短縮番号（メモリ番号）は、短縮ダイヤルが登録されている番号を入力してください。短縮ダイヤルは事前に登録しておきます。p.79「短縮ダイヤルを登録する」を参照してください。

メモ 数字表示付電話機では、以下の操作でフレキシブルキーに短縮キーを割り付けられます。

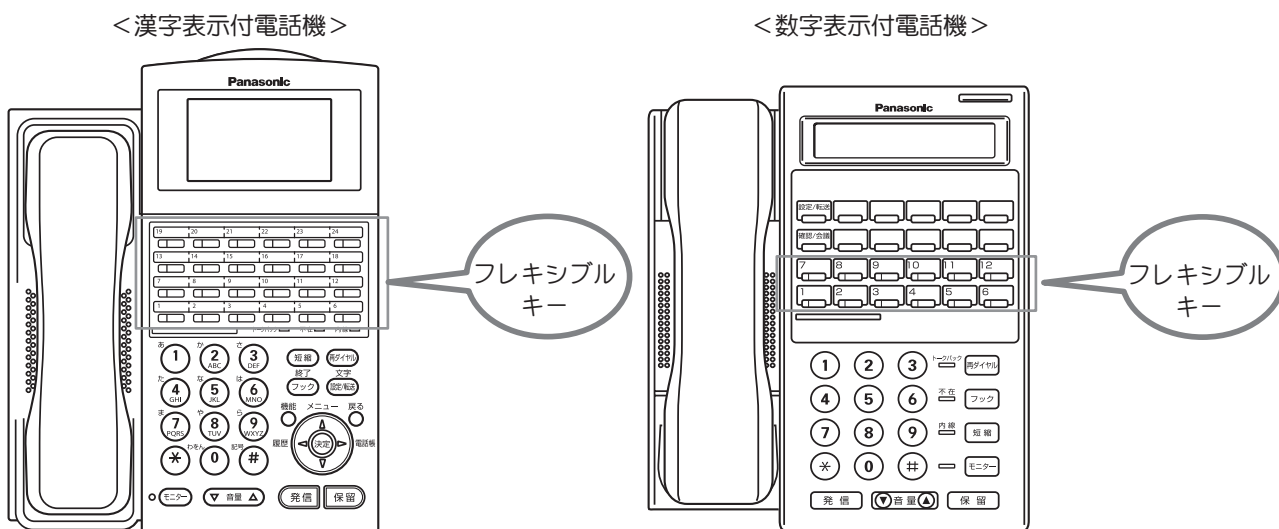
→ **0** → → **0** → 短縮番号 (000 ~ 999) → →

■フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける

フレキシブルキーには、以下のファンクションキーを割り付けることができます。各機能については付録の「フレキシブルキー機能一覧」(p.214)、「用語解説」(p.217)、および本書の各章での説明を参照してください。

ファンクション No.	キー名称	ファンクション No.	キー名称	ファンクション No.	キー名称
01	リダイヤル	17	クラス切替 nnn	40	キーパッド
02	オートリピート	18	指定代理応答	41	着信履歴
03	ダイヤルメモリ	19	着信ウェイト	42	アカウント
04	短縮	20	割込	45	電源状態
05	代理応答	21	フッキング	46	回線制限
06	秘話/会議	22	料金	47	着信拒否
07	夜間切替 nnn	24	FAX1	48	ボイスワープ
08	集中着信	25	FAX2	49	代理応答 nn
09	指定外線転送 [T-T 転送]	26	在席/離席	51	伝言録音
10	自己保留	27	通話録音	54	同時呼出
11	不在設定	29	録音終了	55	個別遅延転送
12	PB 信号	30	一時停止	56	話中転送
13	予約	33	外線発信	58	キャンプオン
14	ID	37	非通知	59	DGL 着呼制限
15	不在転送	38	外線代理応答		
16	ARS 停止	39	内線代理応答		

メモ ファンクション No.07、17、49 の nnn、nn はグループ番号を示します。ファンクション No.07、17、49 を割り付けるときは、付加情報として、グループ番号を入力する必要があります。



1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 **1** ~ **3** を行います。

2 「3：ファンクションキー」を 、 で選び、 を押す

ファンクションキーを登録する画面が表示されます。

フレキシブルキー登録

1:オートダイヤルキー


2:短縮キー

3:ファンクションキー

4:内線DSS

5:割付クリア

6:メールボックスキー

3 ファンクションキーを登録するフレキシブルキー  を押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。


ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、ピピッとエラー音が鳴り、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。




ファンクションキー登録
登録 フレキシブルキー押下
してください

4 ファンクション No. を入力して  を押す

- ・ファンクション No. はダイヤルキーを押して入力します。
- ・ファンクション No. に対応した機能名が表示されます。
- ・ファンクション No. とそれに対応する標準的な機能名については、前ページの表を参照してください。

未登録
ファンクションNo. :07

5 ファンクションキーの内容を確認して  を押す

- ・  を押すと、前後のファンクション No. の内容を表示することができます。
- ・ファンクションキーの登録が完了し、手順 **3** の画面に戻ります。
- ・続けて登録する場合は、手順 **3** ~ **4** を繰り返します。終了する場合は、 を押します。







未登録
07 夜間切替
付加情報:

付加情報を入力する必要があるファンクションキーの場合は、ここに付加情報も入力します。付加情報については、取扱店にご相談ください。



メモ

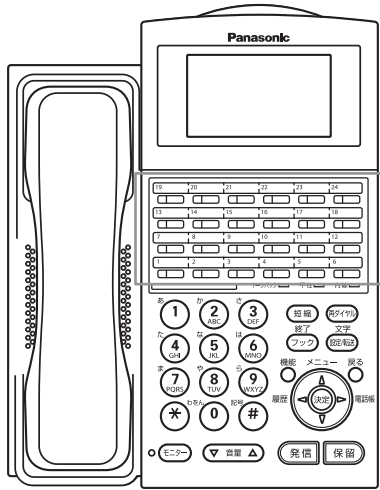
数字表示付電話機では、以下の操作でファンクションキーをフレキシブルキーに割り付けられます。

 →  →  →  → ファンクション No. → 付加情報 (グループ番号など)
→  → 

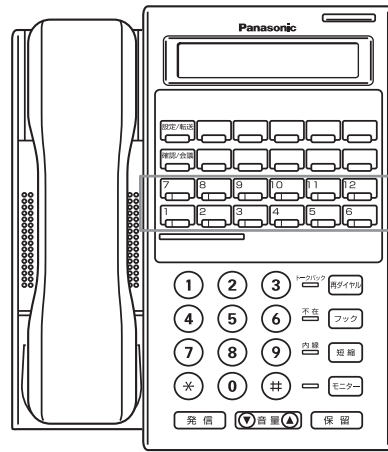
■ フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける

フレキシブルキーに内線 DSS (Direct Station Selection) を割り付け、相手の内線番号を登録しておく、ワンタッチのキー操作で呼び出せるようになります。内線 DSS に登録すると、相手の電話機の使用状況が、DSS キーの点灯によってわかるようになります。

< 漢字表示付電話機 >



< 数字表示付電話機 >



1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 **1** ~ **3** を行います。

2 「4 : 内線 DSS」を 、 で選び、 を押す

内線 DSS を登録する画面が表示されます。

フレキシブルキー登録
2: 短縮キー
3: ファンクションキー
4: 内線 DSS
5: 割付クリア
6: メールボックスキー

3 内線 DSS を登録するフレキシブルキー を押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、ピピッとエラー音が鳴り、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。

メニューに表示されていない項目は、 を押してカーソルを移動させると表示できます。 を押すとメニューの上のほうに戻ります。

内線 DSS 登録
登録 フレキシブルキー押下
してください

4 DSS に登録する相手の内線番号を入力して を押す

- ・内線番号はダイヤルキーを押して入力します。
- ・内線 DSS の登録が完了し、手順 **3** の画面に戻ります。
- ・続けて登録する場合は、手順 **3** ~ **4** を繰り返します。終了する場合は、 を押します。

未登録
DSS:111

メモ 数字表示付電話機では、以下の操作で内線 DSS をフレキシブルキーに割り付けられます。

保留 → → → 内線番号 → 保留 →

■ フレキシブルキーの割付けをクリアする

フレキシブルキーに割り付けた機能を、キーごとにクリアすることができます。



1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 **1** ~ **3** を行ってください。

2 「5：割付クリア」を 、 で選び、 を押す

割付けをクリアするための画面が表示されます。

フレキシブルキー登録
3:ファンクションキー
4:内線DSS
5:割付クリア
6:メールボックスキー

メニューに表示されていない項目は、 を押してカーソルを移動させると表示できます。 を押すとメニューの上のほうに戻ります。


3 割付けをクリアするフレキシブルキー

 を押す

- ・変更不可能な機能が割り付けられているキーを押した場合は、この画面が表示されたままになります。
- ・割付けをクリアしてよいかを確認する画面が表示されます。

割付クリア
クリアフレキシブルキー押下
してください

4 削除してよい場合は、「1：削除する」を 、 で選び、 を押す

- ・割付けがクリアされ、手順 **3** の画面に戻ります。
- ・続けて他のキーの割付けもクリアする場合は、手順 **3** ~ **4** を繰り返します。終了する場合は、 を押します。

現在の登録内容が表示されます。

↓

DSS2000
1:削除する
2:しない

メモ

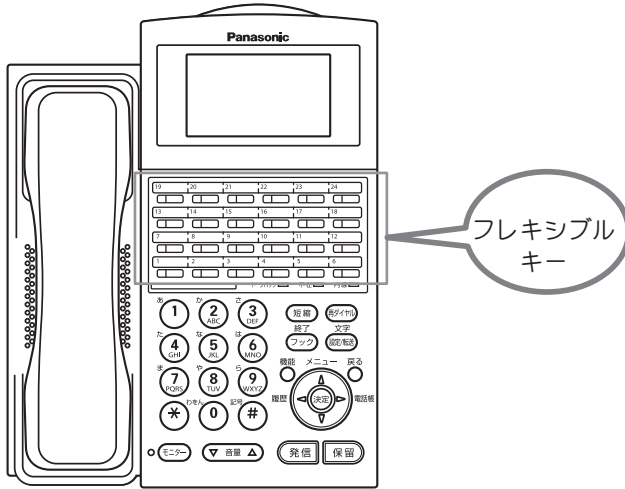
- 上記の操作を行うときに、他のフレキシブルキーの機能を削除しないように注意してください。もし誤って削除してしまった場合は、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照して、再設定してください。
- 数字表示付電話機では、以下の操作でフレキシブルキーの割付けをクリアします。

 →  →  →  → 

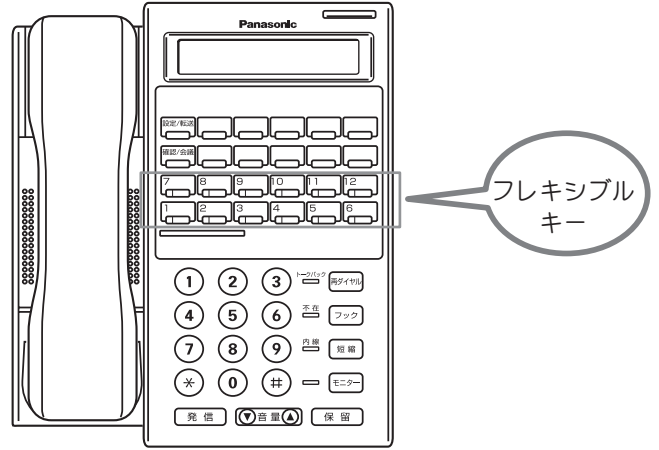
■ フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける

メールセンターに接続してメールボックスにアクセスするためのメールボックスキー（[MBX] キー）を、フレキシブルキーに割り当てる方法を説明します。

< 漢字表示付電話機 >



< 数字表示付電話機 >



メールボックスキーを登録する

1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 **1** ~ **3** を行います。

2 「6：メールボックスキー」を 、 で選び、 を押す

メールボックスキー登録メニューが表示されます。

フレキシブルキー登録
4: 内線DSS
5: 割付クリア
6: メールボックスキー

3 メールボックスキーを登録するフレキシブルキー を押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、ピピッとエラー音が鳴り、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。

メールボックスキー登録
登録 フレキシブルキー押下
してください

4 メールボックス番号を入力して を押す

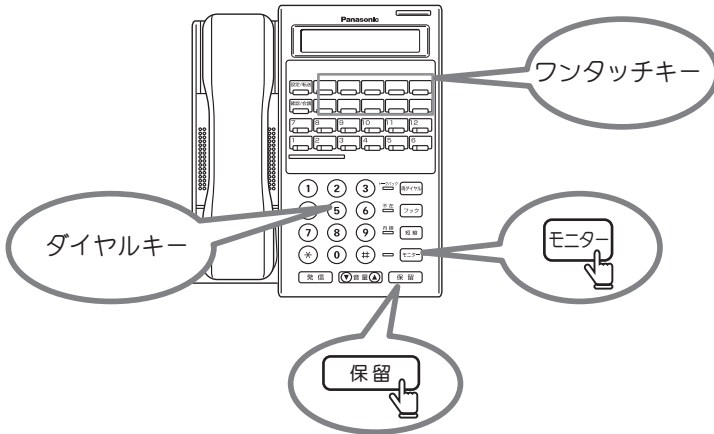
未登録
MBX: 100

メモ 数字表示付電話機では、以下の方法で登録できます。

保留 → 4 → → メールボックス番号（通常は内線番号） → 保留 → モニター

3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する 数字

ワンタッチキーに電話番号を登録しておく、そのキーを押すだけで、ワンタッチで電話をかけることができます。



※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

1 電話機が待受状態のとき、保留 を押す

モニター のランプが赤点灯します。

2 電話番号を登録するワンタッチキー を押す

3 番号種別を以下の中から選んでダイヤルキーで入力する

- ① : 外線
- ① : 内線
- ② : PBX

4 登録する電話番号をダイヤルキーで入力する

入力した電話番号が表示されます。

すでに電話番号が登録されているキーを押した場合は、このあとの操作を行うと上書きされます。

操作を取り消す場合は、モニター を押してください。

1234567

5 登録内容を確認し、保留 を押す

- ・ワンタッチキーに電話番号が登録されます。
- ・続けて登録する場合は、手順 **2** ~ **5** を繰り返します。
- ・終了する場合は、モニター を押します。モニター のランプが消灯します。



登録されている番号を削除するには

フタタッチキーに登録されている番号を削除するには、p.93の手順**1**、**2**の後に **保留** を押してから **モニター** を押します。登録内容が削除されます。

電話番号として登録できる情報

手順**4**の電話番号登録時に、以下の情報を登録することができます。

- PB 信号切替

電話番号の後に **PB 信号** を押すと、それ以降に登録した番号を相手応答後に PB 信号で送出することができます。このキーを押すと、「P」と表示されます。

- ARS 停止

電話番号を入力する前に **ARS 停止** を押すと、ARS 停止を登録できます。このキーを押すと、「n」（画面では *n*）と表示されます。

- 発番号非通知発信

電話番号を入力する前に **非通知** を押すと、発番号非通知発信を登録できます。このキーを押すと、「H」と表示されます。

上記3つの情報を登録するためには、フレキシブルキーに各機能を割り付けておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

- ダイヤル間へのポーズ

電話番号を入力している途中で〔応答〕キーを押すと、ダイヤル間にポーズを入れることができます。このキーを押すと、「-」と表示されます。

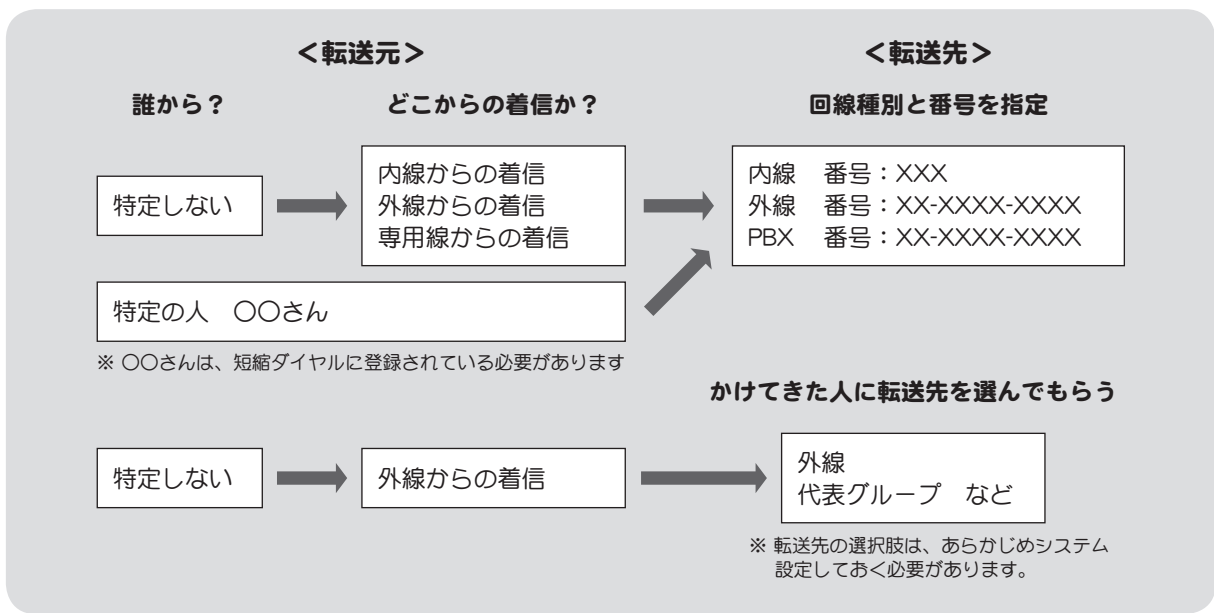
〔応答〕キーの割り付けは取扱店へご相談ください。

第4章 電話の便利な使い方

4-1 不在時に他の電話へ転送する	96
4-2 留守番電話機能を使う	103
4-3 指定した外線を別の外線へ転送する	107
4-4 昼夜モードを切り替える	110
4-5 着信を1台の電話機で受ける	113
4-6 迷惑電話を拒否する	114
4-7 3人以上で通話する	122
4-8 内線をもっと活用する	125
4-9 外出時に便利な機能	137
4-10 ボイスメール機能を使う	140
4-11 その他の便利な機能	165

4-1 不在時に他の電話へ転送する

不在時にかかってくる電話を、あらかじめ指定した転送先へ自動的に転送することができます。自動転送では、転送元と転送先を以下のように指定することができます。



あらかじめ転送方法を設定しておく、不在にするときはワンタッチで不在転送モードにすることができます。ここでは、以下の順に説明します。

操 作		説明箇所	
不在にするときの操作		不在転送を有効にする／解除する	p.97
あらかじめ設定しておく操作	基本	かかってきた電話の転送先を設定する	p.98
	応用	かかってきた相手によって転送先を設定する	p.100

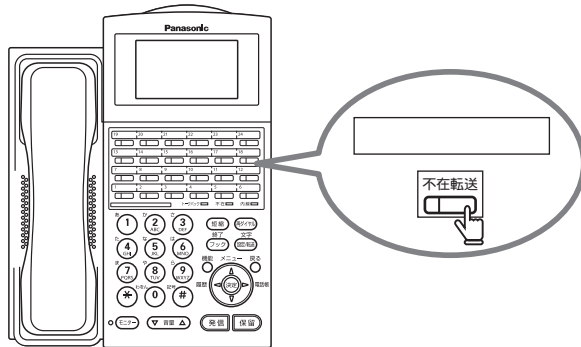
■ 不在転送を有効にする／解除する

(不在転送)

自動転送を有効にするには、あらかじめ転送方法を設定しておく必要があります。転送方法の設定については、以降の該当する手順を参照してください。

不在にする場合は、以下の操作を行って自動転送を有効にします。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「不在転送」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくくと便利です。

例)

不在転送を有効にする

- 1** を押したあと、 を押す
 のランプが赤く点灯し、不在転送が有効になります。

待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

- 2** を押す

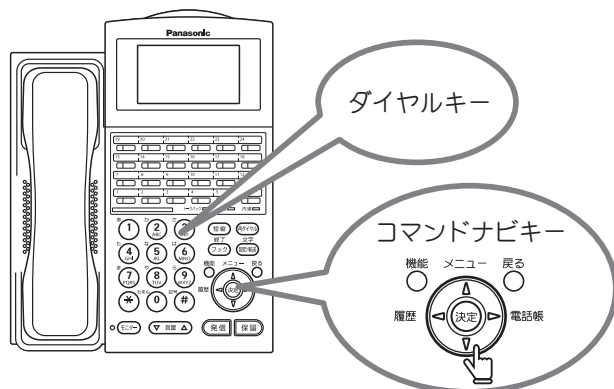
不在転送を解除する

- 1** 赤く点灯している を押す
 のランプが消灯し、不在転送が解除されます。

待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

■ かかってきた電話の転送先を設定する

不在時の転送先の電話番号を設定します。転送先には内線、外線、PBX、代行（ボイスメール）が指定できるので、種別ごとに電話番号を設定しておくことができます。（PBXは、構内交換機収容の内線および専用線です。）



メモ

転送先の電話番号の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。

その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「4：転送設定」を、で選び、を押す

転送設定メニューが表示されます。

メインメニュー
2:履歴表示
3:短縮ダイヤル
4:転送設定

メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「1：不在転送設定」を、で選び、を押す

転送先を設定する画面が表示されます。

転送設定
1:不在転送設定
2:不在転送詳細設定
3:不在設定

4 転送先の種別を 、 で選び、 を押す

内線／外線／PBX／代行の4種類から選択します。

内線／外線／PBX を選ぶと転送先の番号を入力する画面が表示されます。

ボイスメールに転送したいときは、「代行」を選びます。

転送先を選択
1:内線
2:外線
3:PBX
4:転送解除
5:代行

「4：転送解除」を選択すると、転送先として登録されている番号が削除されます。

相手番号(外線)
0312345678


転送先の電話番号を入力

5 ダイアルキーで、転送先の電話番号を入力し、 を押す

転送先の電話番号が登録され、転送設定メニューに戻ります。

※手順 4 で「代行」を選択したときは、転送先の電話番号の入力は必要ありません。

 **メモ** ●数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。

保留 →  → 0 → # → 転送先種別 (0:外線、2:PBX、3:代行)
→ 転送先電話番号 → 保留 → モニター

※内線へ転送する場合は、# と転送先種別の番号は不要です。

※転送先種別として、「3」(代行) を選択したときは、転送先電話番号以降の操作は必要ありません。

●手順 4 で「代行」を選んでおくと、かかってきた電話はメールセンターへ接続されます。ガイドンスに従って操作してください。録音先は使用している VM 番号 (内線番号) です。ボイスメールについての詳細は p.140「4-10 ボイスメール機能を使う」を参照してください。

■ かかってきた相手によって転送先を設定する

不在時の転送について、転送元と転送先を設定します。

■ 転送元

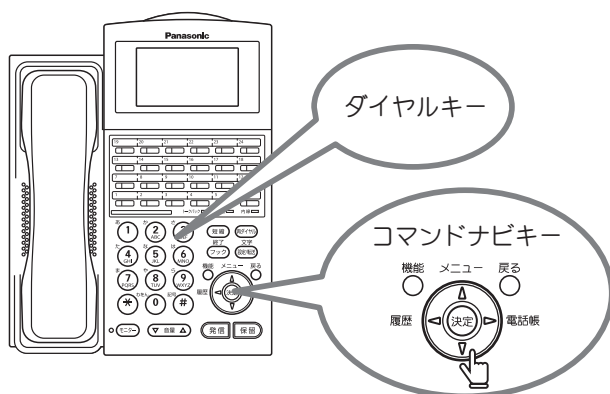
転送元には以下の5種類が選択できます。

- 1：内線からの着信 → 転送先を設定します。
- 2：外線からの着信 → 転送先を設定します。
- 3：専用線からの着信 → 転送先を設定します。
- 4：発信者選択 → あらかじめ転送先を設定するのではなく、発信者が転送先を選択します。
- 5：発信者番号別 → 転送先を設定します。
発信者として設定できるのは、短縮ダイヤルに登録されている相手だけです。

■ 転送先

転送先には内線、外線、PBXが指定できるので、種別ごとに電話番号を設定しておくことができます。また、転送先としてボイスメール（代行）を選ぶこともできます。

メモ 「5：発信者番号別」で設定されている転送先は、「2：外線からの着信」の転送先よりも優先されます。外線からの着信については、両方に該当する場合がありますが、その場合「5：発信者番号別」で設定されている転送先へ転送されます。

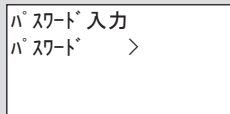


メモ
転送元と転送先の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

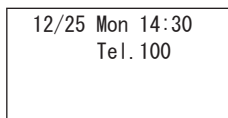
1 電話機が待受状態のとき、**決定**を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。



待受状態のディスプレイの表示例



電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「4：転送設定」を \leftarrow 、 \rightarrow で選び、 $\textcircled{\text{決定}}$ を押す

転送設定メニューが表示されます。

メニュー
2:履歴表示
3:短縮ダイヤル
4:転送設定

メニューに表示されていない項目は、 \leftarrow を押してカーソルを移動させると表示できます。 $\textcircled{\text{決定}}$ を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「2：不在転送詳細設定」を \leftarrow 、 \rightarrow で選び、 $\textcircled{\text{決定}}$ を押す

不在転送詳細設定メニューが表示されます。

転送設定
1:不在転送設定
2:不在転送詳細設定
3:不在設定

4 転送元を \leftarrow 、 \rightarrow で選び、 $\textcircled{\text{決定}}$ を押す

▶▶ 以下を選んだ場合は、手順 7 に進みます。

- 「1：内線からの着信」
- 「2：外線からの着信」
- 「3：専用線からの着信」
- 「4：発信者選択」

▶▶ 以下を選んだ場合は、手順 5 に進みます。

- 「5：発信者番号別」

不在転送詳細設定
1:内線からの着信
2:外線からの着信
3:専用線からの着信
4:発信者選択
5:発信者番号別

5 転送元の短縮ダイヤルのメモリ番号(短縮番号)を入力する

相手の電話番号、名前が表示されます。

電話番号は、市外局番から表示されていることを確認してください。表示されていない場合は、p.82「短縮ダイヤルの登録内容を変更する」を参照して、登録内容を修正してから、この操作を行ってください。

外線として登録された、短縮ダイヤルのメモリ番号の一番若い番号が表示されます。

000:1234567890
短縮ダイヤルメモリ番号:
山田吾郎

ここにメモリ番号を入力

6 相手確かめて $\textcircled{\text{決定}}$ を押す

転送元が設定され、転送先を選択するための画面が表示されます。

100:0987654321
短縮ダイヤルメモリ番号:100
田中太郎

\leftarrow 、 \rightarrow を押して、他のメモリ番号に登録されている情報を表示することができます。

7 転送先を 、 で選び、 を押す

内線／外線／PBX を選ぶと、選んだ転送先の電話番号を入力する画面が表示されます。

ボイスメールに転送したいときは、「代行」を選びます。

転送先を選択

1:内線

2:外線

3:PBX

4:転送解除

5:発信者選択

6:代行

手順4で「2：外線からの着信」、「5：発信者番号別」を選択している場合のみ、「5：発信者選択」が表示されます。ここで、「5：発信者選択」を選ぶと設定は完了になります。

8 ダイヤルキーで、転送先の電話番号を入力し、 を押す

・p.98「かかってきた電話の転送先を設定する」の操作で、すでに転送先の番号が登録されている場合は、その番号が表示されます。

・転送元と転送先が設定され、不在転送詳細設定メニューに戻ります。

※手順7で「代行」を選択したときは、転送先の電話番号の入力は必要ありません。

相手番号(外線)

0312345678

↑
転送先の電話番号を入力








かけてきた人が転送先を選ぶ場合の操作

上記の設定で、「5：発信者選択」を選んだ場合、かけてきた人の操作は以下のようになります。

1. 電話がつながり、ガイダンスが聞こえます。
2. ガイダンスにしたがって、ダイヤルキーで転送先を選択します。
3. 転送先に接続されます。



メモ ●数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。

 →  → 転送元種別 (1:内線、2:外線、3:PBX) → 
→ 転送先種別 (0:外線、2:PBX、3:代行) → 転送先電話番号 →  → 

※転送先が内線のときは、 と転送先種別の番号は不要です。

※転送先種別として、「3」(代行) を選択したときは、転送先電話番号以降の操作は必要ありません。

- 手順7で「代行」を選んでおくと、かかってきた電話はメールセンターへ接続されます。ガイダンスに従って操作してください。録音先は使用しているVM番号(内線番号)です。ボイスメールについての詳細は p.140「4-10 ボイスメール機能を使う」を参照してください。

4-2 留守番電話機能を使う

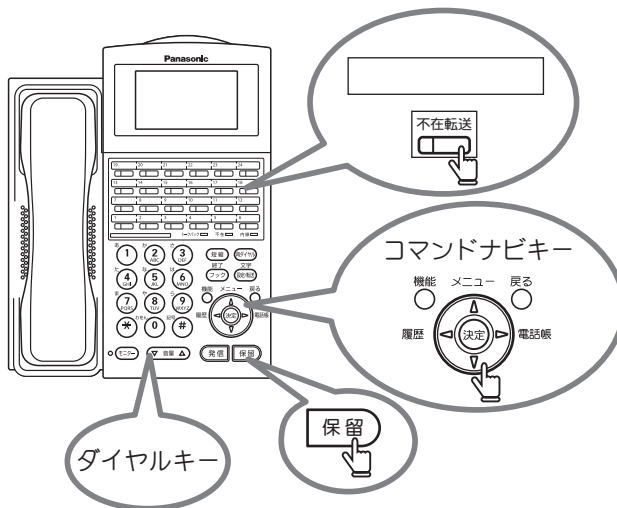
(不在代行)

留守番電話機能を設定しておく、こちらが不在のときに電話をかけてきた相手に、応答メッセージを流してメッセージを録音してもらうことができます。

■ ボイスメールを留守番電話として使う

留守番電話としてボイスメールを使用するには、まず不在時の転送先としてボイスメールを選択します。その後、不在にするととき不在転送を有効にすると、自動的に留守番電話機能が設定されます。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに [不在転送] キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。
- ボイスメールの使い方については、p.140「4-10 ボイスメール機能を使う」を参照してください。



メモ

電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例) 転送

不在転送

※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

1 不在時の転送先としてボイスメールを選択する

p.98「かかってきた電話の転送先を設定する」の方法で、転送先として「代行」(ボイスメール)を選択します。

以下の操作でも不在時の転送先としてボイスメールを選択することができます。

保留 → 不在転送 → 0 → # → 転送先種別 (3: 代行)

2 不在転送を有効にする

不在転送 を押したあと、保留 を押します。
不在転送 のランプが赤く点灯します。

「不在転送」を「有効」または「解除」する操作方法についての詳細は、p.97「不在転送を有効にする/解除する」を参照してください。

メモ

- かかってきた電話はメールセンターへ接続されます。録音先は使用している VM 番号 (内線番号) です。ボイスメールについての詳細は p.140「4-10 ボイスメール機能を使う」を参照してください。
- 留守番電話機能で流れる応答メッセージは、システムで用意されています。独自のメッセージを用意したい場合は、p.105「応答メッセージを録音する」を参照してください。



メモ 着信形式と昼夜モードを組み合わせることによって、自動的に留守番電話に切り替えることもできます。また、応答メッセージのみを流して録音はしないように設定することもできます。これらの機能を利用するには工事者による設定が必要です。取扱店にご相談ください。



PHS / 無線 LAN デュアル端末が圏外るとき自動応答する (圏外代行)

無線圏外や電源オフの状態の PHS / 無線 LAN デュアル端末に電話がかかってきた場合に、自動応答メッセージを流して、かけてきた人にメッセージを録音してもらうことができます。

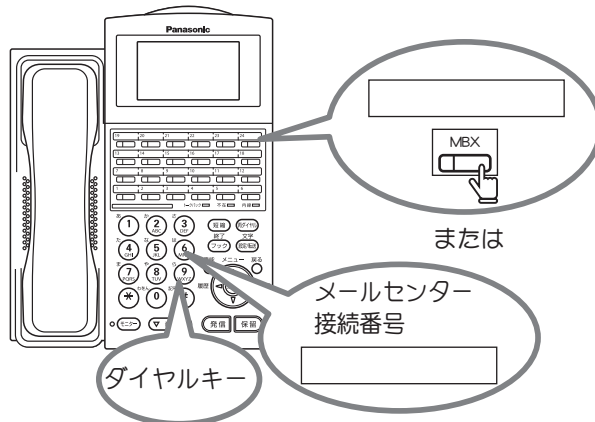
この機能を利用する場合は、取扱店にご相談ください。

■ 応答メッセージを録音する

(応答メッセージ管理)

留守番電話機能で流れる応答メッセージを自分で録音しておくことができます。何も録音していない場合は、あらかじめ用意されている応答メッセージが流れます。

応答メッセージは、メールボックスごとに用意することができます。



メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- メールセンター接続番号は、本書に記入しておくくと便利です。

応答メッセージを録音する

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、**[MBX]** を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして **(#)** とメールボックス番号をダイヤルします。

※ パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください(数字4桁)。

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順**1**～**3**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**1**～**5**を参照してください。

2 **(1)** **(4 CH)** を押す

応答メッセージガイダンスが聞こえます。

3 **(6 MNO)** を押す

「応答メッセージをどうぞ…」というガイダンスが流れ、ビープ音が聞こえます。

4 受話器にむかって応答メッセージを話し、終了したら **(#)** を押す

応答メッセージの録音が終了し、応答メッセージガイダンスが聞こえます。

5 **(5 RL)** を押す

録音したメッセージが再生され、終了すると、応答メッセージガイダンスが聞こえます。

6 **(#)** を押す

応答メッセージ録音の操作を終了します。

7 メールセンターから切断して操作を終了する

ガイダンスに従って、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順**5**～**7**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**7**～**9**を行います。

録音した応答メッセージを削除する

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして \# とメールボックス番号をダイヤルします。

※パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください(数字4桁)。

2 $\text{\textcircled{1}}$ $\text{\textcircled{4}}$ を押す

応答メッセージガイダンスが聞こえます。

3 $\text{\textcircled{3}}$ を押す

応答メッセージが削除され、応答メッセージガイダンスが聞こえます。

4 \# を押す

応答メッセージ削除の操作を終了します。

5 メールセンターから切断して操作を終了する

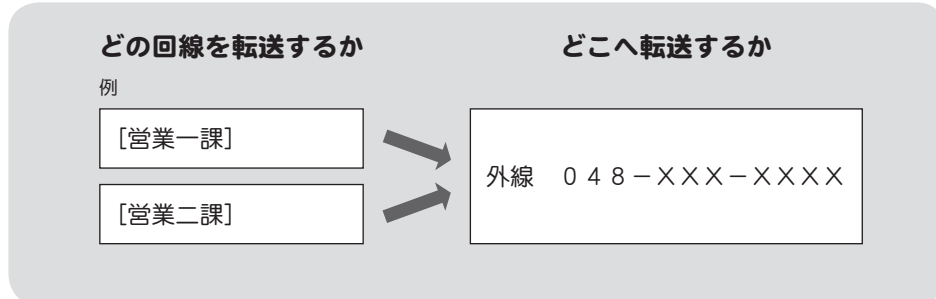
詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順 $\text{\textcircled{1}}$ ~ $\text{\textcircled{3}}$ 、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 $\text{\textcircled{1}}$ ~ $\text{\textcircled{5}}$ を参照してください。

ガイダンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順 $\text{\textcircled{5}}$ ~ $\text{\textcircled{7}}$ 、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 $\text{\textcircled{7}}$ ~ $\text{\textcircled{9}}$ を行います。

4-3 指定した外線を別の外線へ転送する

(転送電話)

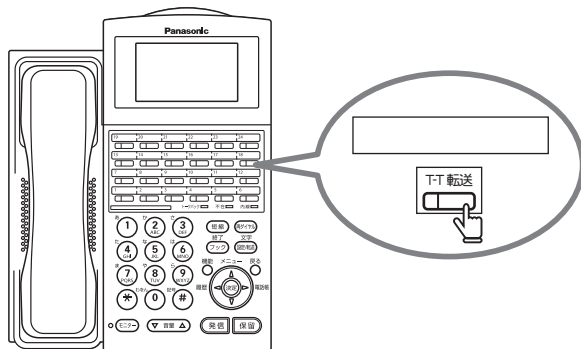
ある回線にかかってきた電話を、あらかじめ指定した外線番号へ自動的に転送することができます。たとえば、「営業一課」と「営業二課」にかかってくる電話をすべて、XXX-XXX-XXXXに転送するという設定ができます。転送先として内線の電話番号を登録することはできません。



転送先をあらかじめ設定しておいて、自動転送したいときにモードを切り替えます。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに [指定外線転送] キー（[T-T 転送] キー）を登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

■ 転送電話を有効にする／解除する



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例)



転送電話を有効にする

- 1 電話機が待受状態のときに、を押す

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100


2 転送する回線に割り付けられているキー（[外線1] など）を押す

転送する回線が複数ある場合は、続けてその回線のキーも押します。（[外線2]、[外線3] など）

3 保留を押す


転送電話が有効になります。

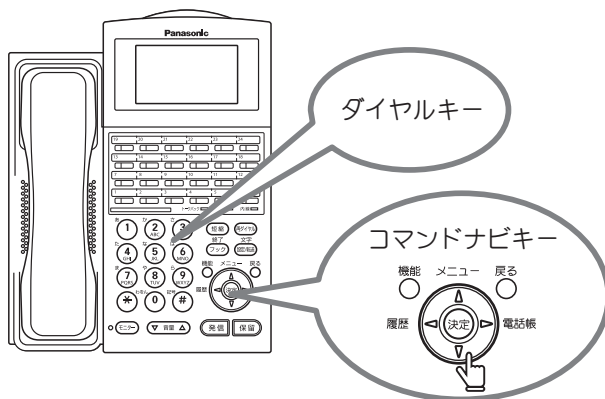
転送電話を解除する

1 赤く点灯している  を押す

転送電話が解除されます。

■ 転送する回線と転送先の外線を指定する

 **メモ** この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。



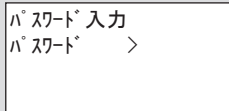
 **メモ**

転送先の外線の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

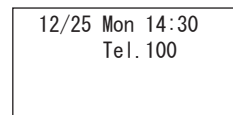
ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、転送する回線と転送先の外線を指定する方法を説明します。システム管理電話機では、手順**2**～**3**の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。
 ※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
 その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。



待受状態のディスプレイの表示例



電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 **0**を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

「0 : 」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード (数字 4 桁) を入力し、**(決定)**を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。

管理者用パスワード入力
パスワード >****

管理者用パスワードについては、取扱店にご相談ください。

4 「4 : 転送設定」を**(上)**、**(下)**で選び、**(決定)**を押す

転送設定メニューが表示されます。

メインメニュー
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル
4: 転送設定

メニューに表示されていない項目は、**(上)**を押してカーソルを移動させると表示できます。**(下)**を押すとメニューの上のほうに戻ります。

5 「4 : 転送電話」を**(上)**、**(下)**で選び、**(決定)**を押す

転送電話メニューが表示されます。

転送設定
2: 不在転送詳細設定
3: 不在設定
4: 転送電話

6 どの回線にかかってきた電話を転送するかを外線キーを押して指定する

転送先の番号を設定する画面が表示されます。

転送電話
登録外線?

7 ダイヤルキーで、転送先の電話番号を入力する

転送電話
0123456789

8 **(決定)**を押す

転送する回線と転送先が設定され、転送設定メニューに戻ります。

転送先が設定されると同時に、不在転送も「有効」の状態になります。

不在転送を「無効」にしたい場合は、赤く点灯している**(不在転送)**を押してください (p.97「不在転送を有効にする／解除する」を参照)。

メモ 数字表示付電話機がシステム管理電話機の場合は、以下の操作で不在転送先を登録できます。



※ この操作では不在転送は「有効」の状態になりません。不在転送の有効／無効の切り替えについては p.97「不在転送を有効にする／解除する」を参照してください。

4-4 昼夜モードを切り替える

昼休みや夜間や留守のとき、外線ごとに着信音を鳴らす電話機、鳴らさない電話機を指定したり、着信先を切り替えることができます（グループごと）。また、ガイダンスの種類を変更することもできます。このとき、着信音は鳴らなくても外線ランプは点滅します。

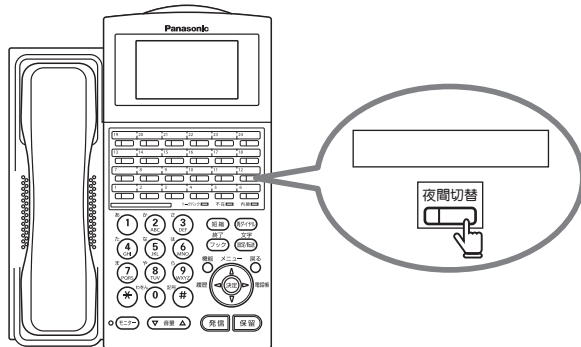
設定できるモードは「昼夜モード1」～「昼夜モード4」の4種類です。あらかじめ、各モードに着信音や着信先またはガイダンスの種類などについて設定しておく、ワンタッチで昼夜モードを切り替えることができます。また、設定により時間帯（最大10）によって、自動的にモードを切り替えることもできます。着信先やガイダンスの種類の設定については、取扱店にご相談ください。

■ 昼夜モードを手動で切り替える

（昼夜切替）

昼夜モードの切替えを行います。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「夜間切替」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例) 昼夜切替
夜間切替

昼夜モードを切り替える

1 夜間切替 を押す

キーを押す前に 夜間切替 ランプが消灯していた場合は、ランプが赤く点灯し、昼夜モード2に切り替わります。

電話機が待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

夜間切替 を押すたびに昼夜モード1～4が切り替わります。設定されているモードとランプの色は以下のとおりです。

昼夜モード1	消灯
昼夜モード2	赤点灯
昼夜モード3	緑ダブルウインク点滅
昼夜モード4	緑フラッシュ点滅

※昼夜モードを切り替えるとき、設定する昼夜モードを電話機のディスプレイに表示させることができます。表示させる方法と操作方法については取扱店にご相談ください。

手動切替から自動切替に戻す

1 保留 を押す

電話機が待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

2 夜間切替 を押す



あらかじめデータ設定しておくことにより、指定曜日および指定した時間帯（最大10）に指定した昼夜モード（1～4）に自動的に切り替えることができます。このような設定については、取扱店にご相談ください。

例) 土、日、祝祭日・・・・・・・・・・ 終日 昼夜モード4

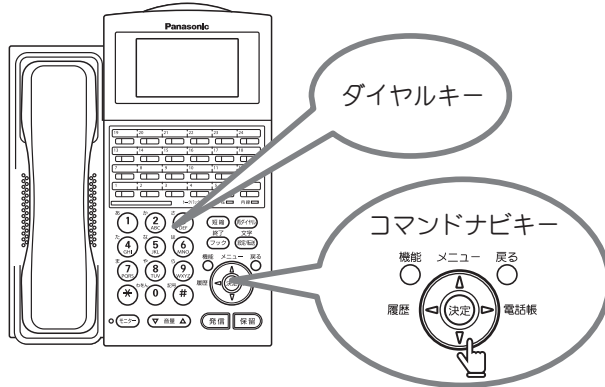
平日・・・・・・・・・・ 18:00～翌9:00 昼夜モード3

■ 昼夜モードごとに着信音を設定する

漢字

昼夜モードごとに、着信音を鳴らす／鳴らさないを選択できます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。



メモ

昼夜の着信音の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、昼夜の着信音を設定する方法を説明します。システム管理電話機では、手順**2**～**3**の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、**決定**を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。
※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード >
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
12/25 Mon 14:30
Tel. 100
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 **0**を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

```
メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル
```




「0:」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字4桁）を入力し、**決定**を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。



```
管理者用パスワード入力
パスワード >****
```




管理者用パスワードについては、取扱店にご相談ください。

4 「6:管理者の設定項目」を 、 **で選び、**
 **を押す**

管理者の設定項目メニューが表示されます。




- | |
|------------|
| メインメニュー |
| 4:転送設定 |
| 5:その他設定 |
| 6:管理者の設定項目 |

メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

5 「4:内線設定」を 、 **で選び、**
 **を押す**




内線設定メニューが表示されます。


- | |
|-----------|
| 管理者の設定項目 |
| 2:発信機能 |
| 3:着信機能 |
| 4:内線設定 |
| 5:内部保留音設定 |


6 「1:昼夜モード毎鳴動設定」
を 、 **で選び、**  **を押す**

昼夜モード1の鳴動を設定する画面が表示されます。

- | |
|--------------|
| 内線設定 |
| 1:昼夜モード毎鳴動設定 |
| 2:オフフック応答設定 |
| 3:内線番号設定 |

7 昼夜モード1～4の鳴動のあり/なし
を 、 **で選び、**  **を押す**

を押すたびに、次の昼夜モードの鳴動設定画面に切り替わります。

昼夜モード4の鳴動設定画面で、を押すと、昼夜の鳴動について設定され、内線設定メニューに戻ります。

- | |
|------------|
| 一般着信 昼夜m鳴動 |
| 1:鳴動あり * |
| 2:鳴動なし |

※画面上の「m」は現在設定している昼夜モード1～4の数字が表示されます。

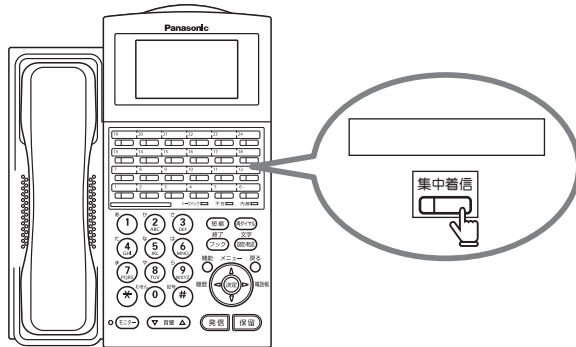
4-5 着信を1台の電話機で受ける

(集中着信)

夜間など、決まった電話だけで着信応答を行いたい場合は、1台の電話だけに集中して着信させることができます。これを集中着信と呼びます。

集中着信では、個別着信を除くすべての外線着信を、グループ分けに関係なく1台の電話機で受けることができます。集中着信中は受話器を上げるだけで応答できます。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「集中着信」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。




メモ


- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例) 集中



集中着信を設定する／解除する

- 1 集中着信を設定する電話機で、**  **を押す**

 のランプは赤く点灯します。

- 2 解除するときは、赤く点灯している**

 **を押す**

 のランプは消灯します。

集中着信に応答する

集中着信を設定した電話機で、外線着信音が鳴ったら、以下の操作を行います。

- 1 受話器を上げる**

通話ができる状態になります。

- 2 通話が終了したら受話器を戻す**

待受状態のときに、受話器を上げて操作します。

4-6 迷惑電話を拒否する

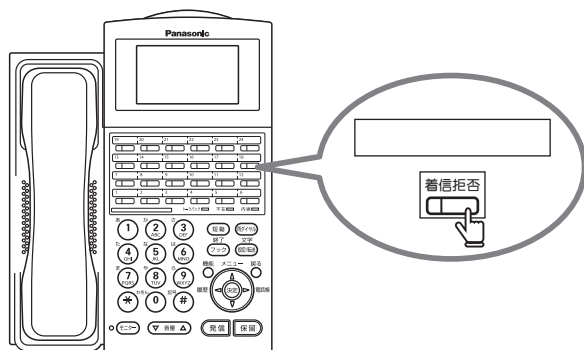
非通知やあらかじめ登録しておいた電話番号から電話がかかってきた場合に、着信を拒否することができます。迷惑電話を拒否するには、拒否する番号の登録と対処方法の選択が必要になります。この機能を利用するには、取扱店にご相談ください。また、この機能を利用するには、通信事業者（NTT など）が提供する、発信者の番号を表示する機能（ナンバーディスプレイ）が必要です。

設定項目	説明箇所	
迷惑電話の番号	通話中の相手を着信拒否に設定する	p.114
	着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する	p.115
	着信拒否の電話番号を登録する	p.116
	着信拒否の電話番号を削除する	p.118
迷惑電話への対処方法	迷惑電話への対処方法を設定する	p.120

■ 通話中の相手を着信拒否に設定する

現在通話中の相手を着信拒否に設定することができます。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「着信拒否」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



1 通話中に **着信拒否** を押す

通話相手の電話番号が着信拒否として登録されます。

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例)

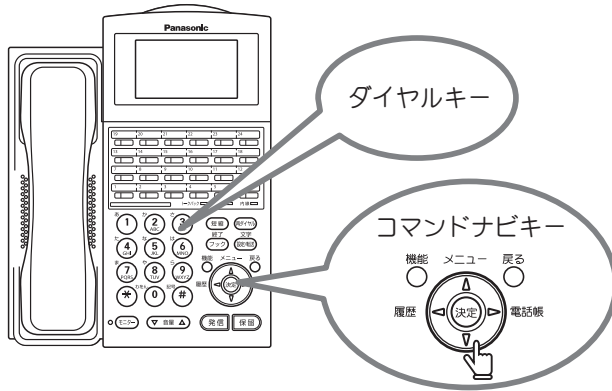


■ 着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する

漢字

着信記録から着信拒否に設定する相手を選ぶことができます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。



メモ

着信記録は、ディスプレイのメニューから表示します。
ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、着信拒否の電話番号を登録する方法を説明します。システム管理電話機では、手順**2**～**3**の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、**決定**を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 **0**を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

「0:」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字4桁）を入力し、**決定**を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。

管理者用パスワード入力
パスワード >****

管理者用パスワードについては、取扱店にご相談ください。

4 着信拒否に設定する着信記録を表示する

着信記録の表示方法は、p.71「着信記録を表示する」を参照してください。

着信記録(個別着信)01
01/15 13:45 通話
03xxxxxxxx

5 (決定)を押す

編集メニューが表示されます。

編集
2: 記録削除
3: 全記録削除
4: 着信拒否登録

6 「4: 着信拒否登録」を(決定)で選び、(決定)を押す

確認する画面が表示されます。

メニューに表示されていない項目は、(決定)を押してカーソルを移動させると表示できます。(決定)を押すとメニューの上のほうに戻ります。

7 「1: はい」を(決定)で選び、(決定)を押す

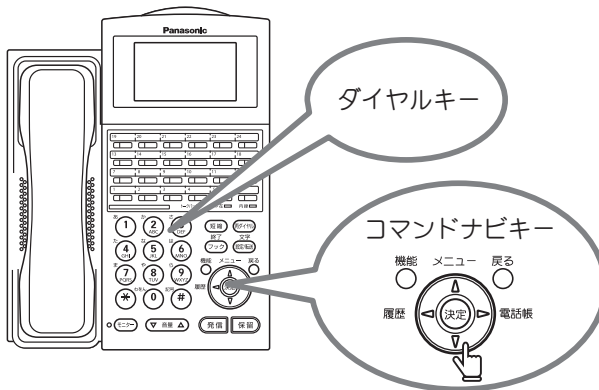
選択した電話番号が着信拒否に登録されます。

着信拒否しますか?
1: はい
2: いいえ

■ 着信拒否の電話番号を登録する

着信を拒否する電話番号をダイヤルして登録します。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。



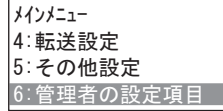
メモ 着信拒否の番号をダイヤルして登録する場合は、ディスプレイのメニューから行います。ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

1 管理者モードで、電話機のディスプレイにメインメニューを表示する

p.115「着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する」の手順 **1**～**3**を行います。

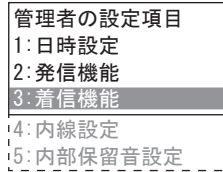
2 「6:管理者の設定項目」を 、 で選び、 を押す

管理者の設定項目メニューが表示されます。



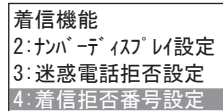
3 「3:着信機能」を 、 で選び、 を押す

着信機能メニューが表示されます。



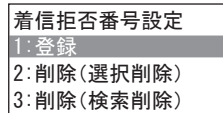
4 「4:着信拒否番号設定」を 、 で選び、 を押す

着信拒否番号設定メニューが表示されます。



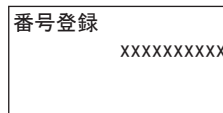
5 「1:登録」を 、 で選び、 を押す

番号を登録する画面が表示されます。



6 ダイヤルキーで着信拒否する番号を入力し、 を押す

入力した電話番号が着信拒否に登録され、着信拒否番号設定メニューに戻ります。



メモ 以下の方法でも操作できます。

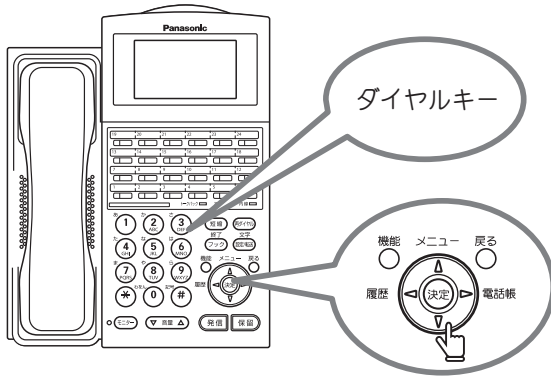


■ 着信拒否の電話番号を削除する

漢字

着信拒否の電話番号として登録した番号を、着信拒否の登録から削除します。着信拒否に登録している番号が多い場合は、検索してから削除することができます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。



メモ

ディスプレイのメニューから設定します。ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

全件を見ながら削除する

1 着信拒否番号設定メニューを表示する

p.116「着信拒否の電話番号を登録する」の手順

1～**6**を行います。

2 「2:削除(選択削除)」を \uparrow 、 \downarrow で選び、 \odot を押す

削除する番号を選ぶ画面が表示されます。

着信拒否番号設定

- 1:登録
- 2:削除(選択削除)
- 3:削除(検索削除)

3 着信拒否を削除する番号を \uparrow 、 \downarrow で選び、 \odot を押す

削除を確認する画面が表示されます。

選択削除 No. xxx
xxxxxxxxxx

\downarrow を押すと、着信拒否に登録されている番号が順番に表示されます。 \uparrow を押すと前に戻ります。

4 削除してよい場合は、「1:はい」を \uparrow 、 \downarrow で選び、 \odot を押す

選択した番号が着信拒否の登録から削除され、着信拒否番号設定メニューに戻ります。

削除しますか?

- 1:はい
- 2:いいえ

番号を検索してから削除する

1 着信拒否番号設定メニューを表示する

p.116「着信拒否の電話番号を登録する」の手順

1～**6**を行います。

2 「3:削除 (検索削除)」を 、 で選び、 を押す

検索のために番号を入力する画面が表示されます。

着信拒否番号設定

1:登録

2:削除(選択削除)

3:削除(検索削除)

3 ダイヤルキーで電話番号を入力し、 を押す

検索結果が表示されます。

検索削除



XXXXXXXXXX

4 表示された番号を確認し、 を押す

削除を確認する画面が表示されます。

No. xxx

XXXXXXXXXX

 を押すと、着信拒否に登録されている番号が順番に表示されます。 を押すと前に戻ります。

5 削除してよい場合は、「1:はい」を

、 で選び、 を押す

選択した番号が着信拒否の登録から削除され、着信拒否番号設定メニューに戻ります。

削除しますか?

1:はい

2:いいえ

■ 迷惑電話への対処方法を設定する

漢字

迷惑電話に対して、どのように対処するかを以下の3種類から選んで設定することができます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。

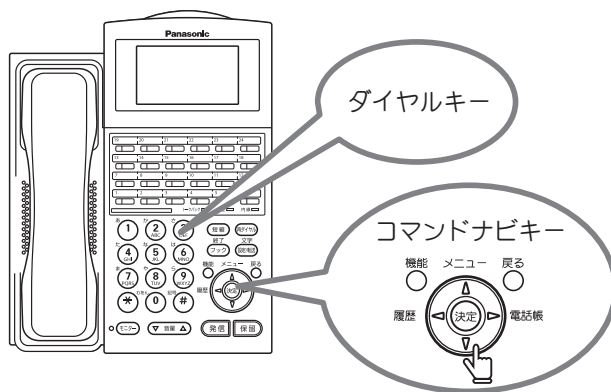
対処の種類	電話への接続	相手に聞こえるガイダンス
拒否	自動的に切断	なし
ガイダンス1	ガイダンスを流したあと切断	「申し訳ございませんがおつなぎできません。」
ガイダンス2	ガイダンスを流したあと切断	「申し訳ございませんがおつなぎできません。 恐れ入りますが、電話番号の前に186をつけてダイヤルするなど、あなたの電話番号を通知しておかけ直してください。」

- * IP OFFICE EX の場合はガイダンスを流す機能がいないため、「ガイダンス1」「ガイダンス2」を選んだ場合、電話への接続は「自動的に切断」されます。
- * 着信拒否の電話番号として登録した電話番号の場合は、「ガイダンス1」しか選ぶことができません（電話機には「ガイダンス」と表示されます）。

対処方法は、以下の3種類の電話番号に対してそれぞれ設定します。設定画面はこの3つが順番に表示されます。

1. 迷惑電話として着信拒否番号に登録した電話番号
2. 着信拒否<非通知>（相手が「非通知」に設定している番号）
3. 着信拒否<その他理由>（ネットワークや回線の条件で番号が通知されないもの。公衆電話など）

たとえば、上記の1.に対しては「拒否」を設定し、2.に対しては「ガイダンス2」を設定し、3.に対しては「着信可」を設定するなど、違う対処方法を設定することができます。設定した対処方法は、該当するすべての電話番号に対して適用されます。



メモ 迷惑電話への対処方法は、ディスプレイのメニューから設定します。ディスプレイのメニューはコマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

迷惑電話（着信拒否番号）への対処を選ぶ

1 着信機能メニューを表示する

p.116「着信拒否の電話番号を登録する」の手順

1～**5**を行います。

2 「3:迷惑電話拒否設定」を \leftarrow 、 \rightarrow で選び、 \odot を押す

迷惑電話拒否設定メニューが表示されます。

着信機能
1: 着信形式
2: ナンバーディスプレイ設定
3: 迷惑電話拒否設定

3 登録した着信拒否番号への対応方法を選択する画面が表示されます。

- ・ 続いて、着信拒否<非通知>への対応方法を選択する画面が表示されます。
- ・ 以降の設定を変更する必要がない場合は、 \odot を押して操作を終了します。

迷惑電話拒否設定
1: 着信可
2: 拒否
3: ガイダンス

「1: 着信可」を選んだ場合は、着信拒否番号から電話があっても、すべて着信されます。

電話番号非通知などへの対処を選ぶ

1 上の**1**～**3**を行った後、着信拒否<非通知>への対応方法を選択する画面が表示されます。

- ・ 続いて、着信拒否<その他理由>への対応方法を選択する画面が表示されます。
- ・ 以降の設定を変更する必要がない場合は、 \odot を押して操作を終了します。

着信拒否<非通知>
1: 着信可
2: 拒否
3: ガイダンス1
4: ガイダンス2

公衆電話からの着信などへの対処を選ぶ

1 上の**1**を行った後、着信拒否<その他理由>への対応方法を選択する画面が表示されます。

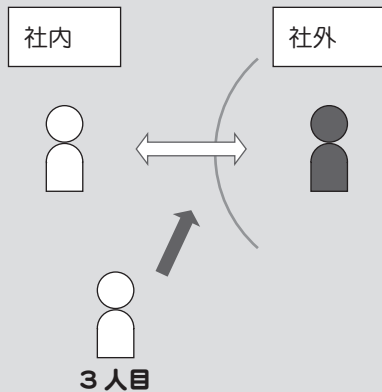
迷惑電話への対応方法が設定され、着信機能メニューに戻ります。

着信拒否<その他理由>
1: 着信可
2: 拒否
3: ガイダンス1
4: ガイダンス2

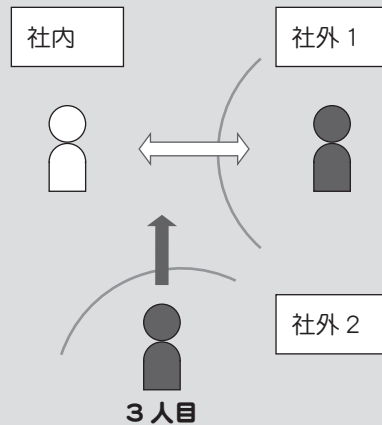
4-7 3人以上で通話する

電話機は通常1対1の通話となっており、他人が聞くことができない状態になっています。この秘話状態を解除することで3人以上で通話することができます。ここでは、以下の2つのパターンについて説明します。

パターン1：外線で通話中に社内の人を加える



パターン2：外線で通話中に他の外線に電話してその人を加える



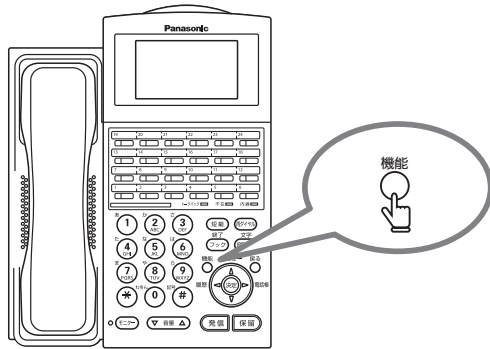
メモ 上記の「パターン2：外線で通話中に他の外線に電話してその人を加える」を行うには、工事者による設定が必要です。取扱店にご相談ください。

■ 社内の人を口頭で呼びかけて会議通話に加える

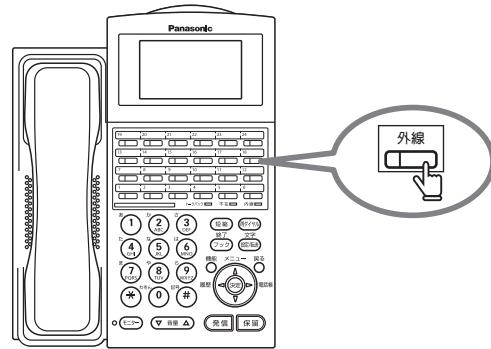
(秘話解除)

外線との通話中に秘話を解除し、もう1人社内の人を通話に加えて3者による通話ができます。

参加を呼びかける人の操作



新たに参加する人の操作



1 通話相手に、もう1人加えることを伝え、

機能
○ を押す

- ・数字表示付電話機の場合は、**確認/会議** を押します。
- ・秘話は解除されます。
- ・ディスプレイの1段目に、『会議通話』と表示されます。

会議通話
Tel. 100

2 通話に加わる人に口頭で呼びかける

たとえば、「鈴木さん。[外線 1] の通話に加わってください。」と呼びかけます。

3 機能 ○ を押して、3者で通話する

数字表示付電話機の場合は、**確認/会議** を押します。

1 呼びかけられた人は受話器をあげる

受話器から「ツーター」と発信音が聞こえます。

2 指定された外線キー(たとえば[外線 1])を押す

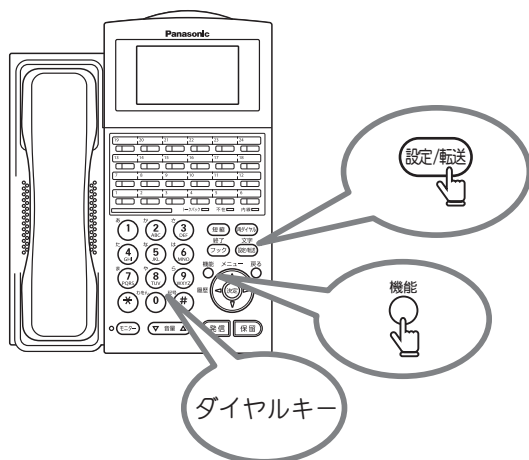
3 3者で通話する

メモ 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定(オフフック外線自動捕捉)をしている場合、呼びかけられた人は、手順 **1** と **2** を逆に行います。

■ 社内外で会議通話をする

(会議通話)

外線または内線と通話中に、もう1人に電話をかけ会議通話に参加させることができます。



※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

1 通話相手に会議通話をはじめるとを伝え、設定/転送**を押す**

2 外線または内線にダイヤルする

外線に電話してその相手を会議通話に加えるには、設定が必要です。取扱店にご相談ください。

3 相手が応答したら、会議通話に加わるよう伝える

たとえば、「今〇〇の件で田中さんと話しています。山田さんも加わってください。」と伝えます。

4 了解を得てから **機能を押す**

- ・数字表示付電話機の場合は、**確認/会議**を押します。
- ・3者で会議通話ができます。

ディスプレイの1段目に、「会議通話」と表示されます。



メモ 会議通話中、同様の操作で別の相手にダイヤルして、最大4者による会議通話をすることができます。

4-8 内線をもっと活用する

内線にはいろいろな機能があります。ここでは次のような場合に利用できる便利な機能を紹介します。

■ 席を離れるとき

説明箇所	
不在時にかかってきた内線の相手にメッセージを送る	p.126
転送先の内線から転送指示をする	p.128

■ 他の内線を呼び出すとき

説明箇所	
グループ内の電話を一齐に音声で呼び出す	p.129
グループ内の一齐音声呼出しを受ける	p.130
他のグループを呼び出す	p.131

■ 他の内線に代わって応答するとき

説明箇所	
グループ内の電話に代理で応答する	p.132
他グループの電話に代理で応答する	p.133

■ 電話をかけた相手の内線が話し中のとき

説明箇所	
話し中の内線を呼び出す	p.134
話し中の内線を予約する	p.135
話し中の内線の近くの内線を呼び出す	p.136

■ 不在時にかかってきた内線の相手にメッセージを送る

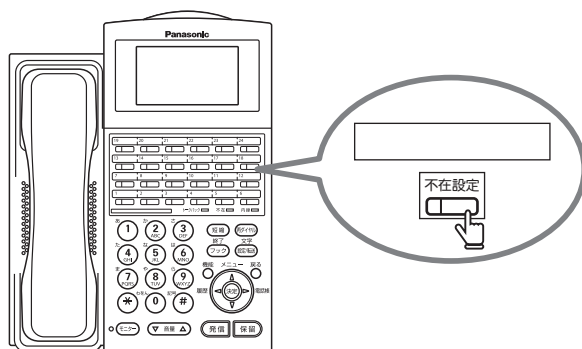
(不在設定)

不在中に内線から電話がかかってきた場合、不在設定をしておくことで、相手の電話機に不在メッセージを表示することができます。不在メッセージは以下の3つから選ぶことができます。

1: 不在 2: 外出 3: 会議

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「不在設定」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

不在設定を有効にする／解除する




メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例) 不在メッセージ




1 不在設定 を押す

 のランプが赤く点灯し、不在設定が有効になります。


不在ランプも赤く点灯します。

待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

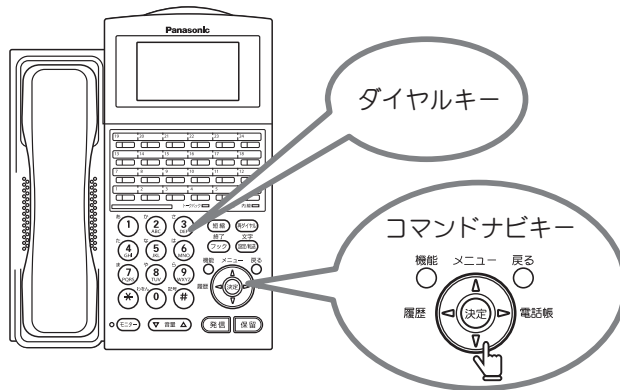
2 解除するときは、赤く点灯している を押す

 のランプが消灯し、不在設定が解除されます。

不在ランプも消灯します。

-  **メモ** 「不在転送」(p.97を参照)と「不在設定」が同時に設定されている電話機では、「不在転送」が優先されます。

不在メッセージを選ぶ



メモ

不在メッセージの選択は、ディスプレイのメニューから行います。
メニューは、コマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。

1 電話機が待受状態のとき、を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「4：転送設定」を、で選び、を押す

転送設定メニューが表示されます。

メインメニュー
2:履歴表示
3:短縮ダイヤル
4:転送設定

3 「3：不在設定」を、で選び、を押す

不在理由を選ぶ画面が表示されます。

転送設定
1:不在転送設定
2:不在転送詳細設定
3:不在設定

4 不在理由を、で選び、を押す

不在理由が設定され、転送設定のメニューに戻ります。

不在設定<理由>
1:不在*
2:外出
3:会議

前回の設定時に選択した項目に「*」が表示されています。

メモ 数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。

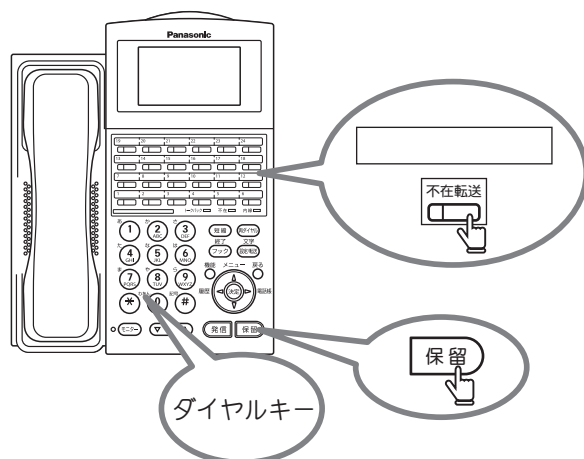
保留 → → 不在種別（1：不在、2：外出、3：会議） → 保留 →

■ 転送先の内線から転送指示をする

(フォローミー)

自分の席の電話機にかかってくる内線を、移動先の内線に転送するように、移動先の電話機から登録することができます。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「不在転送」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例)



※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

1 転送先の電話機で を押す

2 自分の内線番号をダイヤルする

転送元: 200
Tel. 100

3 を押す

- ・登録が完了します。
- ・自分の電話機の のランプが赤く点灯します。

メモ

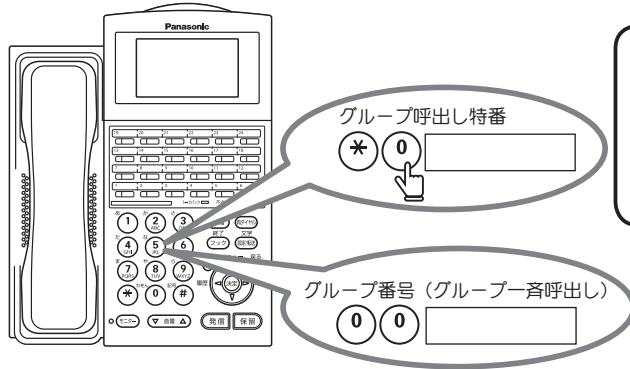
- 転送先の内線から転送指示できるのは、内線着信のみです。
- 転送先の電話機から「不在転送」の解除はできません。「不在転送」の解除は自分の電話機で、赤く点灯している を押して行ってください。 のランプが消灯したら、「不在転送」は解除されています。

■ グループ内の電話を一斉に音声で呼び出す

(グループ音声呼出し)

同じグループに設定されている内線の電話機を一斉に音声で呼び出すことができます。

▶▶ グループの設定については、取扱店にご相談ください。



メモ

グループ呼出し特番、グループ番号が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくとう便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 グループ呼出し特番をダイヤルする

初期設定は * 0 です。

3 グループ番号をダイヤルする

初期設定 0 0 は、すべての内線電話の一斉呼出しです。

4 受話器でグループ名を呼びかける

たとえば「営業1課さん」と呼ぶと、そのグループのすべての電話機の「スピーカ」から呼びかける音声の流れます。

5 相手が応答したら通話する

6 通話が終了したら、受話器を戻す

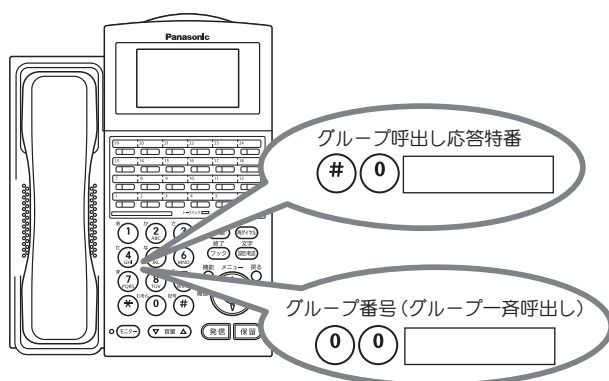
この呼出しが聞こえたときの電話の受け方は、次の「グループ内の一斉音声呼出しを受ける」を参照してください。

メモ グループ呼出し特番とグループ番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 2 と 3 の操作をワンタッチでできます。p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。
また、グループ内の電話が一斉に音声呼出しを受けたときにもフレキシブルキーが使えます。

■ グループ内の一斉音声呼出しを受ける

(グループ呼出し応答)

グループ内の内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには、グループ内のどの電話機でも応答できます。



メモ

- グループ呼出し応答特番、グループ番号が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくとう便利です。
- 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定 (オフフック外線自動捕捉) を行っている場合、操作手順 **2** の前に (設定/転送) または **1** の前に (モニター) を押します。

1 受話器を上げる

- ・受話器から「ツーター」と発信音が聞こえます。
- ・電話機の画面にはグループ番号が表示されます (数字表示付電話機では表示されません)。

12/25 Mon 14:30
グループ nn

nnはグループ番号 (00 ~ 99)

2 グループ呼出し応答の特番をダイヤルする

初期設定は (#) (0) です。

3 グループ番号をダイヤルする

- ・手順 **1** で画面に表示されたグループ番号をダイヤルしてください。なお、初期設定 (0) (0) は、すべての内線電話の一斉呼出しです。
- ・通話ができる状態になります。

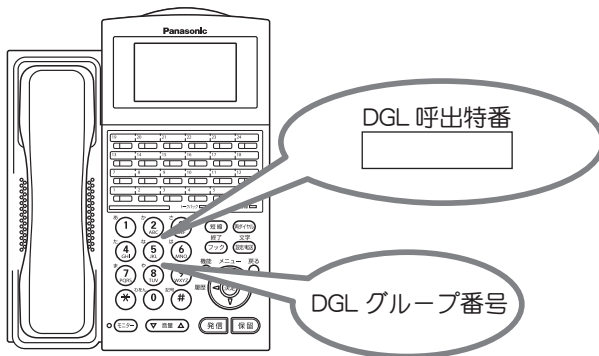
4 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ グループ呼出し応答特番とグループ番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 **2** と **3** の操作をワンタッチでできます。p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。

■ 他のグループを呼び出す

(DGL グループ呼出し)

営業部、総務部など DGL グループとしてグループ分けされた部署同士で、直接電話をかけることができます。



メモ

- DGL 呼出特番については、取扱店にご相談ください。
- DGL 呼出特番と DGL グループ番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 **2** と **3** の操作をワンタッチでできます。p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーター」と発信音が聞こえます。

2 DGL 呼出特番をダイヤルする

DGL 呼出特番については取扱店にご相談ください。

3 DGL グループ番号をダイヤルする

DGL グループ番号については取扱店にご相談ください。

4 相手が応答したら通話する

DGL グループ呼出しを受けた電話では、ディスプレイ上段に「DGL nn」と表示されます。受話器を上げると、通話ができる状態になります。

12/25 Mon 14:30
DGL nn

nn は DGL グループ番号

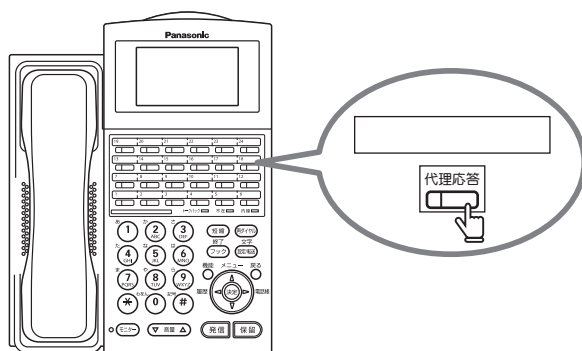
5 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ 拡張内線番号を利用することで、DGL グループを内線と同じように呼び出すことができます。この機能を使うときは、取扱店にご相談ください。

■ グループ内の電話に代理で応答する

(代理応答)

グループ内の別の電話機にかかってきた電話を代わりに受けることができます。



内線グループ内の別の内線電話機の着信音が鳴ります。

1 受話器を上げる

2 を押す


3 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例)  代理



- 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 1 の前に  を押します。

メモ

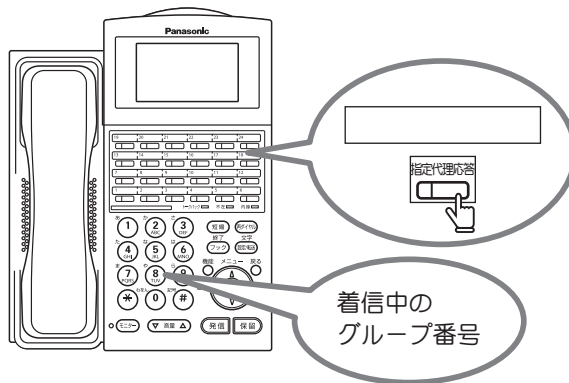
グループ内代理応答には、上記の他に内線着信のみを指定する内線代理応答と、外線着信のみを代理応答する外線代理応答があります。

- 内線代理応答の場合は、[内線代理応答] キーを押します。
- 外線代理応答の場合は、[外線代理応答] キーを押します。
- 各代理応答キーの他に、特番（初期値：代理応答「11」）を押して代理応答することもできます。

■ 他グループの電話に代理で応答する

(指定代理応答)

他のグループにかかってきた電話を、代わりに受けることができます。



他のグループの内線電話機の着信音が鳴ります。

1 受話器を上げる

2 を押す

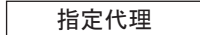
3 着信中のグループ番号をダイヤルする

通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例)  指定代理



- 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **1** の前に **モニター** を押します。

代理 応 答 グループ：
Tel. 100

グループ番号については、取扱店にご相談ください。

 **メモ** 一般着信 / DGL グループ着信の代理応答については、取扱店にご相談ください。

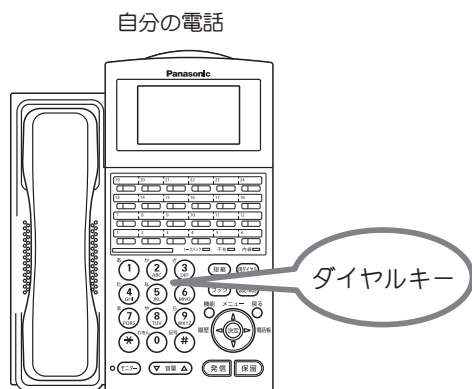
■ 話し中の内線を呼び出す

(内線キャッチホン)

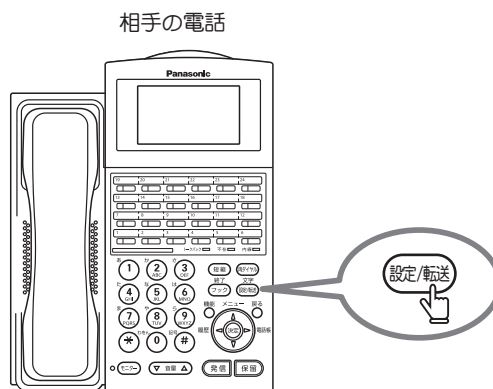
電話をかけた相手の内線が通話中のとき、相手のディスプレイに「CWT 内線番号」が表示されます。相手が見て早めに電話を終わらせたり、通話中の電話を保留にしてこちらの電話に応答することができます。この機能を利用するには、取扱店にご相談ください。

ここでは、相手が通話中の電話を保留にしてこちらの電話に応答するときの操作を説明します。

呼び出す側の操作



呼び出される側の操作



1 相手に内線をかける

受話器から「ツーツーツ」が聞こえます。

1 他の電話と通話中

(受話器から「キャッチホン」の信号が聞こえ、ディスプレイには「CWT 相手の内線番号」が表示されます。)

内線 223
CWT 200

2 かかってきた内線に応答する場合は、点滅している「設定/転送」を押す

- ・かかってきた内線電話とつながります。
- ・内線ランプの点滅が遅くなります。
- ・通話中だった相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

(かけた内線と電話がつながる)

2 通話する

3 通話する

3 通話が終了したら、受話器を戻す

4 前の相手に戻るときは、「設定/転送」を押す

内線ランプは、赤点灯に戻ります。



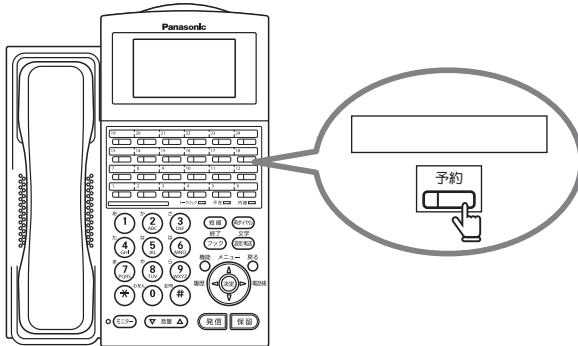
メモ

数字表示付電話機の場合は、画面に「CWT」と表示されませんが、内線ランプが速い点滅をして、キャッチホンの信号音が聞こえることで、通話中に着信があったことが分かります。

■ 話し中の内線を予約する

(内線キャンプオンビジー)

相手の内線が通話中のとき、予約をしておくと、相手の通話が終わったときに空いたことを知らせる呼出し音が鳴ります。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例) 内線予約



1 相手に内線をかける

受話器から「ツーツーツ」が聞こえます。

2 を押す

予約ランプが赤く点灯します。

3 受話器を戻す

4 呼出し音が鳴ったら受話器を上げる

- ・受話器から「ブルールルル」と呼出し音が聞こえ、予約ランプが消灯します。
- ・相手が呼び出されます。
- ・相手が応答すると、通話ができます。

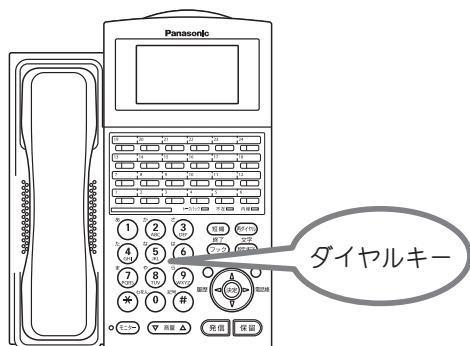
12/25 Mon 14:30
呼び返し

5 通話が終了したら受話器を戻す

■ 話し中の内線の近くの内線呼び出す

(シリーズコール)

相手の内線が通話中のとき、その近くの内線呼び出すことができます。たとえば、呼び先の課の内線番号が「210～214」と5台あり、「210」にかけて通話中だった場合は、「1」をダイヤルすることで「211」番へかかります。



メモ

この機能を利用する場合は、取扱店にご相談ください。

1 相手に内線かける (たとえば内線番号「210」)

受話器から「ツーツーツ」と話し中の音が聞こえます。

2 代わりにかけたい内線の下1桁をダイヤルキーで押す (たとえば「211」にかける場合は ①を押す)

- ・「211」番を呼び出します。
- ・「2」をダイヤルすると、「212」番を呼び出します。

3 相手が応答したら通話する

4 通話が終了したら、受話器を戻す

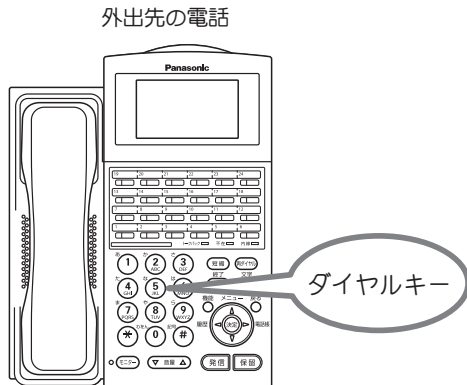
4-9 外出時に便利な機能

ここでは外出時に便利な機能を説明します。

■ 外出先から転送電話の設定などを変更する

(PB 遠隔保守)

外出先から転送電話などの設定を変更することができます。この機能を使うには、取扱店にご相談ください。また、この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号を送ることができるものを使用してください。



PB 遠隔保守モードへのログイン方法

1 外出先から会社電話をかける

- ・付加番号 DID / 留守 PB でかけた場合は、操作手順 **2** へ、着サブアドレスでかけた場合は、操作手順 **4** へ進みます。
- ・着サブアドレスは、初期設定で“921234”となっています。

2 PB 保守特番 **9** **2** (初期設定) を押す

予約ランプが赤く点灯します。

3 暗証番号 **1** **2** **3** **4** を押す

- ・受話器から「ピー」という音が聞こえます。
- ・暗証番号の初期設定は“1, 2, 3, 4”です。変更している場合は、取扱店にお聞きください。予約ランプが赤く点灯します。

4 自分の内線番号をダイヤルする

以降、モード番号を入力することで各 PB 遠隔保守操作を行うことができます。

転送電話の設定／解除	1
転送電話の転送先変更	2 ABC
PS 圏外転送の設定／解除	3 DEF
不在転送の設定／解除	4 GHI
不在転送の転送先変更	5 JKL
昼夜モードの切替え	7 PQRS
日付／時間の変更	*

モード番号ごとに操作手順を説明します。

メモ

各 PB 遠隔保守操作は **9** を押すと終了しますが、**9** を押さずに別の操作のモード番号を入力すると、続けてその PB 遠隔保守操作を行うことができます。PB 遠隔保守モードへログインし直す必要がないので便利です。

転送電話の設定／解除

1 モード番号 **①** をダイヤルする

2 回線番号 (トランク番号) をダイヤルする

3 モード変更の設定／解除をする

- ・設定のときは、**③** を押します。
- ・解除のときは、**④** を押します。

4 **⑨** をダイヤルする

転送電話の転送先変更

1 モード番号 **②** をダイヤルする

2 回線番号 (トランク番号) をダイヤルする

3 転送先電話番号をダイヤルする

4 転送先変更を設定する

③ を押します。

5 **⑨** をダイヤルする

PS 圏外転送モード変更

1 モード番号 **③** をダイヤルする

2 モード変更の設定／解除をする

- ・設定のときは、**③** を押します。
- ・解除のときは、**④** を押します。

3 **⑨** をダイヤルする

不在転送の設定／解除

1 モード番号 **④** をダイヤルする

2 モード変更の設定／解除をする

- ・設定のときは、**③** を押します。
- ・解除のときは、**④** を押します。

3 **⑨** をダイヤルする

不在転送の転送先変更

1 モード番号 **⑤** をダイヤルする

2 転送元種別をダイヤルする

- ①** : 内線 **③** : 専用線
- ②** : 外線 **④** : 一括

3 番号種別をダイヤルする

- ①** : 外線 **②** : PBX
- ①** : 内線 **③** : 代行 (ボイスメール)

※手順 **③** で「代行」を選択したときは、手順 **④** ~ **⑤** は必要ありません。

4 転送先電話番号をダイヤルする

5 不在転送先変更を設定する

③ を押します。

6 **⑨** をダイヤルする

メモ

転送する電話番号に対応する回線番号 (トランク番号) を、取扱店に確認してください。

昼夜モードの切替え

1 モード番号 **7** PQRS をダイヤルする

2 夜間切替グループ番号 (3桁) をダイヤルする

3 昼夜モードを選択する

- ・時間帯による自動切替に設定するときは、**0** を押します。
- ・昼夜モード1～4を設定するときは、**1**～**4** GHI を押します。

4 **9** WXYZ をダイヤルする

日付/時間の変更

1 モード番号 ***** をダイヤルする

2 日付変更のとき **1** を、時間変更のとき **2** ABC をダイヤルする

- ・日付変更 **1** をダイヤルしたとき
例) 2006年10月20日(月)
「06102001」とダイヤルします。
曜日
00:日曜日 04:木曜日
01:月曜日 05:金曜日
02:火曜日 06:土曜日
03:水曜日
- ・時間変更 **2** ABC をダイヤルしたとき
例) 午後4時30分
「1630」とダイヤルします。

3 日付/時間の変更を設定する

を押します。

4 **9** WXYZ をダイヤルする

無線 LAN デュアル端末を社内で内線として使用する


無線 LAN デュアル端末を、外出先では携帯電話、社内では内線電話として利用できます。社内も外出先も1台の端末で通話可能となります。また、無線 LAN デュアル端末で社内から発信するときは一般電話網を使用するため、通話料金が大幅に削減できます。

➤ 無線 LAN デュアル端末を内線電話として使用する場合には、p.208「6-4 無線 LAN デュアル端末について」を参照してください。

4-10 ボイスメール機能を使う

ボイスメール機能を使って相手のメールボックスに声の伝言メッセージを送ることができます。e-mailのように相手が不在のときもメッセージを送っておくことや、一度に複数の人にメッセージを送ることもできます。ボイスメール機能にはその他にも、通話を録音したり、外出先から自分のメールボックスを確認するなど便利な機能があります。

ボイスメール機能を使う前に知っておいていただきたいことを以下に説明します。

 **メモ** ボイスメール機能には、標準搭載のボイスメール機能（IP OFFICE MX）、別売パッケージのボイスメール機能（8VMT）（IP OFFICE MX/EX）、CTstage Lite のボイスメール機能（IP OFFICE MX/EX）があります。
ここで説明しているのは、標準搭載および別売パッケージのボイスメール機能です。
CTstage Lite のボイスメール機能については、取扱店にご相談ください

メールボックスについて

メールボックスは内線ごとに設定されるので、メールボックス番号は内線番号と同じになります。



- メールボックスは、内線の数より多く設定することもできます。その場合のメールボックス番号の設定については、取扱店にご相談ください。
- メールボックス番号には、同報グループ番号という、グループのメンバーに一括でメッセージを送るための番号を用意することもできます。この番号あてにメッセージを送ると、同報グループとして登録されているすべてのメールボックスに同じメッセージが送られます。同報グループ番号の設定については、取扱店にご相談ください。

ボイスメール機能の制限事項

ボイスメール機能では、各メールボックスに録音できるメッセージの件数や録音時間に制限があります。新しいメッセージがいつでも録音できるように、「聞き終わって不要になったメッセージは、すぐ削除する」などのルールを決めて運用することをお勧めします。以下にボイスメール機能の制限を示します。

項目	制限値		
	IP OFFICE MX*		IP OFFICE EX (別売パッケージのみ 使用可)
	標準搭載 機能使用時	別売パッケージ 使用時	
システム内の全メッセージの録音時間の合計	2 時間	120 時間	120 時間
システム内の全メールボックス数	50 個	500 個	500 個
1つのメールボックスのメッセージ保存件数	64 件 **	128 件 **	128 件 **
1つのメッセージの最大録音時間	30 分 **	30 分 **	30 分 **

* : IP OFFICE MX では、ボイスメール機能として標準搭載機能を使用するか、または別売パッケージを使用するかを工事設定で選択できます。ご使用の装置がどちらに設定されているかについては、取扱店にご確認ください。

** : この数値はシステムの最大値です。工事設定により制限値は異なります。

メモ 不要なメッセージを削除する方法

- メッセージは、再生した後に、ダイヤル操作によって保存または削除することができます。保存不要と判断したものは、その場で削除しておく、メールボックスに不要なメッセージが残りません。詳しい操作については、p.149「メッセージを再生する」を参照してください。
- IP OFFICE MX/EX とネットワーク接続されているコンピュータの Web ブラウザから、メールボックス内のメッセージを削除することができます。メッセージの一覧を画面に表示して、一度に複数のメッセージを削除することができます。詳しくは、p.162「メールボックスの中を整理する」を参照してください。
- メッセージの保存期間（1日～99日）を設定すると、その期間を過ぎたメッセージを自動的に削除することができます。削除されるのは、聞き終わったメッセージのみです。この設定を行う場合は、取扱店にご相談ください。

目的に合わせて以下の説明箇所を参照してください。

■ ボイスメールを開始する

説明箇所	
メールセンターに接続する	p.142

■ メッセージを送る／聞く／転送する

説明箇所	
メッセージを録音する（伝言録音）	p.146
メッセージを録音する	p.147
メッセージを再生する	p.149
メッセージを転送する	p.151
通話相手に転送先へのメッセージを録音してもらう	p.152

■ 通話を録音する

説明箇所	
通話を録音する	p.153

■ 外出先からメッセージを確認する

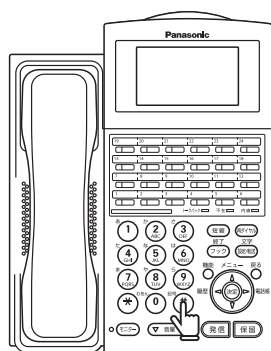
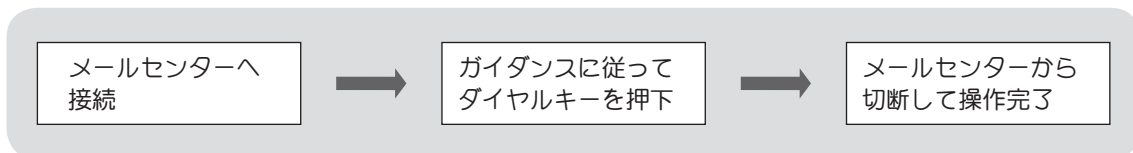
説明箇所	
外出先からメールセンターに接続する	p.155
通話相手をメールセンターに接続させる	p.156

■ 便利な機能

説明箇所	
メールボックスにパスワードを設定する	p.157
メッセージの着信を知らせる	p.159
状態表示盤でメールボックスを活用する	p.161
メールボックスの中を整理する	p.162

■ メールセンターに接続する

ボイスメール機能を使うときは、最初に、電話機を IP OFFICE MX/EX のメールセンターに接続する操作が必要です。IP OFFICE MX/EX では、システム内蔵のメールセンターによってボイスメール機能を提供します。電話機をメールセンターに接続すると、音声ガイダンスが聞こえてきます。そのガイダンスに従ってダイヤルキーを押すだけで、メッセージの録音や再生などの操作を行うことができます。









を押してください…



メモ
音声ガイダンスの言語を2種類（日・英）から選択することができます。言語はメールボックスごとに設定することができます。詳しくは、取扱店にご相談ください。

3種類の接続方法

メールセンターへ接続するには、以下の3つの方法があります。


メールセンターへの接続操作	こんなときに使う
 を押す	フレキシブルキーに [MBX] キー（メールボックスキー）が設定されている場合に使用できる方法です。 [MBX] キーには、アクセスするメールボックスの番号も登録されているので、この方法でメールセンターに接続すると、登録されている番号のメールボックスに直接アクセスできる状態になります。メッセージの再生を行うときは、この方法が便利です。
 を押す	フレキシブルキーに [伝言録音] キーが設定されている場合に使用できる方法です。 この方法でメールセンターに接続したときは、最初のディスプレイ画面で録音先のメールボックス番号を入力します。特定の相手に伝言を送りたい場合は、この方法が一番早く操作できます。
メールセンター接続番号をダイヤルする	フレキシブルキーを使用できないアナログ電話機や PHS、またフレキシブルキーに  や  を設定していない電話機から、メールセンターに接続する場合にこの方法を使います。 この方法で接続すると、最初のガイダンスで、メールボックスアクセスか伝言録音が聞こえてきます。メールボックスアクセスを選んだ場合は、  を押したときと同じ操作ができ、伝言録音を選んだ場合は、  を押したときと同じ操作ができます。 ※メールセンター接続番号については、取扱店にご相談ください。

メールセンターへ接続する3つの方法については、以下を参照してください。

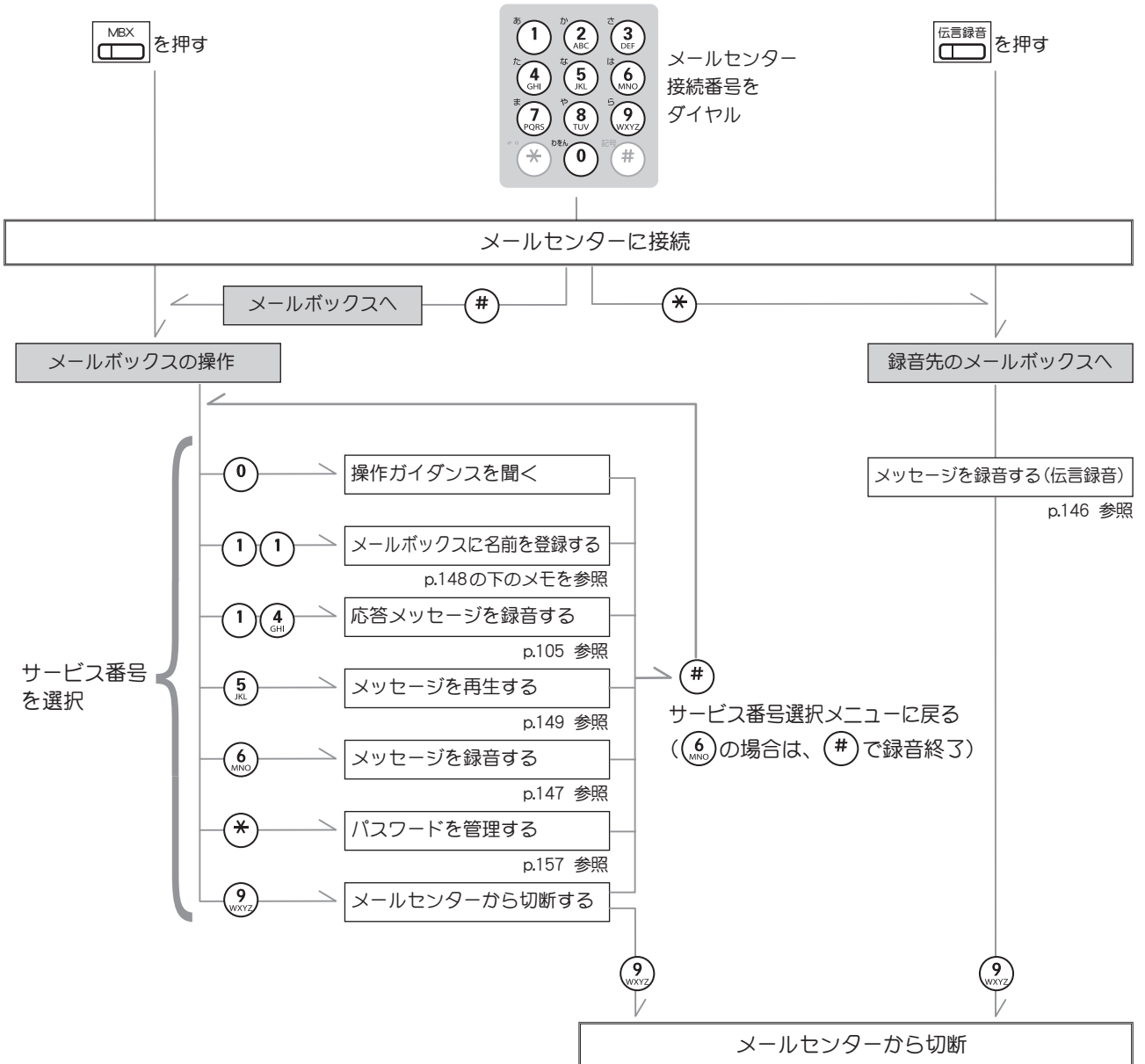
-  で接続する方法 → p.144
- メールセンター接続番号で接続する方法 → p.145
-  で接続する方法 → p.146

メールセンターへの接続から切断までの流れ

各方法でメールセンターに接続し、メールセンターから切断するまでの流れは、下の図のようになります。

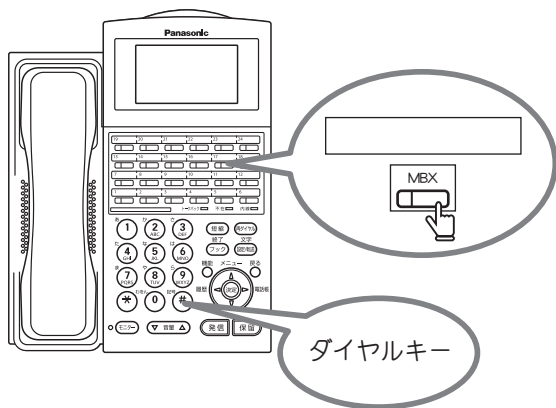
 を押した場合、または「メールセンター接続番号」をダイヤルした場合は、メールボックスの操作をサービス番号で選択します。下の図では選択できるサービス番号も示しています。共通の操作は以下のとおりです。

- サービス番号 **0** を押すと、操作ガイダンスを聞くことができます。
- 各サービスを **#** を押して終了すると、再びサービス番号選択ガイダンスに戻ります。
- メールセンターから切断するときは、**9** を押し、もう一度 **9** を押します。また、受話器を戻すことでもメールセンターから切断できます。



各サービスの詳しい操作は、図中に示したページを参照してください。

[MBX] キーで接続する方法




メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものとは異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例) **メールボックス**

1 受話器を上げる

音声をスピーカから聞く場合は、この操作は不要です。


2  **を押す**
音声ガイダンスが聞こえてきます。


メールボックスに新しいメッセージが届いている場合は、その旨のガイダンスが最初に流れます。


3 パスワードを設定している場合は、パスワード (数字 4 桁) をダイヤルする
「サービス番号を選択してください…」というガイダンスが聞こえます。


パスワードの設定については、p.157「メールボックスにパスワードを設定する」を参照してください。

4 ガイダンスに従って目的の操作を行う


5 操作を終了するときは、 を押す
「サービス番号を選択してください…」というガイダンスが聞こえているときにキーを押します。

- ここで受話器を置いても、メールセンターから切断できません。
- ここで  を押すと、操作ガイダンスを聞くことができます。

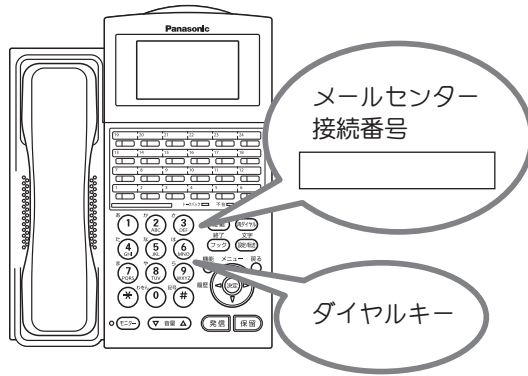
6 メールセンターから切断する場合は、 を押す

ここで  を押すと、サービス番号選択ガイダンスに戻ります。

7 受話器を戻す

音声をスピーカから聞いていた場合は  を押します。

メールセンター接続番号で接続する方法



メモ

メールセンター接続番号は、本書に記入しておくと便利です。

1 受話器を上げる

音声をスピーカから聞く場合は、この操作は不要です。

2 メールセンター接続番号をダイヤルする

音声ガイダンスが聞こえてきます。

メールボックスに新しいメッセージが届いている場合は、その旨のガイダンスが最初に流れます。

3 操作を選択する

- ・ 伝言メッセージを録音する： *****
- ・ メールボックスを操作する： **#**

選択した操作のガイダンスが聞こえます。

***** を押した場合は手順 **6**へ、**#** を押した場合は手順 **4**へ進んでください。

4 メールボックス番号をダイヤルする

5 パスワードを設定している場合は、パスワード（数字4桁）をダイヤルする

「サービス番号を選択してください…」というガイダンスが聞こえます。

パスワードの設定については、p.157「メールボックスにパスワードを設定する」を参照してください。

6 ガイダンスに従って目的の操作を行う

7 操作を終了するときは、**9**を押す

「サービス番号を選択してください…」というガイダンスが聞こえているときにキーを押します。

- ・ ここで受話器を置いても、メールセンターから切断できます。
- ・ ここで **0** を押すと、操作ガイダンスを聞くことができます。

8 メールセンターから切断する場合は、**9**を押す

9を押す

ここで **#** を押すと、サービス番号選択ガイダンスに戻ります。

9 受話器を戻す

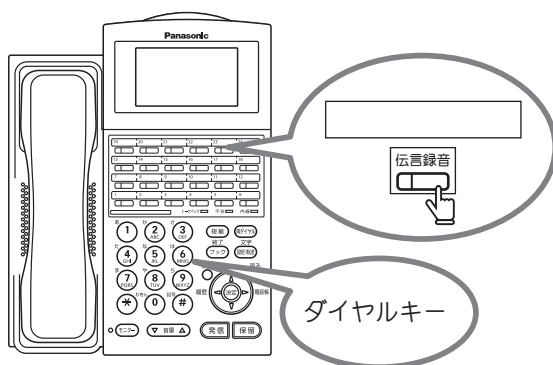
音声をスピーカから聞いていた場合は **モニター** を押します。

■ メッセージを録音する (伝言録音)

(伝言録音)

指定した相手のメールボックスにメッセージを録音します。特定の相手のメールボックスに伝言メッセージを録音するにはこの方法が一番早く操作できます。簡単に素早く特定の相手へ伝言メッセージを録音したいときに便利な方法です。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに [伝言録音] キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。
- ● 相手のメールボックスにメッセージを録音するには、[MBX] キーを使用する方法やメールセンター接続番号をダイヤルして **(#)** を押す方法もあります。[MBX] キーを使用する方法については、p.147「メッセージを録音する」を参照してください。



メモ

電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくくと便利です。

例)

録音

伝言録音

1 受話器を上げる


2 を押す

メールセンター接続番号をダイヤルして **(*)** を押しても、同じ操作ができます。

3 録音先のメールボックス番号をダイヤルする

「録音を開始します…」というガイダンスが流れ、ピーブ音が聞こえます。

※録音できない旨のガイダンスが聞こえた場合は、以降の操作はできません。

 を押した場合は、録音先に同報グループ番号を指定することはできません。

メールセンター接続番号をダイヤルしてメールセンターに接続した場合は、同報グループ番号を指定することができます。

4 受話器にむかって用件を話し、 **(#)** を押す

ガイダンスが聞こえます。

用件を話した後に、すぐ受話器を置いても、録音操作を完了することができます。

5 **(#)** を押す

相手のメールボックスにメッセージが録音されます。

録音を取り消す場合は、ここで **(*)** を押します。手順 **3** からやり直すことができます。

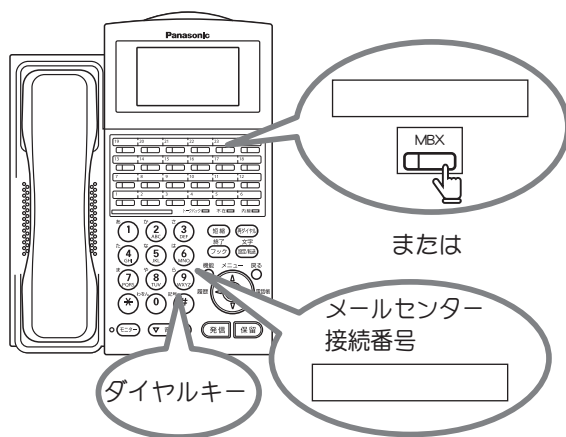
6 受話器を戻す

■ メッセージを録音する

(メッセージ録音) / (グループ同報録音)

指定した相手のメールボックスにメッセージを録音します。メッセージを話した後に相手先を指定することができます。同時に複数のメールボックスを指定してメッセージを録音したい場合に便利な方法です。

- 録音先を同報グループ番号にすると、一度に複数のメールボックスにメッセージを録音することができます。同報グループ番号の設定については、取扱店にご相談ください。
- ● 相手のメールボックスにメッセージを録音するには、[伝言録音] キーを使用する方法やメールセンター接続番号をダイヤルして(*)を押す方法もあります。[伝言録音] キーを使用する方法については、p.146「メッセージを録音する (伝言録音)」を参照してください。



メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- メールセンター接続番号は、本書に記入しておくくと便利です。

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして(*)とメールボックス番号をダイヤルします。

※パスワードが設定されている場合はガイドスに従って、パスワードを入力してください(数字4桁)。

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順**1**~**3**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**1**~**5**を参照してください。

2 を押す

「録音を開始します…」というガイドスが流れ、ビープ音が聞こえます。

3 受話器にむかってメッセージを話し、

を押す

ガイドスが聞こえます。

4 録音先のメールアドレスをダイヤルし、#を押す

※録音できない旨のガイダンスが聞こえた場合は、以降の操作はできません。

- ここで*を押すと、メールアドレスをダイヤルし直すことができます。
- 複数のメールアドレスをダイヤルして指定する場合は、ガイダンスに従って、順にメールアドレスをダイヤルします。すべてのメールアドレスを指定したあと最後に#を押します。

例) メールボックス 11、12、13 に録音



5 #を押す

ガイダンスが聞こえ、録音が完了します (メールアドレスへ転送)。

6 メールセンターから切断して操作を終了する

ガイダンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順5～7、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順7～9を行います。

メモ 自分の名前をガイダンスする

相手のメールアドレスへの録音時に、自動で自分の名前などがガイダンスされるように登録しておくことができます。

音声で自分の名前を登録しておく、メッセージを録音する時など、メールアドレスをダイヤルしたときに、登録した名前が相手のメールアドレスに自動的に録音されます。名前以外の言葉を登録しておくこともできます。

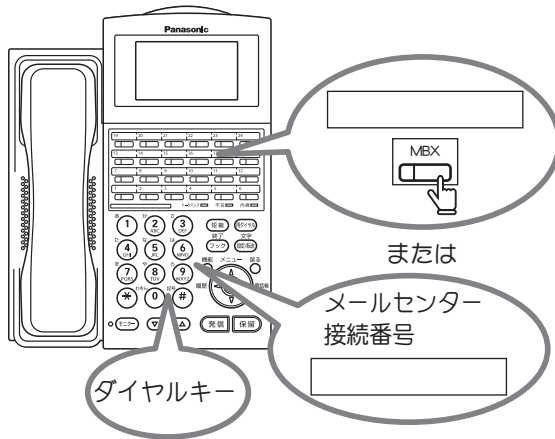
自動でガイダンスされるように名前や言葉を登録するには、サービス番号選択メニューでサービス番号11を選択します。

■ メッセージを再生する

(メッセージ再生)

メールボックスに録音されているメッセージを再生します。再生したメッセージは、削除または保存することができます。

メールボックスに録音できるメッセージの件数は設定で決まっています。保存不要なメッセージは再生後に削除することをお勧めします。



メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- メールセンター接続番号は、本書に記入しておくくと便利です。
- まだ聞いていない新しいメッセージがあるときは、電話機の着信ランプとメールボックスキーのランプが点灯しています（多機能電話機の場合）。

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、 を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして とメールボックス番号をダイヤルします。

※ パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください（数字4桁）。

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順 **1**～**3**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 **1**～**5**を参照してください。

メールボックスに新しいメッセージが届いている場合は、その旨のガイダンスが最初に流れます。

2 を押す

最新のメッセージが再生されます。

ここで、以下のキーを押すと、聞きたいメッセージの種類を選んで再生することもできます。

- ・ まだ聞いていないメッセージを聞く

- ・ 保存されているメッセージを聞く

メッセージ再生中に、メッセージの音量を上げたり、次のメッセージを再生するなどの操作を行うことができます。詳しくは、次ページの「メッセージ再生中にできる操作」を参照してください。

3 再生したメッセージを保存する場合は を、削除する場合は を押す

メッセージの自動保存、または自動消去が設定されている場合は、左記の操作をしないで操作を終了すると、設定に従って自動的に保存または消去されます。

4 続けて他のメッセージを聞く場合は、手順 **2**～**3** を繰り返す

前のメッセージに戻る場合は、 を押します。

次ページに操作つづく

5 メールセンターから切断して操作を終了する

再生したメッセージの保存/削除を指定してから、終了してください。

ガイドンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順**5**～**7**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**7**～**9**を行います。

メモ メッセージ再生中にできる操作

メッセージ再生中にダイヤルキーを押して、以下の操作を行うことができます。

押すキー	できる操作
① ⑤ JKL	前のメッセージを再生する
⑤ JKL	次のメッセージを再生する
① ② ABC	再生中のメッセージを最初から再生する
③ DEF	再生中のメッセージを消去する
⑦ PQRS	再生中のメッセージを保存する
⑧ TUV	再生中のメッセージの録音日時をアナウンスする
* *	再生中のメッセージを一時停止/一時停止解除する
# #	再生を終了する
① ⑦ PQRS	音量を上げる
① ⑧ TUV	音量を下げる
① ③ DEF	再生中のメッセージを他メールボックスに転送する ※

※操作の詳細については、p.151「メッセージを転送する」を参照してください。

メッセージの再生方法について

メッセージの再生方法として以下のような設定を行うことができます。これらの設定を行う場合は、取扱店にご相談ください。

●メッセージの自動再生（する/しない）

前ページの手順は、自動再生にしていない場合の手順です。自動再生にしている場合は、メールセンターに接続するだけで最初のメッセージが自動的に再生されます。

●メッセージの再生順番（新しい順/古い順）

メッセージを新しい順に再生するか、古い順に再生するか選択することができます。

●メッセージの連続再生（する/しない）

1つのメッセージの再生が終了すると再生を止めるか、またはメールボックスに録音されているすべてのメッセージを連続して再生するかを選択することができます。連続再生の場合、メッセージの保存または削除はそのメッセージの再生中に行う必要があります。

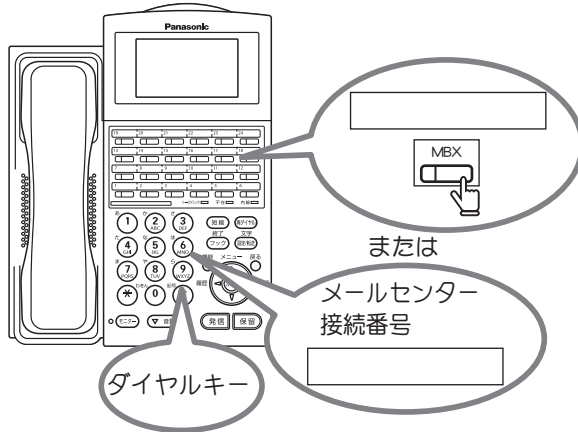
●メッセージの自動保存/消去（保存/消去）

メッセージの再生中または再生後に、保存/消去の操作を行わなかった場合、自動的にメッセージを保存するか、または消去するかを設定しておくことができます。

■ メッセージを転送する

(メッセージ転送)

メールボックスに録音されているメッセージを、他のメールボックスに転送することができます。その際、自分でコメントを追加録音することができます。同時に転送できるメールボックスは10個までです。



メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- メールセンター接続番号は、本書に記入しておくくと便利です。

1 転送するメッセージを再生する

p.149「メッセージを再生する」の手順**1**～**2**を行ってください。

2 ① ③ DEF を押す

転送操作のためのガイダンスが流れ、そのあとにピープ音が聞こえます。

3 受話器にむかって、転送するメッセージに追加するコメントを話し、**#**を押す

ガイダンスが聞こえます。

4 転送先のメールボックス番号をダイヤルし、**#**を押す

※録音できない旨のガイダンスが聞こえた場合は、以降の操作はできません。

5 **#**を押す

ガイダンスが聞こえ、転送が完了します。

6 メールセンターから切断して操作を終了する

転送を中止する場合は、ここで**③**を押します。コメントが消去された後、サービス番号を選択する操作に戻ります。

- メールボックス番号をダイヤルし直したい場合は、ここで*****を押します。
- 複数のメールボックス番号をダイヤルして指定する場合は、ガイダンスに従って、順にメールボックス番号をダイヤルします。すべてのメールボックス番号を指定したあとで**#**を押します。

例) メールボックス 11、12、13 に転送



ガイダンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順**5**～**7**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**7**～**9**を行います。

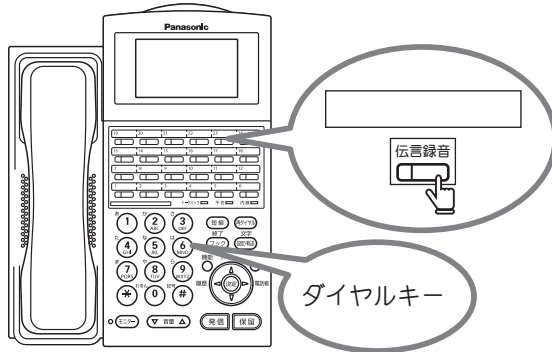
■ 通話相手に転送先へのメッセージを録音してもらおう

(録音転送)

かかってきた電話を転送しようとして、転送先が通話中または不在だった場合は、かけてきた人に、転送先のメールアドレスに直接メッセージを入れてもらうことができます。

この機能は、外線/専用線/内線のいずれからかかってきた場合にも利用できます。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに「伝言録音」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例)

伝言

伝言録音

電話を受けた人の操作

- 1 電話をかけてきた相手に、転送先のメールアドレスにメッセージを入れてもらうよう伝える

- 2  を押す

- 3 録音先のメールアドレス番号をダイヤルする

転送が可能な場合は、「転送をどうぞ…」とガイダンスが聞こえます。

※録音できない旨のガイダンスが聞こえた場合は、**(設定/転送)**を押して、通話を再開し、相手にその旨を伝えます。相手にメッセージを録音してもらうことはできません。

- 4 受話器を戻す

電話をかけてきた人の操作

保留音(メロディ)が聞こえます。

「発信音の後にメッセージをお話してください」というガイダンスが聞こえます。

- 1 受話器からメッセージを録音し、**(#)**を押す

メッセージを録音した後に、すぐ受話器を置いて、操作を完了することができます。

- 2 **(#)**を押す

- 3 受話器を戻す

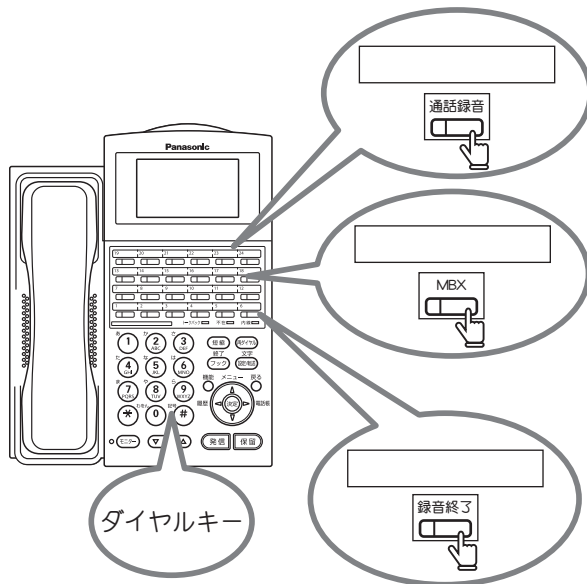
■ 通話を録音する

(通話録音)

通話中の声を自分のメールボックス、または他のメールボックスに録音することができます。例えば、自分のメールボックスには、聞き漏らしたくない内容を録音してメモ代わりに使うことができ、他のメールボックスには、通話中の相手の声をそのまま録音して伝言メモの代わりに使うことができます。通話が録音できるのは、外線/専用線との通話のみです。内線どうしの通話は録音することはできません。

！ 注意 相手に無断で通話録音すると、個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。相手の方にお断りの上、通話録音するようにお願いします。

➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに「通話録音」キーと「録音終了」キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーにこの機能を登録する方法については、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくくと便利です。

例)

録音

通話録音

※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

1 通話中に | | |------| | 通話録音 | |------| を押す

通話録音

 のランプが赤く点灯し、録音が始まります。

2 | | |-----| | MBX | |-----| を押すか、録音するメールボックス番号をダイヤルする

保存先メールボックスが決定され、

通話録音

 のランプは赤から緑に変わります。

- ・工事者によりあらかじめ通話録音先のメールボックス番号が設定されている場合は、操作手順 **2** を行う必要はありません。取扱店にお問い合わせください。
- ・録音しようとしているメールボックスに空きがないと、正常に録音できません。

3 録音を終了するときに、 | | |------| | 録音終了 | |------| を押す



すべての通話を録音する（自動通話録音）

通話中にキー操作をして録音するのではなく、外線／専用線からの通話をすべてメールボックスに録音するように設定しておくことができます。この機能を利用する方法については、取扱店にご相談ください。

通話録音中に保留または転送した場合

通話録音中に通話を保留した後、再び通話を再開した場合でも録音は継続されます。
なお、保留中は録音が一時停止状態となり保留音は録音されません。



メモ PHSで通話録音する場合は、以下のように操作します。

- ① 通話中に「開始」キーを押して、通話録音を開始する。
- ② メールボックス番号をダイヤルする。（省略することも可能）
- ③ 録音を終わる場合は以下のいずれかを行う。
 - 「開始」を押す。
 - **#** **#** を押す。
 - 通話を終わる。

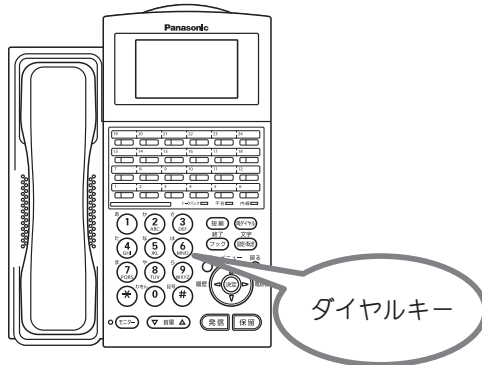
■ 外出先からメールセンターに接続する

(外出先メールサービス)

外出先からメールボックスにアクセスし、メッセージの再生/消去/録音などを行うことができます。

- 外出先からこの機能を利用するには、アクセスするメールボックスに「外線着信代行」または「不在代行」が設定されている必要があります。外線着信代行および不在代行の設定については、取扱店にご相談ください。

外出先の電話機



メモ

外出先からは、プッシュホン (PB) 信号が送れる電話機を使用する必要があります。

外出先からボイスメールサービスを利用する

1 外出先から電話をかける

応答メッセージが聞こえます。

2 応答メッセージが聞こえている間に、**#**を押す

外出メールサービスメニューのガイダンスが聞こえます。

3 **#**を押す

4 メールボックス番号をダイヤルする

※パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください (数字4桁)。

サービス番号選択のガイダンスが聞こえます。

5 ガイダンスに従って操作を行う

6 受話器を戻す

外出先からメッセージを録音する

1 外出先から電話をかける

応答メッセージが聞こえます。

2 応答メッセージが聞こえている間に、**#**を押す

外出メールサービスメニューのガイダンスが聞こえます。

3 *****を押す

4 メッセージを残したいメールボックスの番号をダイヤルする

5 ガイダンスに従ってメッセージを録音する

6 受話器を戻す

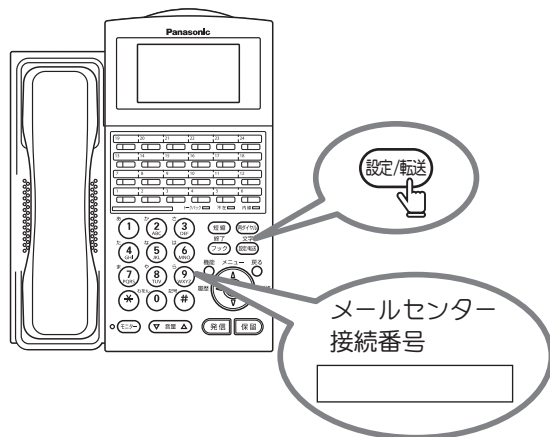
■ 通話相手をメールセンターに接続させる

(ボイスメールサービス転送)

通話中の相手をメールセンターに接続させることができます。メールセンターに接続された相手は、そのあとガイダンスを聞きながらメールボックスの再生などの操作を行うことができます。

例えば、外出先からメールボックスを確認したい人を、この方法でメールセンターに接続させることができます。

なお、この機能は、外線/専用線/内線のいずれからかかってきた場合にも利用できます。



メモ

メールセンター接続番号は、本書に記入しておく便利です。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に、メールセンターに接続することを伝える

2 **設定/転送** を押す

3 メールセンター接続番号をダイヤルする

4 音声ガイダンスが始まったら、すぐに受話器を戻す

通話相手には、ここで聞こえているガイダンスの続きが聞こえるようになります。ガイダンスが始まったら、なるべく早く受話器を置きます。

電話をかけてきた人の操作

保留音（メロディ）が聞こえます。

メールセンターのガイダンスが聞こえます。

1 音声ガイダンスに従って操作する

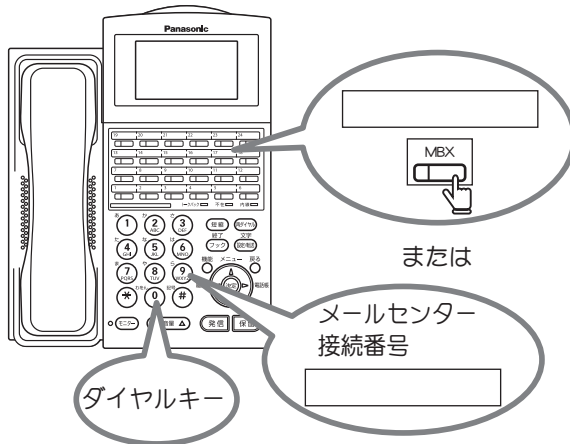
2 受話器を戻す

メモ メールセンター接続番号をフレキシブルキーに登録すると、操作手順**2**と**3**の操作を、そのフレキシブルキーを押すだけで行うことができます。フレキシブルキーに番号を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

■ メールボックスにパスワードを設定する

メールボックスには、録音されているメッセージを他の人が聞けないようにパスワードを設定しておくことができます。

ここでは、パスワードを登録する方法と削除する方法を説明します。



メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- メールセンター接続番号は、本書に記入しておくくと便利です。

パスワードを登録する

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、 を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして とメールボックス番号をダイヤルします。

※パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください(数字4桁)。

2 を押す

パスワード管理に関するガイダンスが聞こえます。

3 を押す

4 パスワード (数字4桁) を入力する

パスワードが設定されます。

5 メールセンターから切断して操作を終了する

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順 **1**～**3**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 **1**～**5**を参照してください。

パスワードの入力を取り消す場合は、 を押すと、手順 **2** のパスワード管理ガイダンスに戻ります。

ガイダンスに従って、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順 **5**～**7**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 **7**～**9**を行います。

パスワードを削除する

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして $\textcircled{\#}$ とメールボックス番号をダイヤルします。

ガイダンスに従って、パスワードを入力してください（数字4桁）。

2 $\textcircled{*}$ を押す

パスワード管理に関するガイダンスが聞こえます。

3 $\textcircled{2}$ を押す

パスワードの消去を確認するガイダンスが聞こえます。

4 $\textcircled{\#}$ を押す


パスワードが削除されます。

5 メールセンターから切断して操作を終了する

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順**1**～**3**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**1**～**5**を参照してください。

パスワードを削除しない場合は、ここで $\textcircled{*}$ を押すと、手順**2**のパスワード管理ガイダンスに戻ります。

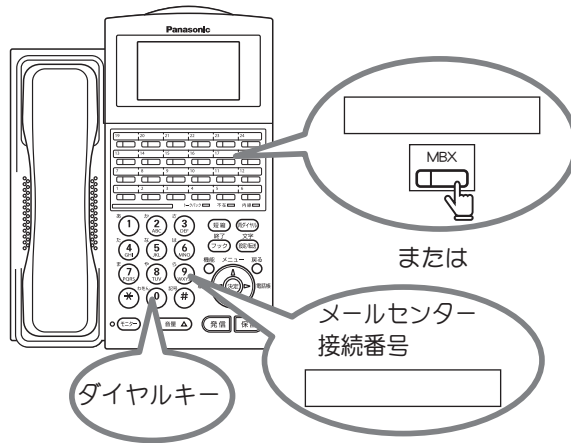
ガイダンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順**5**～**7**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**7**～**9**を行います。

 **メモ** 設定したパスワードは、セキュリティ保護のため参照することはできません。パスワードを忘れた場合は、取扱店にご相談ください。

■ メッセージの着信を知らせる

(メッセージ着信通知)

メールボックスにメッセージが着信したときに、電話機の着信音を鳴らして通知するように設定しておくことができます。電話にでると、メッセージが着信した旨のガイダンスが流れます。



メモ

- [MBX] キーが設定されていない場合は、あらかじめ設定しておきます。詳しくは、p.92「フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける」を参照してください。
- メールセンター接続番号は、本書に記入しておくくと便利です。

メッセージ着信時の通知先を設定する

この操作は、最初に一度行ってあげれば、その後は、ここで設定した通知先に着信通知されます。

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、**MBX** を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして **#** とメールボックス番号をダイヤルします。

※パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください(数字4桁)。

2 ① ⑥ を押す

着信通知管理ガイダンスが聞こえます。

3 ③ を押す

4 着信時の通知先の電話番号をダイヤルする

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順**1**～**3**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**1**～**5**を参照してください。

- 通知先が外線の場合は、電話番号の前に外線発信特番(通常は0)をダイヤルしてください。
- 番号をダイヤルし直したい場合は、ここで ***** を押します。手順**3**からやり直すことができます。

5 # を押す

メッセージ着信時の通知先が指定され、手順**3**の通知ガイダンスが聞こえます。

続けて、着信通知あり/なしの設定を行う場合は、以下をダイヤルします。

- 着信通知ありに設定する： **①**
- 着信通知なしに設定する： **②**

6 メールセンターから切断して操作を終了する

ガイダンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順**5**～**7**、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順**7**～**9**を行います。

メッセージ着信通知ありに設定する

メッセージの着信通知を行う場合は、以下の操作を行います。

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして $\textcircled{\#}$ とメールボックス番号をダイヤルします。

※パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください(数字4桁)。

2 $\textcircled{1}$ $\textcircled{6}$ MNOを押す

着信通知管理ガイダンスが聞こえます。

3 $\textcircled{1}$ を押す

着信通知を行うように設定されます。

4 メールセンターから切断して操作を終了する

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順 $\textcircled{1}$ ～ $\textcircled{3}$ 、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 $\textcircled{1}$ ～ $\textcircled{5}$ を参照してください。

ガイダンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順 $\textcircled{5}$ ～ $\textcircled{7}$ 、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 $\textcircled{7}$ ～ $\textcircled{9}$ を行います。

メッセージ着信通知なしに設定する

メッセージの着信通知を行わない場合は、以下の操作を行います。

1 メールセンターに接続する

受話器を上げて、を押すか、メールセンター接続番号をダイヤルして $\textcircled{\#}$ とメールボックス番号をダイヤルします。

※パスワードが設定されている場合はガイダンスに従って、パスワードを入力してください(数字4桁)。

2 $\textcircled{1}$ $\textcircled{6}$ MNOを押す

着信通知管理ガイダンスが聞こえます。

3 $\textcircled{2}$ ABCを押す

着信通知を行わないように設定されます。

4 メールセンターから切断して操作を終了する

詳しくは、p.144「[MBX] キーで接続する方法」の手順 $\textcircled{1}$ ～ $\textcircled{3}$ 、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 $\textcircled{1}$ ～ $\textcircled{5}$ を参照してください。

ガイダンスに従って、p.144「[MBX]キーで接続する方法」の手順 $\textcircled{5}$ ～ $\textcircled{7}$ 、またはp.145「メールセンター接続番号で接続する方法」の手順 $\textcircled{7}$ ～ $\textcircled{9}$ を行います。



メモ

メッセージの着信を通知する電話にでなかった場合に、再度通知するかどうかを設定できます。また、通知するときに、その回数や間隔、通知する時間帯なども指定することができます。詳しくは、取扱店にご相談ください。

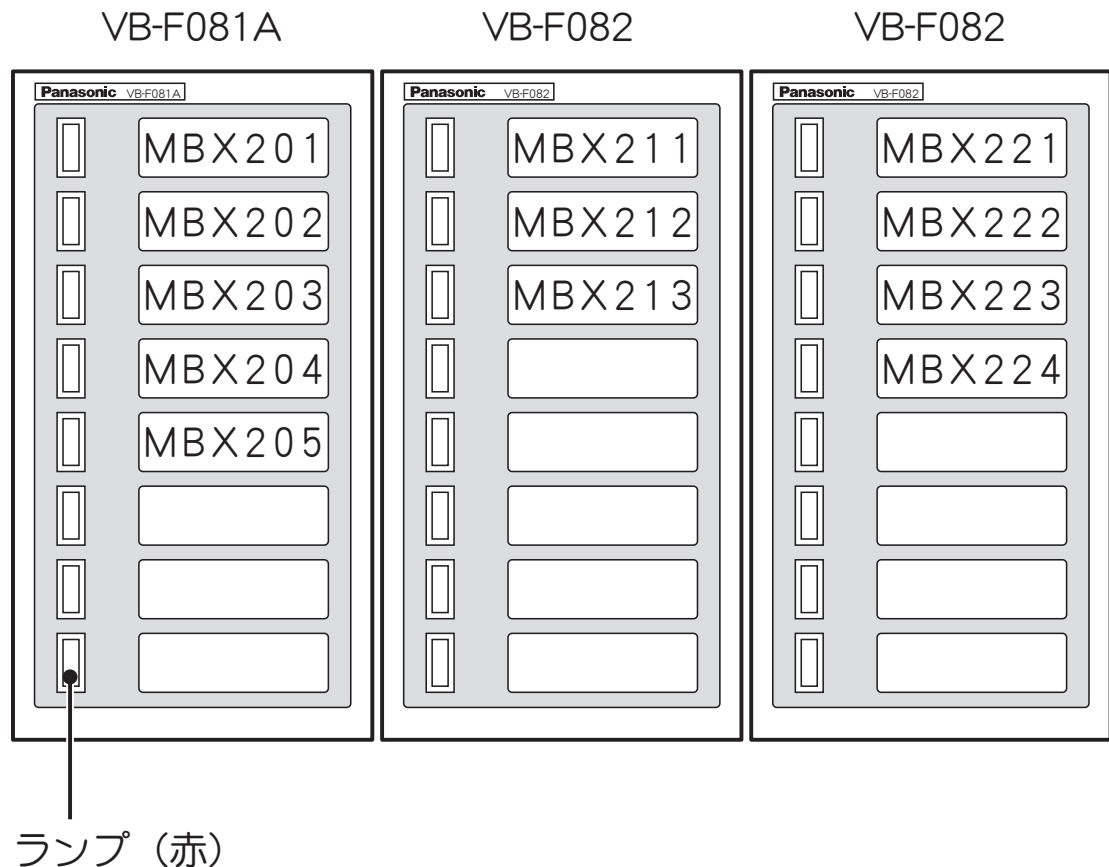
■ 状態表示盤でメールボックスを活用する

状態表示盤のランプに各メールボックスを割り付け、そのメールボックスの状態をランプで確認することができます。

- この機能を利用するには、状態表示盤のランプにフレキシブルキーである [MBX] キー（メールボックスキー）が登録されている必要があります（最大 24 キー）。ランプには、メールボックス番号も合わせて登録されます。
- 状態表示盤のランプへのメールボックス機能の登録は、工事者が行います。登録については、取扱店にご相談ください。

メールボックスの状態とランプ表示の関係は、次のようになります。

メールボックスの状態	ランプ表示
ボイスメールあり	赤色で点灯
空き	消灯



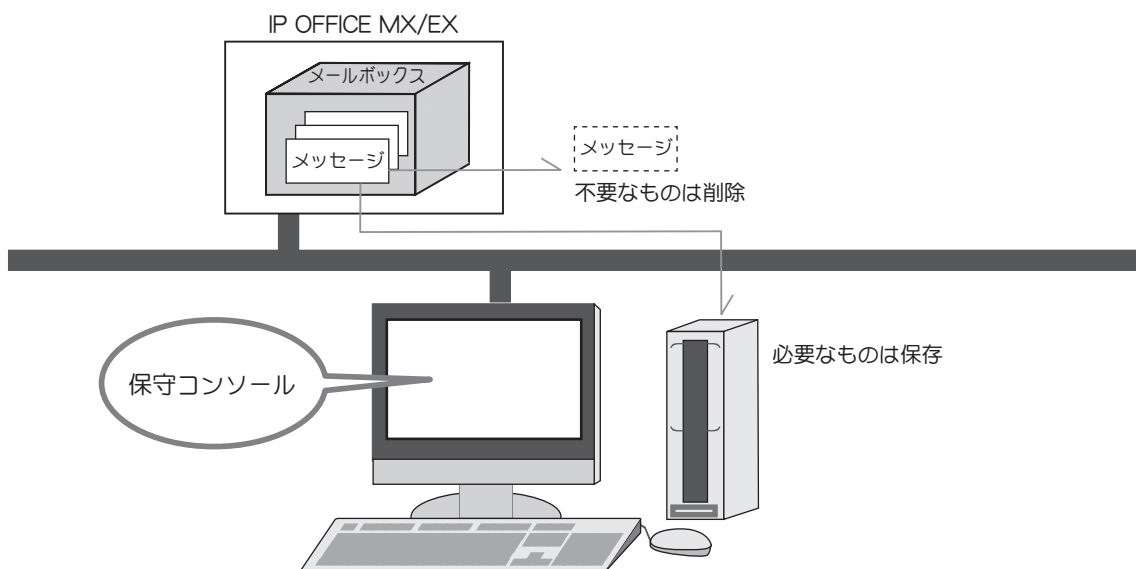
- メモ**
- メールボックスにメッセージが着信したときに、電話機の着信音を鳴らして通知するように設定 (p.159「メッセージの着信を知らせる」を参照) されていても、状態表示盤に登録したメールボックスキーでは、着信音は鳴りません。
 - 状態表示盤には、基本ユニット、増設ユニットの 2 種類あります。基本ユニットは IP OFFICE MX/EX に接続し、増設ユニットは基本ユニットに最大 2 ユニット 接続可能です。

■ メールボックスの中を整理する

IP OFFICE MX/EXとネットワーク接続されているコンピュータのWebブラウザから、メールボックスを整理することができます。

WebブラウザでIP OFFICE MX/EXのIPアドレスを指定すると、Maintenance Console（以降、「保守コンソール」と呼びます）の画面が表示されます。

保守コンソールを使用すると、メールボックス内のメッセージを一覧表示して、不要なメッセージを一括で削除したり、必要なメッセージを音声ファイルとして、コンピュータに保存することができます。メールボックスを開ける必要があるとき、まだ聞いていないメッセージであっても、コンピュータに保存しておくことで、メールボックスから削除することができます。



1 Webブラウザを起動して、IP OFFICE MX/EXのIPアドレスを指定する

保守コンソールのログイン画面が表示されます。

Webブラウザのアドレスを指定する欄に以下のように入力します。（以下は、IPアドレスが、「192.168.1.200」の場合の例です。）

`http://192.168.1.200/user.html`

IP OFFICE MX/EXのIPアドレスは、システム管理者に確認してください。

保守コンソールのログイン画面



次ページに操作つづく

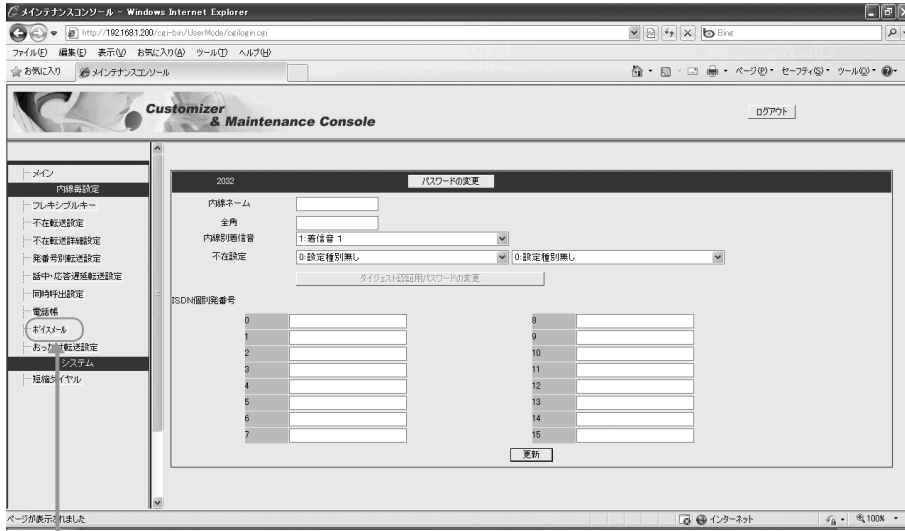
2 「ログイン名」と「パスワード」を入力し、 [ログイン] ボタンをクリックする

- ・「ログイン名」には、内線番号を入力します。
- ・「パスワード」には、保守コンソール用のパスワードを入力します。

以下の画面が表示されます。

- ・保守コンソール用パスワードは、最初は設定されていません。設定されていない場合は空白のままにします。保守用パスワードはログイン後に表示される画面で設定することができます。
- ・ここで入力するパスワードは、p.157「メールボックスにパスワードを設定する」で設定するメールボックス用のパスワードではありません。

内線データの設定画面



クリック

3 画面左のメニューから「ボイスメール」 を選択する

メールボックスに保存されているメッセージの
一覧が表示されます。

メールボックスに録音されているメッセージの一覧画面



まだ聞いていない新規のメッセージには●が表示される
対象となるメッセージにチェックマークを付けて、上の [削除] ボタンまたは [取得] ボタンをクリックする

4 メッセージを操作する

<メールボックスから削除する場合>

- ① 削除するメッセージのチェックボックスにチェックマークを付け、[削除] ボタンをクリックします。
- ② 確認ダイアログボックスが表示されるので、削除してよければ [OK] ボタンをクリックします。
メッセージが削除されます。
- ③ 削除したメッセージの一覧が表示されるので、[戻る] ボタンをクリックします。
削除したメッセージは、メールボックスのメッセージ一覧から消えています。

<コンピュータに保存する場合>

- ① 保存するメッセージのチェックボックスにチェックマークを付け、[取得] ボタンをクリックします。
- ② 保存先指定ダイアログボックスが表示されますので、保存先のフォルダを指定して [OK] ボタンをクリックします。
メッセージが保存されます。
ファイル名には、自動的にメールボックス番号と受信日時から以下のような名前が付けられます。
MBX10-100731163457-001.wav
(メールボックス番号 10 の、2010 年 7 月 31 日 16 時 34 分のメッセージ)
- ③ 保存したメッセージの一覧が表示されるので、[戻る] ボタンをクリックします。

上記の操作を行ったメッセージは、まだメールボックスに保存されています。メールボックスから削除する場合は、<メールボックスから削除する場合>の操作を行って削除します。

5 [ログアウト] ボタンをクリックする

ログイン画面に戻ります。

4-11 その他の便利な機能

ここでは、その他の便利な機能を説明します。

■ i・ナンバー／ダイヤルイン機能を利用する

この機能を利用するときには、NTTとのi・ナンバー契約またはダイヤルイン契約が必要です。この機能を利用する場合は、取扱店にご相談ください。

■ INS ボイスワープを利用する

NTTとサービス契約している外線キーを押すだけで、INS ボイスワープのサービスを受けられます。なお、不在転送の機能を使っている場合は、p.168「INS ボイスワープの運用を優先する」の操作を行ってください。

INS ボイスワープの運用を優先すると、不在転送を設定していてもINS ボイスワープを優先します。不在転送を設定していない場合は、この操作は必要ありません。

※転送先の登録／転送先リスト指定／転送サービスの開始／停止を行うときはPB信号ランプの消灯を確認してください。PB信号ランプが消えていないと、[キーパッド]キーが有効になりません。

INS ボイスワープのサービスを受けるための操作手順

この操作手順は、本システムを使ってNTTのサービスであるINS ボイスワープのサービスを受けるための操作手順です。ご利用の際は、NTTの「INS ボイスワープ使用説明書」を併せてお読みください。

※以下の表の[外線]は、サービスを契約している外線です。

操作手順ごとに「ガイダンス」が流れます。

以下の「サービス番号」は、NTTが提供している番号です。

➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに[キーパッド]キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに[キーパッド]キーを登録するには、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

項目	操作手順
転送先リスト0への登録	<p>(サービス番号) (転送先電話番号)</p>
転送先番号登録 転送先リスト1～4への登録	<p>(サービス番号)</p> <p>(リスト番号) (転送先電話番号)</p>
転送先リストの指定 (登録されているリストから実際に転送される相手を1つ指定します。)	<p>(サービス番号)</p> <p>(リスト番号)</p> <p>※転送先リストを指定しない場合はリスト0が転送先となります。</p>

項目	操作手順
<p>転送サービスの開始のしかた</p> <p>(転送先電話番号の登録および転送先リストの指定を行った上で、INSボイスワープの開始を行ってください。)</p>	<p>(サービス番号) (転送方法番号)</p> <p>外線 → (1) (4_{GHI}) (2_{ABC}) (1) → (1) ~ (4_{GHI}) → モニター</p> <p>転送方法番号 (1) : 無条件転送 (2_{ABC}) : 無応答時転送 (3_{DEF}) : 話中時転送 (4_{GHI}) : 無応答および話中時転送</p>
<p>転送サービスの停止のしかた</p>	<p>(サービス番号)</p> <p>外線 → (1) (4_{GHI}) (2_{ABC}) (0) → モニター</p>
<p>無応答時転送の起動時間の設定</p> <p>(無応答時転送の場合、設定された待ち時間(秒数)の間、呼出音が鳴り、電話に回答しないときに転送します。)</p>	<p>(サービス番号) (転送時間番号)</p> <p>外線 → (1) (4_{GHI}) (2_{ABC}) (3_{DEF}) → キーボード → (0) ~ (1) (1)</p> <p>→ キーボード → モニター</p> <p>転送時間番号 (0) : 5秒 (1) : 10秒 (2_{ABC}) : 15秒 (3_{DEF}) : 20秒 (4_{GHI}) : 25秒 (5_{JKL}) : 30秒 (6_{MNO}) : 35秒 (7_{PQRS}) : 40秒 (8_{TUV}) : 45秒 (9_{WXYZ}) : 50秒 (1) (0) : 55秒 (1) (1) : 60秒</p>
<p>転送通知用トーキの設定のしかた</p>	<p>(サービス番号)</p> <p>外線 → (1) (4_{GHI}) (2_{ABC}) (4_{GHI}) → キーボード → (2_{ABC}) → キーボード → キーボード</p> <p>(トーキ番号)</p> <p>→ (0) ~ (3_{DEF}) → キーボード → モニター</p> <p>トーキ番号 (0) : アナウンスなし (1) : 「ただいまより電話を転送いたします」 (2_{ABC}) : 「ただいまより電話を転送いたします。転送先までの電話料金は当方で負担いたします」 (3_{DEF}) : 「ただいま電話を呼び出しております」</p>
<p>転送元案内トーキ(転送先へのアナウンス)の設定のしかた</p>	<p>(サービス番号)</p> <p>外線 → (1) (4_{GHI}) (2_{ABC}) (4_{GHI}) → キーボード → (4_{GHI}) → キーボード → キーボード</p> <p>(トーキ番号)</p> <p>→ (0) ~ (1) → キーボード → モニター</p> <p>トーキ番号 (0) : アナウンスなし (1) : 「この電話は(転送元電話番号)から転送されました」</p>
<p>現在の設定状況の確認</p>	<p>(サービス番号) (確認番号)</p> <p>外線 → (1) (4_{GHI}) (2_{ABC}) (8_{TUV}) → キーボード → (0) ~ (3_{DEF})</p> <p>→ キーボード → モニター</p> <p>確認番号 (0) : 転送先リストの登録内容確認 (1) : 転送トーキの指定状況確認 (2_{ABC}) : リモートコントロールの指定状況確認 (3_{DEF}) : 転送元案内の指定状況確認</p>

項 目	操 作 手 順
<p>暗証番号の設定</p> <p>(リモートコントロール機能を利用して本システム外の電話からでも INS ボイスワープの開始、停止および転送先変更操作ができます。)</p>	<p>(サービス番号)</p> <p>外線 → ① → ④ (GHI) → ② (ABC) → ④ (GHI) → キーパッド → ③ (DEF) → キーパッド → キーパッド</p> <p>(暗証番号 (数字 4 桁))</p> <p>※ ① → キーパッド → キーパッド → ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ * 0 # → キーパッド → モニター</p> <p>※ ①の代わりに ① を押すと、リモートコントロール機能を「利用しない」設定となり、モニターで操作完了となります。</p>
<p>リモートコントロールの操作のしかた</p>	<p>(サービス番号)</p> <p>外出先から電話をかける → ① ④ ② ⑦ → [PB 信号] → (電話番号) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ * 0 #</p> <p>(電話番号) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ * 0 #</p> <p>(操作の種類番号) ① ~ ② → 電話を切る</p> <p>操作の種類番号 ① : 転送サービスの停止 ② : 転送サービスの開始 ③ : 転送先リストの変更</p> <p>転送先リストの変更をする場合は、操作の種類番号の後、転送先リスト番号 ① ~ ④ を押してください。</p> <p>※暗証番号を 4 回連続して間違えると、それ以降の操作ができなくなります。この場合、暗証番号を再度登録し直す必要があります。</p>

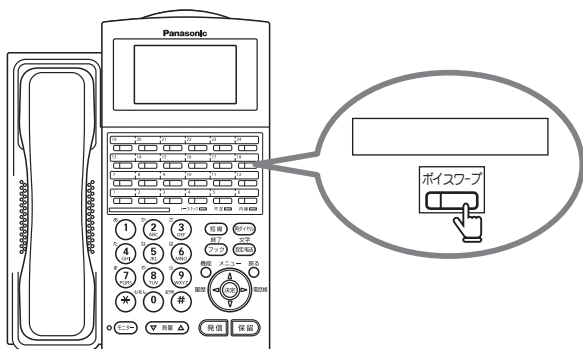
リモートコントロール機能

INS ボイスワープの運用を優先する

この機能が使えるのは、ISDN 回線の外線個別着信が「DIL / PBX ダイヤルイン / 1 ナンバー」に設定されているときです。また INS ボイスワープのサービスが①話中転送または②無応答転送と話中転送の併用のとき、③対象内線が塞がっているときに限られます。

INS ボイスワープのサービスが無条件転送、無応答転送のみのとき、対象内線が塞がっていないときや外線個別着信が「DIL / PBX ダイヤルイン / 1 ナンバー」以外に設定されているときは、このサービスが受けられませんのでご注意ください。

➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに [ボイスワープ] キーと [キーパッド] キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに [ボイスワープ] キーならびに [キーパッド] キーを登録するには、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例)

転送

ボイスワープ

1 内線を使用していない状態のとき
に

ボイスワープ

 を押す

登録音が聞こえ、ボイスワープキーのランプが赤く点灯し登録中を示します。

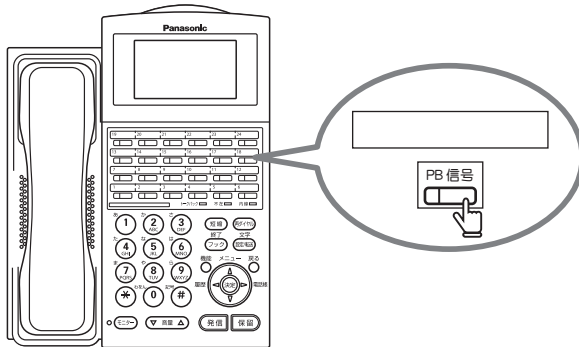
メモ アナログ回線でご契約のときにボイスワープをご利用になる場合は、NTTの「ボイスワープ使用説明書」をご覧ください。

■ プッシュホン信号を送る

(PB エンド・ツー・エンド通信)

ダイヤル回線でも外線と接続後にプッシュホン (PB) 信号が送れます。これにより銀行の残高照会などのプッシュホンサービスが受けられます。通話が終わり受話器を戻すと、電話機は元のダイヤル回線に戻ります。

- この機能を利用するには、フレキシブルキーに [PB 信号] キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておく便利です。

例) プッシュ信号



1 外線と通話中に PB 信号 を押す

2 ダイヤルするとプッシュホン信号を送る

自動的に PB 信号を送信できないようにするには、取扱店にご相談ください。
オートダイヤル (ワンタッチダイヤル) の中に PB 信号を含めて登録することができます。詳しくは、p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」および p.93「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。

第5章 電話機の調整

5-1 記入シートを取り替える	172
5-2 電話機の角度を変える	174
5-3 日付・時刻を合わせる	176
5-4 着信音の音色を選択する	180
5-5 音量を調節する	181
5-6 ディスプレイ表示を調節する	186
5-7 ハンドセット／ヘッドセットを切り替える.....	188

5-1 記入シートを取り替える

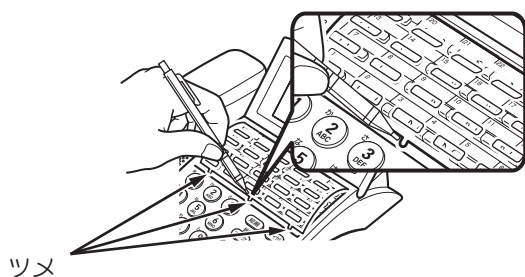
記入シートの内容を書き換える場合や、新しい記入シートに取り替える場合は、記入シートとカバーを外す必要があります。ここでは記入シートとカバーの取り外し方と取り付け方を説明します。

■ 漢字表示付電話機

取り外し方

1 カバー下部の穴にシャープペンなどの先を軽く差し込む

2 カバーと記入シートを取り外す



※ カバー全体を上方向にやや弓形に曲げて、カバーの3カ所のツメを外し、カバーを取り外してください。

取り付け方

1 記入シートを元の位置に戻す

2 カバーのツメ1を差し込み、カバーをやや弓形に曲げて、ツメ2をはめ込む

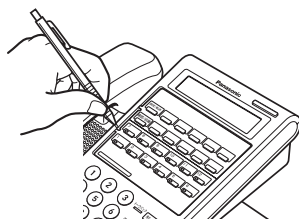


■ 数字表示付電話機

取り外し方

1 カバー横の穴にシャープペンなどの先を軽く差し込む

2 カバーと記入シートを取り外す



取り付け方

1 記入シートを元の位置に戻す

2 カバーのツメ1を差し込み、カバーをやや弓形に曲げて、ツメ2をはめ込む

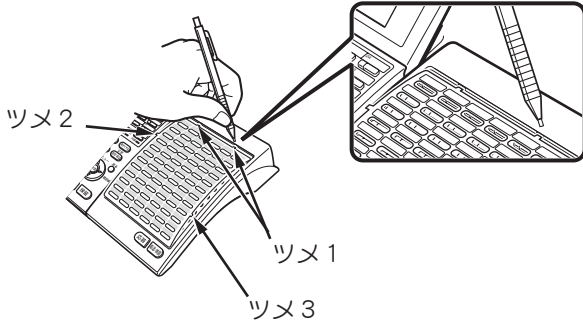


■ 集中受付装置

取り外し方

1 カバー右上部の穴にシャープペンなどの先を軽く差し込む

2 カバーと記入シートを取り外す



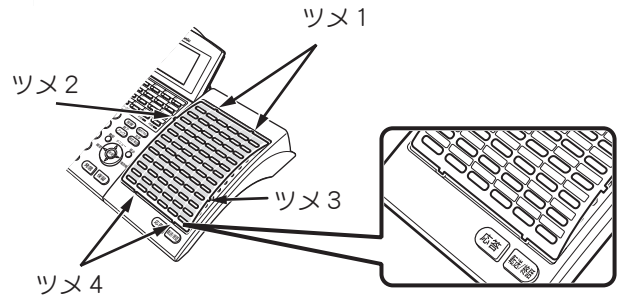
※ カバー全体を下方方向にやや弓形に曲げて、ツメ1(2か所)、ツメ2、ツメ3の順に外し、カバーを取り外してください。

取り付け方

1 記入シートを元の位置に戻す

2 カバーのツメ4を差し込み、カバーをやや弓形に曲げる

3 ツメ3→ツメ2→ツメ1の順に下からツメをはめ込む

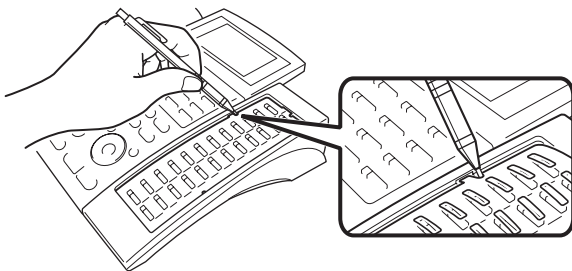


■ 24 キー増設ユニット

取り外し方

1 カバー横の穴にシャープペンなどの先を軽く差し込む

2 カバーと記入シートを取り外す

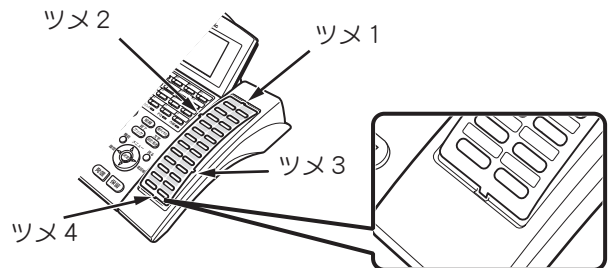


取り付け方

1 記入シートを元の位置に戻す

2 カバーのツメ4を差し込み、カバーをやや弓形に曲げる

3 ツメ3→ツメ2→ツメ1の順に下からツメをはめ込む



メモ フレキシブルキーやワンタッチキーの上のスペースに、登録した名前や機能を書き込んでください。

例)

設定/転送	☐会社	☐会社	☐	☐	☐	☐	☐
	☐営業所	☐	☐	☐	☐	☐	☐
確認/会議	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

5-2 電話機の角度を変える

電話機本体の角度またはディスプレイの角度を変えることができます。

■ 漢字表示付電話機

漢字表示付電話機は、電話機本体の角度とディスプレイの角度を変えることができます。

電話機本体の角度を変える

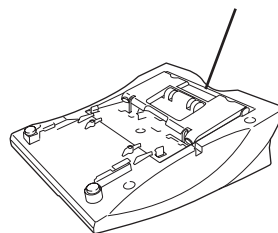
電話機の角度は、高角度アダプターの調整で変えることができます。

1 電話機を裏返す

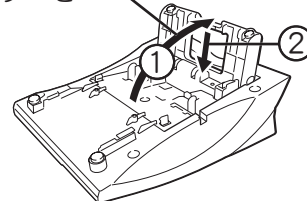
あらかじめ、受話器は電話機から外して机の上に置いてください。

2 電話機の裏面の高角度アダプターを引き上げてから (1)、押し下げて固定する (2)

高角度アダプター



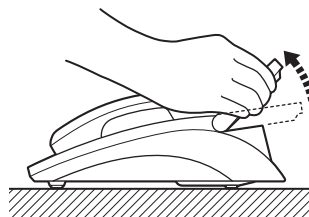
高角度アダプターを
引き上げる



ディスプレイの角度を変える

1 ディスプレイの上側を持って、任意の位置まで動かす

- ・角度調節で可動が止った所が角度調節の限度です。無理な力を加えて角度調節の限度以上に調節を行わないでください。ディスプレイ（液晶表示部）や電話機が破損する原因になります。
- ・電話機の移動などのとき、ディスプレイのみを持たないでください。ディスプレイや電話機が破損する原因になります。

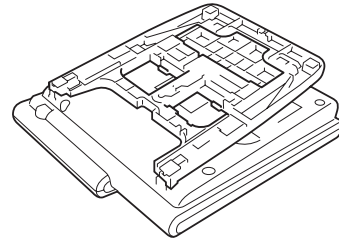


■ 数字表示付電話機

数字表示付電話機は、電話機本体の角度のみ変えることができます。

1 電話機を裏返す

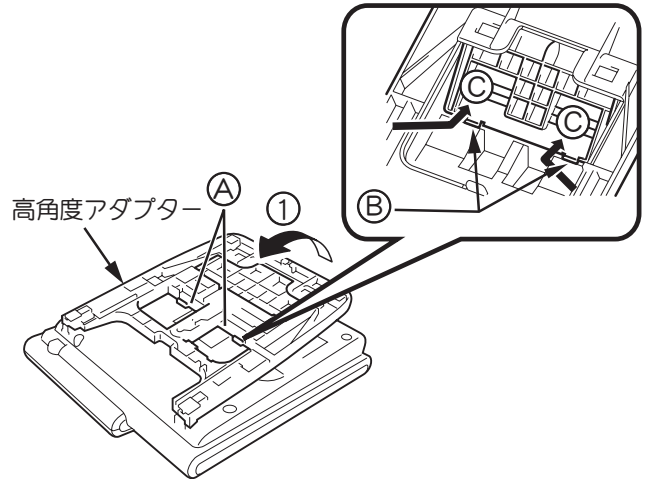
あらかじめ、受話器は電話機から外して机の上に置いてください。



2 電話機の裏面に取り付けられている高角度アダプターの片側を取り外す

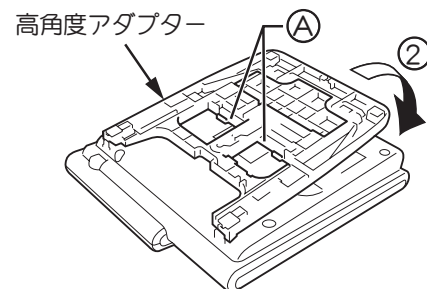
高角度アダプターを①の方向に持ち上げ、(A)部のロックを外します。

ロックが外れにくいときは、(C)部（「押す」の表示あり）を押してロックを外します。



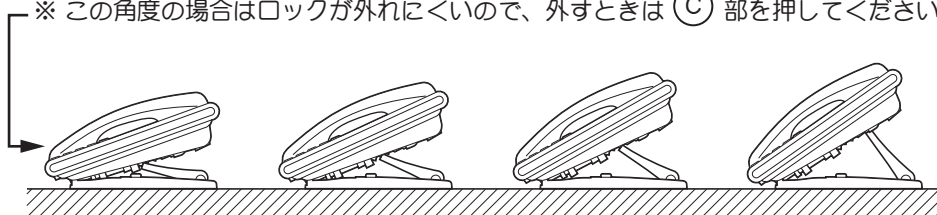
3 (B)部のツメを電話機底面の(A)部にロックする

(B)部のツメを設定したい角度の(A)部に差し込み②の方向に押してロックします。



電話機の裏面に付いている高角度アダプターのロック位置によって、下図のように4段階に電話機の角度を変えることができます。

※ この角度の場合はロックが外れにくいので、外すときは(C)部を押してください。

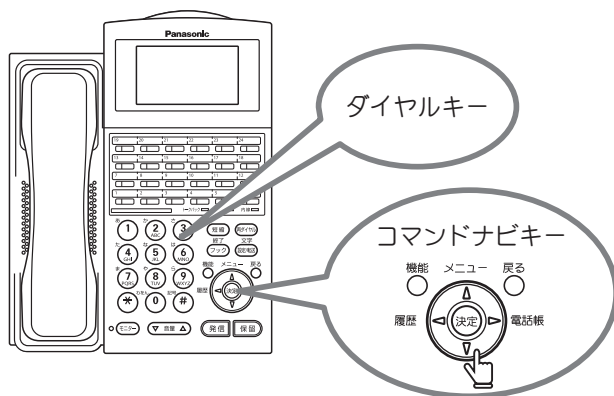


※ 4段階以上無理に広げようとししないでください。破損の原因となります。

5-3 日付・時刻を合わせる

1台の電話機で日付・時刻を変更すると、システム内のすべての電話機の日付、時刻も変更されます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワードを入力して行います。



メモ

日付・時刻はディスプレイのメニューを使って設定します。
コマンドナビキーとダイヤルキーで操作します。
日付、時刻の数字の入力はダイヤルキーを使います。

■ 日付を合わせる

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、日付を合わせる方法を説明します。システム管理電話機では、手順**2**～**3**の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、**(決定)**を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※個人用パスワード設定を行っている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

2 **(0)**を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

12/25 Mon 14:30
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

メインメニュー
1: 電話帳
2: 履歴表示
3: 短縮ダイヤル

「0:」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード (数字 4 桁) を入力し、を押す

- ・パスワードはあらかじめ設定されているものを入力します。
- ・この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。
- ・メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目が表示されます。

入力例



管理者用パスワード 入力
パスワード >****

管理者用パスワードについては、取扱店にご相談ください。

4 「6 : 管理者の設定項目」を、で選び、を押す

管理者の設定項目のメニューが表示されます。

メインメニュー
4: 転送設定
5: その他設定
6: 管理者の設定項目

メニューに表示されていない項目は、を押してカーソルを移動させると表示できます。を押すとメニューの上のほうに戻ります。

5 「1 : 日時設定」を、で選び、を押す

日時設定のメニューが表示されます。

管理者の設定項目
1: 日時設定
2: 発信機能
3: 着信機能

6 「1 : 日付設定」を、で選び、を押す

現在設定されている日付が表示されます。

日時設定
1: 日付設定
2: 時間設定

7 ダイヤルキーで年月日を入力する

年月日はそれぞれ 2 桁で「年→月→日」の順に入力します。

例) 2010年1月5日 は
「100105」と入力

最初は、現在設定されている「年 (YY)」、「月 (MM)」、「日 (DD)」が表示されます。

YY, MM, DD
09, 12, 25

ダイヤルキーを押すと、現在設定されている日付が全部クリアされ、新しく入力した数字が表示されます。

YY, MM, DD
10,

2 桁入力すると、自動的にカンマが表示されるので、続けて数字を入力します。

YY, MM, DD
10, 01, 05

8 を押す

日付が設定され、日時設定のメニューに戻ります。

9 を押す

メニューが終了します。

01/05 Thr 14:30
Tel. 100

10 設定した日付を確認する

電話機が待受状態のときのディスプレイの表示で、日付が正しく設定されていることを確認します。



 **メモ** 数字表示付電話機がシステム管理電話機の場合は、以下の操作で日付を合わせられます。

 →  → 年月日（年は下2ケタ） →  → 

■ 時刻を合わせる

1 日時設定のメニューを表示する

「日付を合わせる」の手順 **1** ~ **5** を行います。

2 「2：時間設定」を 、 で選び、
を押す

現在設定されている時刻が表示されます。

日時設定
1: 日付設定
2: 時間設定

3 ダイヤルキーで時刻を入力する

時、分はそれぞれ2桁で「時→分」の順に入力します。

時刻は24時間制で入力します。

例) 16時5分 は「1605」と入力

最初は、現在設定されている「時 (HH)」、「分 (MM)」が表示されます。

HH, MM
14, 30

ダイヤルキーを押すと、現在設定されている時刻が全部クリアされ、新しく入力した数字が表示されます。

HH, MM
16,

2桁入力すると、自動的にカンマが表示されるので、続けて数字を入力します。

HH, MM
16, 05

次ページに操作つづく

4 を押す

時刻が設定され、日時設定のメニューに戻ります。

5 を押す

メニューが終了します。

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

6 設定した時刻を確認する

電話機が待受状態のときのディスプレイの表示で、時刻が正しく設定されていることを確認します。



メモ 数字表示付電話機がシステム管理電話機の場合は、以下の操作で時刻を合わせられます。

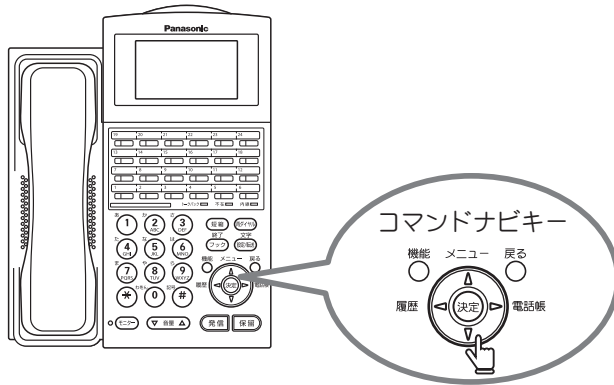
→ **2** → 時間 (HH, MM) → →

**日付・時刻の表示形式**

- 時刻表示は、24 時間制のみです。
- 工事者の設定により、曜日表示は漢字（月）と英字（Mon または MON）の選択ができます。初期設定は小文字の英字です。工事については、取扱店にご相談ください。

5-4 着信音の音色を選択する

電話がかかってきたときの呼出し音（着信音）を変えることができます（8種類）。



メモ

着信音の設定は、ディスプレイにメインメニューを表示して行います。

1 電話機が待受状態のとき、**決定**を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

パスワード入力
パスワード >

待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに日付、時刻、内線番号が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「5：その他設定」を**上**、**下**で選び、**決定**を押す

その他設定のメニューが表示されます。

メインメニュー
3: 短縮ダイヤル
4: 転送設定
5: その他設定

メニューに表示されていない項目は、**上**、**下**を押してカーソルを移動させると表示できます。**決定**を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「4：内線別着信音設定」を**上**、**下**で選び、**決定**を押す

内線別着信音設定の画面が表示されます。

その他設定
2: 内線ネーム登録
3: フังก์ションキー設定
4: 内線別着信音設定

4 **上**、**下**を押して着信音を選ぶ

選択した着信音が鳴ります。

内線別着信音設定
1: 着信音1 *
2: 着信音2
3: 着信音3

(着信音は8種類あります)

5 **決定**を押す

- ・着信音が設定されます。
- ・設定を終了する場合は**モニター**を押して、メニューを終了します。

メモ 数字表示付電話機の場合は、以下の操作で着信音の音色を選択できます。

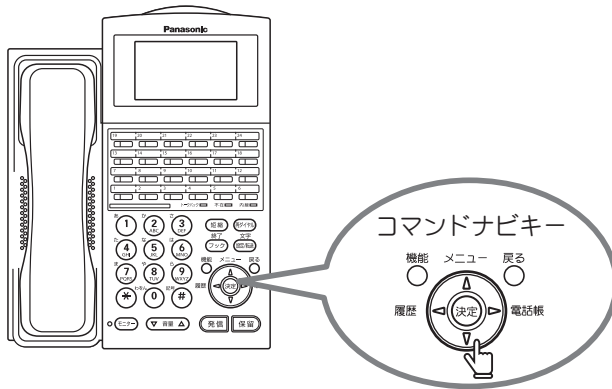
保留 → **3** (現在設定されている着信音が流れます) → **#** を数回押す (**#**を押すごとに流れる音色が切り替わるので、設定したい音色のところまで止めます) → **保留** → **モニター**

5-5 音量を調節する

電話機の着信音量や受話音量などを調節することができます。

■ 着信音量を調節する

電話がかかってきたときに鳴る着信音の音量を 5 段階で調節できます。



メモ

着信音量の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。

1 電話機が待受状態のとき、^{機能}○を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

2 「1：音設定」を^{機能}↑、^{機能}↓で選び、^{決定}○を押す

音設定のメニューが表示されます。

端末設定
1:音設定
2:その他設定

3 「1：着信音量」を^{機能}↑、^{機能}↓で選び、^{決定}○を押す

着信音量を設定する画面が表示されます。

音設定
1:着信音量
2:受話音量
3:側音切替

4 ▽音量△を押して音量を調節する

- ・音量のレベルを表す■が表示されます。
- ・キーを押すごとに、音量が 1 段階ずつ変わります。

着信音量
■ ■ _ _ _

▽音量△

音量を下げる 音量を上げる

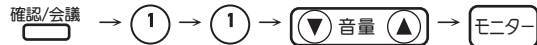
着信音量
■ ■ ■ ■

5 **決定**を押す

- ・着信音量が設定され、音設定メニューに戻ります。
- ・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- ・音量の設定を終了する場合は**モニター**を押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

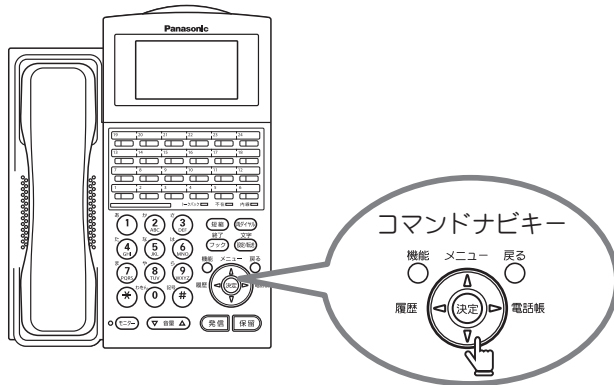
メモ 数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。



着信音が鳴っている時に、**音量**で調節することもできます。

■ 受話音量を調節する

受話器から聞こえる相手の声の大きさを調整できます。5段階で調節できます。



メモ

受話音量の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。

1 電話機が待受状態のとき、**機能**を押す

端末設定メニューが表示されます

待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

2 「1：音設定」を**機能**、**決定**で選び、**決定**を押す

音設定のメニューが表示されます。

端末設定
1:音設定
2:その他設定

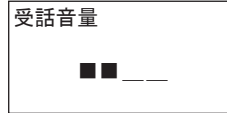
3 「2：受話音量」を**機能**、**決定**で選び、**決定**を押す

受話音量を設定する画面が表示されます。

音設定
1:着信音量
2:受話音量
3:側音切替

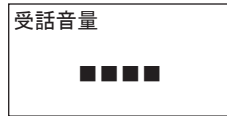
4 **▽ 音量 △** を押して音量を調節する

- 音量のレベルを表す■が表示されます。
- キーを押すごとに、音量が1段階ずつ変わります。



▽ 音量 △

音量を下げる 音量を上げる

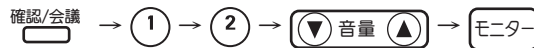


5 **決定** を押す

- 受話音量が設定され、音設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 音量の設定を終了する場合は**モニター**を押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

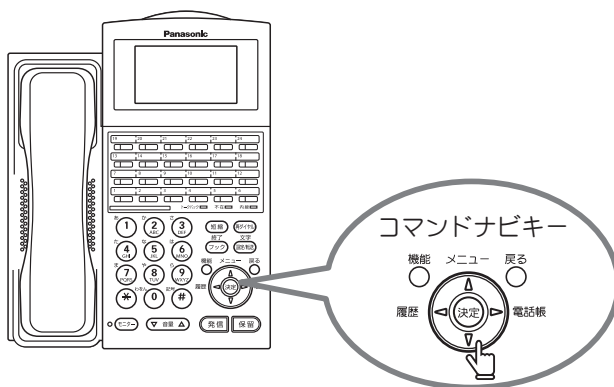
メモ 数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。



通話中に **▽ 音量 △** で音量調節することができます。受話器を使っている場合には受話音量が、スピーカ通話時にはスピーカ音量が調節できます。

マイクのオン/オフを切り替える

マイクを使って通話できる(オン) / できない(オフ)を設定することができます。



メモ




マイクのオン/オフの設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。

1 電話機が待受状態のとき、**機能** を押す

端末設定メニューが表示されます。




待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

**2 「2：その他設定」を 、 で選び、
 を押す**



その他設定メニューが表示されます。




端末設定
1:音設定
2:その他設定


**3 「5：トークバック」を 、 で選び、
 を押す**

トークバックのオン/オフを切り替える画面が表示されます。

その他設定
3:ハンドセット切替
4:バックライトタイマ切替
5:トークバック

メニューに表示されていない項目は、 を押してカーソルを移動させると表示できます。 を押すとメニューの上のほうに戻ります。







**4 トークバックのオン/オフを 、 で選び、
 を押す**

- ・トークバックのオン/オフが設定され、その他設定メニューに戻ります。
- ・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- ・設定を終了する場合は  を押して、メニューを終了します。

トークバック
1:オ
2:オ

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

 **メモ** 数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。

 →  →  →  (オン) または  (オフ) → 

■ 予告音のオン/オフを切り替える




音声呼出しの予告音の、鳴らす (オン) / 鳴らさない (オフ) の設定を切り替えることができます。

1 電話機が待受状態のとき、 を押す

端末設定メニューが表示されます。



待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05 Tel. 100

**2 「2：その他設定」を 、 で選び、
 を押す**



その他設定メニューが表示されます。

端末設定
1:音設定
2:その他設定

**3 「6：音声呼出予告音」を 、 で選び、
 を押す**

音声呼出予告音のオン/オフを切り替える画面が表示されます。

その他設定
4:バックライトタイマ切替
5:トークバック
6:音声呼出予告音

メニューに表示されていない項目は、 を押してカーソルを移動させると表示できます。 を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 音声呼出予告音のオン/オフを^{機能}↑、↓で選び、を押す

- ・音声呼出予告音のオン/オフが設定され、その他設定メニューに戻ります。
- ・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- ・設定を終了する場合は^{機能}モニターを押して、メニューを終了します。

音声呼出予告音

- | |
|--------|
| 1: オン |
| 2: オフ* |

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

 **メモ** 数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。

確認/会議 → ^{機能}2 → ^{機能}6 → ^{機能}1 (オン) または ^{機能}2 (オフ) → ^{機能}モニター

■ キータッチ音のオン/オフを切り替える

キーを押した時に出る音の、鳴らす (オン) / 鳴らさない (オフ) の設定を切り替えることができます。

1 電話機が待受状態のとき、^{機能}○を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

2 「2: その他設定」を^{機能}↑、^{機能}↓で選び、^{機能}○を押す

その他設定メニューが表示されます。

端末設定
1: 音設定
2: その他設定

3 「1: キータッチトーン切替」を^{機能}↑、^{機能}↓で選び、^{機能}○を押す

キータッチ音のオン/オフを切り替える画面が表示されます。

その他設定
1: キータッチトーン切替
2: LCD濃度設定
3: ハンドセット切替

メニューに表示されていない項目は、^{機能}○を押してカーソルを移動させると表示できます。^{機能}○を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 キータッチ音のオン/オフを^{機能}↑、^{機能}↓で選び、^{機能}○を押す

- ・キータッチ音のオン/オフが設定され、その他設定メニューに戻ります。
- ・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- ・設定を終了する場合は^{機能}モニターを押して、メニューを終了します。

キータッチトーン切替
1: オン
2: オフ*

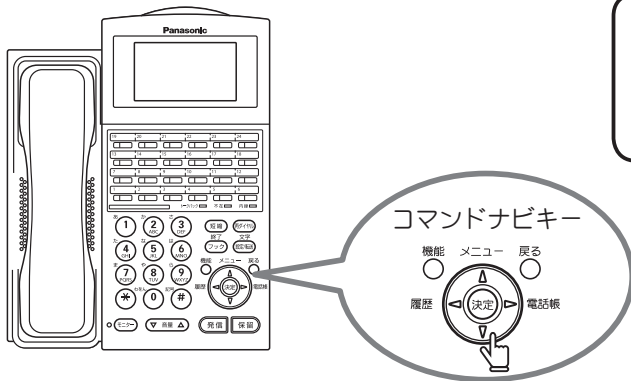
ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

 **メモ** 数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。

確認/会議 → ^{機能}2 → ^{機能}1 → ^{機能}1 (オン) または ^{機能}2 (オフ) → ^{機能}モニター

5-6 ディスプレイ表示を調節する

ディスプレイのバックライトの点灯時間や、ディスプレイに表示される文字の濃さを調節することができます。



メモ

ディスプレイ表示の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。

■ バックライトタイマを調節する

漢字

ディスプレイのバックライトが点灯してから、消灯するまでの時間を変更することができます。また、常にバックライトを点灯させたり、常に消灯させる設定を行うこともできます。

1 電話機が待受状態のとき、^{機能} **○**を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

2 「2：その他設定」を^{決定} **↑**、^{決定} **↓**で選び、^{決定} **○**を押す

その他設定メニューが表示されます。

端末設定
1:音設定
2:その他設定

3 「4：バックライトタイマ切替」を^{決定} **↑**、^{決定} **↓**で選び、^{決定} **○**を押す

バックライトタイマを調節する画面が表示されます。

その他設定
2:LCD濃度切替
3:ハンドセット切替
4:バックライトタイマ切替

メニューに表示されていない項目は、^{決定} **↓**を押してカーソルを移動させると表示できます。^{決定} **↑**を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 バックライトタイマの設定値を^{決定} **↑**、^{決定} **↓**で選び、^{決定} **○**を押す

- バックライトタイマが設定され、その他設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 設定を終了する場合は**モニター**を押して、メニューを終了します。

バックライトタイマ切替
1:無操作5秒保持
2:無操作10秒保持*
3:無操作30秒保持
4:常時消灯
5:常時点灯

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

■ ディスプレイの濃度を調節する

漢字

ディスプレイに表示される文字が薄い、または濃い場合は調節することができます。16段階で調節することができます。

1 電話機が待受状態のとき、^{機能}○を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

01/05 Thr 16:05
Tel. 100

2 「2：その他設定」を^{機能}↑、^{機能}↓で選び、^{決定}○を押す

その他設定メニューが表示されます。

端末設定
1:音設定
2:その他設定

3 「2：LCD濃度設定」を^{機能}↑、^{機能}↓で選び、^{決定}○を押す

ディスプレイの文字の濃度を調節する画面が表示されます。

その他設定
1:キータッチオン切替
2:LCD濃度設定
3:ハンドセット切替

4 ▽音量△を押して濃度を切り替える

- ・濃度を示す■が表示されます。
- ・キーを押すごとに、濃度が1段階ずつ変わります。
- ・濃度は2段階で1目盛を表示します。

LCD濃度設定

■■■■■■■_

▽音量△

薄くする 濃くする

LCD濃度設定

■■■_

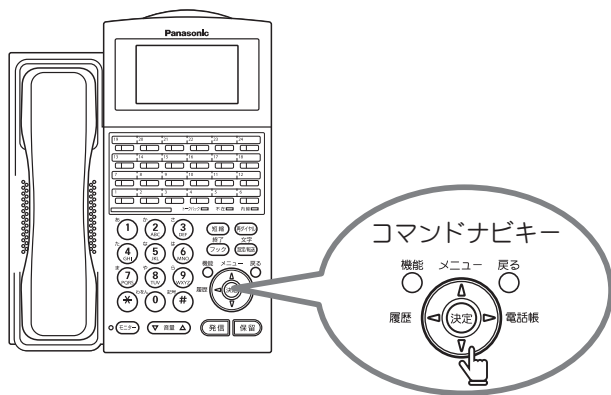
5 ^{決定}○を押す

- ・ディスプレイの文字の濃度が設定され、その他設定メニューに戻ります。
- ・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- ・設定を終了する場合は^{モニター}○を押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

5-7 ハンドセット/ヘッドセットを切り替える

ハンドセットの代わりに市販のヘッドセットを接続する場合には設定を切り替える必要があります。



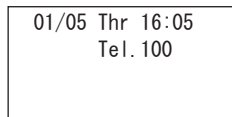
メモ
ハンドセット切替えの設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。

メモ ヘッドセットを使うとき

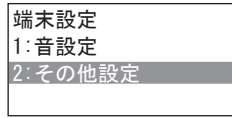
- ヘッドセットを使うときは、電話機本体から受話器コードを抜き、ヘッドセットを接続します。
- 受話器は元の位置に置いたままにします。
- 外線から電話がかかってきたときは、**モニター**を押して応答してください。
- 使用可能なヘッドセットにつきましては、取扱店にご相談ください。

1 電話機が待受状態のとき、^{機能} **○を押す**
端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例



2 「2：その他設定」を[↑]、[↓]で選び、決定**を押す**
その他設定メニューが表示されます。



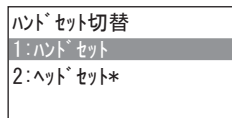
3 「3：ハンドセット切替」を[↑]、[↓]で選び、決定**を押す**
ハンドセット/ヘッドセットを切り替える画面が表示されます。



メニューに表示されていない項目は、[↑]を押してカーソルを移動させると表示できます。^{決定}を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 切り替える項目を[↑]、[↓]で選び、決定**を押す**

- ・ハンドセット切替えが設定され、その他設定メニューに戻ります。
- ・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- ・設定を終了する場合は**モニター**を押して、メニューを終了します。



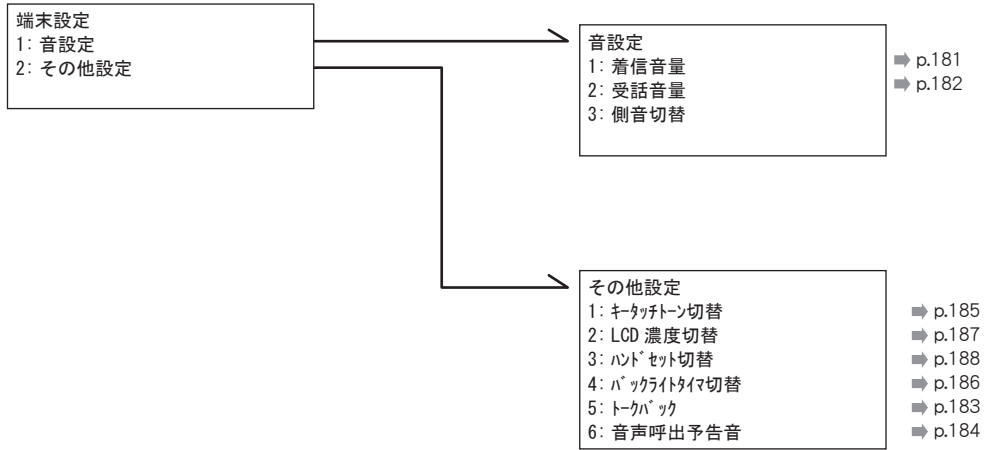
ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

メモ 数字表示付電話機の場合は、以下の方法で操作できます。
確認/会議 → **2** → **3** → **1** (ハンドセット) または **2** (ヘッドセット) → **モニター**



メモ 漢字表示付電話機の端末設定メニュー 一覧

端末操作メニューは、電話機が待受状態のとき^{機能} を押すと表示されます。
 端末設定メニューには以下の項目があります。
 (ページ番号は、詳細説明が記載されているページです)。



メモ 数字表示付電話機で操作可能な端末設定

数字表示付電話機の場合、ディスプレイに操作ガイダンス (メニュー) は表示されませんが、端末の各種設定を行うことができます。

電話機が待受状態のとき、 を押した後、 を押した後、以下のように数字を入力して操作します。

設定項目		操作	参照先
着信音量調整		① → ① → 音量	p.181
受話音量調整		① → ② → 音量	p.182
側音オン		① → ③ → ①	—
側音オフ		① → ③ → ②	—
キータッチトーン	あり	② → ① → ①	p.185
	なし	② → ① → ②	
ハンドセットへ切替		② → ③ → ①	p.188
ヘッドセットへ切替		② → ③ → ②	
トークバック	オン	② → ⑤ → ①	p.183
	オフ	② → ⑤ → ②	
音声呼出予告音	オン	② → ⑥ → ①	p.184
	オフ	② → ⑥ → ②	

第6章 さらに活用したいとき

6-1 周辺機器との接続	192
6-2 アナログ電話機の操作	196
6-3 デジタルコードレス電話機 (PHS) の操作	200
6-4 無線 LAN デュアル端末について	208
6-5 集中受付装置 (DSS) の使い方	210

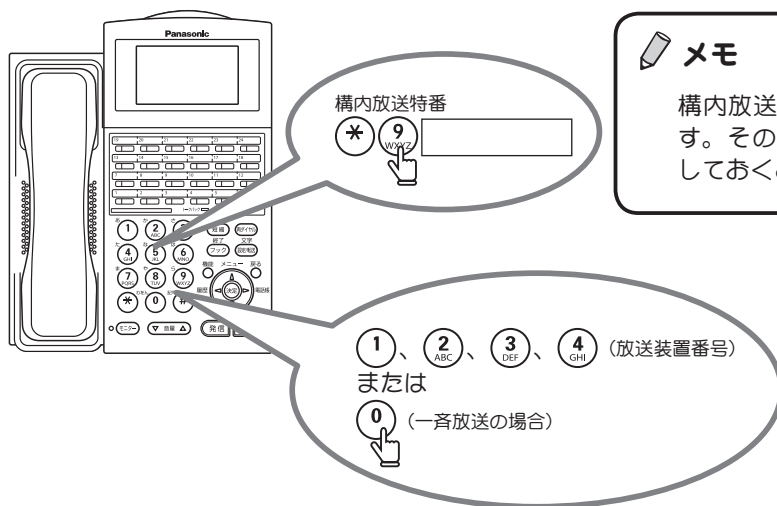
6-1 周辺機器との接続

電話機を構内放送、ドアホンと接続して使用することができます。

■ 構内放送装置との接続

外部の放送設備を利用して、電話機から構内放送ができます。放送装置は4台まで接続することができます。構内放送との接続は、取扱店にご相談ください。

構内放送をする



メモ

構内放送特番が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 **1** の前で **モニター** を押します。

2 構内放送特番をダイヤルする

初期設定は * 9 です。

3 放送装置番号をダイヤルする

- 1 ~ 4 : 放送装置番号
- 0 : 一斉放送

チャイム音が流れます。

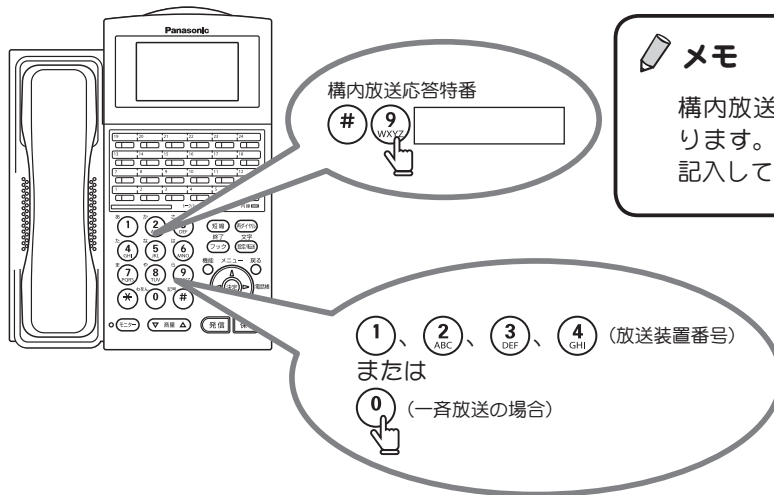
0 を押すと、すべての放送装置に接続されます。

4 受話器で呼びかける

- たとえば「営業一課の田中さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた音声流れます（呼びかけるときに放送装置番号も伝えてください）。
- 相手が応答すると通話ができます（次ページ参照）。

5 放送を終えたら受話器を戻す

構内放送の呼出しを受ける



メモ

構内放送応答特番が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておく便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 **1** の前で **モニター** を押します。

2 構内放送応答特番をダイヤルする

初期設定は **# 9** です。

3 応答する放送装置番号をダイヤルする

1 ~ **4** : 放送装置番号
0 : 一斉放送

構内放送をした人とつながり、通話できます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

メモ 番号入力をワンタッチで行うには

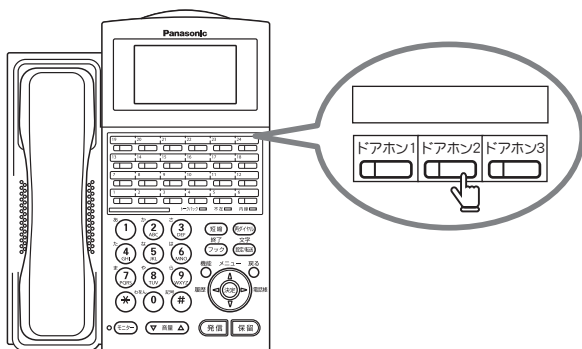
構内放送特番と放送装置番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 **2** と **3** の操作をワンタッチでできます。「構内放送をする」の操作手順 **2** と **3** についても同様です。フレキシブルキーに番号を登録する方法については、p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。

■ ドアホンとの接続

(ドアホン着信) / (ドアホンモニタ) / (ドアホン呼出し)

ドアホンからの呼出しを電話機で受けることができます。また、電話機からドアホンに呼びかけることもできます。

ドアホンは4台（同時通話は2通話）まで接続することができます。ドアホンとの接続は、取扱店にご相談ください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものとは異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくとう便利です。

例)

訪問者
ドアホン

ドアホンの呼出しに応答する

ドアホンの着信音が「ピンポーン」と鳴ります。

1 受話器を上げて、ランプが点灯している

ドアホン
□

を押す

通話ができる状態になります。

2 通話が終了したら受話器を戻す

ドアホンで外の音声を聞く

ドアホンを使ってドアホンの周辺の音声を聞くことができます。


1 | | |------| | ドアホン | | □ | を押す

外部の音声が「スピーカ」から聞こえます。

2 聞き終わったら | | |------| | ドアホン | | □ | を押す

ドアホンを呼び出す**1 受話器を上げる**

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2  を押す**3 相手に呼びかける**

扉の外の人とドアホンで通話できます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 **1** の前で **モニター** を押します。

6-2 アナログ電話機の操作

アナログ電話機には機能を割り付けるためのフレキシブルキーがありません。このため、アナログ電話機を IP OFFICE MX/EX の電話端末として使用する場合、利用できるサービス機能に制限があります。また、利用できる機能も特番ダイヤルが基本となるため、VB-F 型デジタル多機能電話機（漢字表示付電話機 / 数字表示付電話機）の場合とは操作手順が異なるものがあります。以下に、利用できるサービス機能および、VB-F 型デジタル多機能電話機との操作手順の違いについて、その概略を示します。

■ アナログ電話機で利用可能なサービス機能

アナログ電話機で利用可能なサービス機能を下表に示します。

機能名称	機能名称	機能名称
指定外線捕捉 (*)	割込み通話 (*)	グループ音声呼び
ARS 発信	内線相互通話	DGL/MSA
自動転送	ホットライン	ドアホン収容
保留	リダイヤル	FAX 接続 (*)
代理応答	放送結合	外線着信機能 (*)
手動転送	外線発信	ID 機能 (*)
会議通話	代理発信 (*)	ISDN DID 着信
DIL 着信	秘書機能 (*)	ISDN サブアドレス (*)
通話中着信	内線キャッチホン	
シリーズコール	トランクキャンプオン	

(*) 印がついている機能は、本書では特に扱われていないサービス機能です。

■ アナログ電話機の操作手順

以下に、アナログ電話機に特有な操作手順を示します。
特番のダイヤルが必要な箇所は《 》で囲み、特番を記入するための欄 [] を設けています。

記入例：[1 2]

ここに実際にお使いになる番号を記入しておくくと便利です。特番については、取扱店にご相談ください。

メモ フッキング操作とは

アナログ電話機の操作手順の中で、「フッキング操作を行う」と記載している箇所がありますが、以下のように操作します。

- フッキングボタンのある電話機
フッキングボタンを押す
- フッキングボタンのない電話機
受話器を置くところの上側にあるスイッチ（フックスイッチ）をポンと押します。

機能名称	操作手順
不在転送設定	① 待受中 ② [スピーカ] キーを押す または 受話器を上げる ③ 《不在転送先 & モード登録特番 []》をダイヤルする ④ 転送先の番号をダイヤルする ⑤ 転送先が内線以外の場合は、[#] を押す (または タイムアウト) ⑥ [スピーカ] キーを押す または 受話器を戻す
不在転送解除	① 待受中 ② [スピーカ] キーを押す または 受話器を上げる ③ 《不在転送先 & モード解除特番 []》をダイヤルする ④ [スピーカ] キーを押す または 受話器を戻す
保留	アナログ電話機からは回線保留はできません。以下のパーク保留機能を使用します。 ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 《パーク特番 [] (パーク n 対応特番)》をダイヤルする
代理応答	●グループ内代理応答 ① 同一内線グループ内の内線電話に着信がある ② 《内線代理応答特番 []》をダイヤルする ③ 通話する ●グループ指定代理応答 ① 他のグループの内線電話に着信がある ② 《指定代理応答特番 [] + グループ番号 []》をダイヤルする ③ 通話する
手動転送	●ダイヤル転送 (転送先と話してから取り次ぐ方法) ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 転送先の内線と通話する ⑤ 受話器を元に戻す (元の相手と転送先の相手が通話できる) ●キャンプオンリングング (転送先と話さずに取り次ぐ方法) ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 呼出し音を確認して受話器を元の位置に戻す (元の相手と転送先の相手が通話できる) ●チェンジオーバー (元の相手と転送先と交互に通話する) ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 転送先の内線と通話する ⑤ フッキング操作を行う ⑥ 保留にした相手と通話を再開する
内線相互通話	アナログ内線電話機に対しては、音声呼出しができません。 アナログ内線からは音声呼出しの切替えはできません。
リダイヤル	① 受話器を上げる ② 《リダイヤル特番 []》をダイヤルする

機能名称	操作手順
外線発信	<p>●ルート選択発信</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 待受中 ② 受話器を上げる ③ 《回線捕捉特番 []》をダイヤルする ④ 相手先の電話番号をダイヤルする ⑤ 相手の応答を待って通話する <p>●任意外線発信 アナログ内線電話機にはフレキシブルキーがなく、外線を割り付けたキーがないため、任意外線発信はできません。</p>
外線フッキング信号送出	<ol style="list-style-type: none"> ① 外線と通話中 ② フッキング操作を行う ③ 《フッキング特番 []》をダイヤルする（外線にフッキング信号を送出する）
DGL/MSA	<p>●DGL/MSA グループ呼出し 着信側電話機での操作</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 着信音が聞こえる ② 受話器を上げる ③ 通話する
ドアホン収容	<p>●ドアホン呼出し</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 待受中 ② 受話器を上げる ③ 《特番 []》をダイヤルする ④ ドアの外の相手とドアホン通話を行う <p>●ドアホン着信</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ドアホンから着信がある ② 受話器を上げる ③ ドアの外の相手とドアホン通話を行う
FAX 収容	<p>●FAX 転送</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 内線電話に FAX 着信がある ② 受話器を上げる ③ フッキング操作を行う ④ 《特番 []》をダイヤルする ⑤ ファクシミリ装置へ FAX が着信する
通話中着信	<p>●発信</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 話し中の音が聞こえる ② 《通話中着信特番 []》をダイヤルする ③ 相手の呼出し音が聞こえる ④ 相手が応答したら通話する <p>●着信</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 通話中 ② 「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ フッキング操作を行う <p>※この時、元々通話していた人は保留されています。受話器を元に戻すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。</p>
内線キャッチホン	<p>●着信</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 通話中 ② 「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ フッキング操作を行う <p>※この時、元々通話していた人は保留されています。受話器を元に戻すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。</p>

機能名称	操作手順
内線キャンブオンビジー	<p>●予約</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 話し中の音が聞こえる ② 《予約特番 []》をダイヤルする <p>●相手内線が空きになると</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の内線が鳴る ② 受話器を上げる（システムが通話相手呼び出す） ③ 相手と通話できる
シリーズコール	<ol style="list-style-type: none"> ① 待受中 ② 受話器を上げる ③ 内線番号をダイヤルする（例：100） ④ 呼出し音か話し中の音が聞こえる ⑤ ダイヤルキーで、話し中の内線の近くの内線番号の下1桁を押す（例：1） ⑥ 近くの内線（例では101）が呼び出される <p>※ PB アナログ電話機からの操作はできません。 ※内線番号の下1桁の範囲の内線のみ呼び出すことができます。 （上記の例でいうと、内線101～109を呼び出すことができます）</p>
トランクキャンブオン	<p>●予約</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 話し中の音が聞こえる ② 《予約特番 []》をダイヤルする <p>●内線空きの状態から任意の方路を予約登録する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受話器を上げる ② 《予約特番 []》をダイヤルする ③ 方路番号をダイヤルする <p>●内線空きの状態から登録を解除する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受話器を上げる ② 《予約特番 []》をダイヤルする <p>●外線・専用線が空きになると</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の内線が鳴る ② 受話器を上げる ③ ダイヤルトーンが聞こえる（ダイヤルできる）


メモ


システム設定で、シリーズコールが「許可」に設定されているときには、「通話中着信」「内線キャンブオンビジー」「トランクキャンブオン」の機能は使用できません。システム設定の変更については、取扱店にご相談ください。

6-3 デジタルコードレス電話機 (PHS) の操作

IP OFFICE MX/EX の内線電話機として、デジタルコードレス電話機 (以降、PHS) を接続することができます。

PHS 電話機には機能を割り付けるためのフレキシブルキーがありません。このため、IP OFFICE MX/EX の電話機として使用する場合、利用できるサービス機能に制限があります。また、利用できる機能も特番ダイヤルが基本となるため、多機能電話機の場合とは操作手順が異なるものがあります。

以下に、利用できるサービス機能および多機能電話機との操作手順の違いについて、その概略を示します。

-  **メモ**
- PHS をご利用になる場合、本章をお読みになる前に、必ず PHS に添付されている取扱説明書をお読みいただき、PHS、充電台、AC アダプター、電池パックなどの安全上のご注意や充電のしかたなどを理解してからお使いください。
 - ここでは、PHS を IP OFFICE MX/EX に接続した内線電話機として使用する場合の操作について説明しています。その他の使い方については PHS に添付されている取扱説明書をお読みください。
 - 一部、工事者による設定が必要な機能があります。取扱店にご相談ください。

■ デジタルコードレス電話機 (PHS) に特有な機能

● 通話範囲について

デジタルコードレス電話機 (PHS) は、デジタルコードレス (PHS) 基地局 (UF7100/UF7200) が設置されている場所から見通しで 70m ~ 150m までの範囲で通話できます。

※ 通話できる範囲は、設置環境により異なります。

● PHS 一斉着信

システム設定によって、一般着信、DGL 着信、ドアホン着信をデジタルコードレス電話機 (以降、PHS) に着信させることができます。複数の PHS へ着信させることができるこの機能は「PHS 一斉着信」といいます。着信のあった PHS では、どれか 1 台で応答することができます。

■ デジタルコードレス電話機 (PHS) で利用可能なサービス機能

デジタルコードレス電話機 (PHS) で利用可能なサービス機能を下の表に示します。

機能名称	機能名称	機能名称
指定外線捕捉	代理発信	ISDN サブアドレス
ARS 発信	秘書機能	PHS 一斉着信
自動転送	トランクキャンプオン	PHS 圏外
保留	外線フッキング信号送出	PHS 個別着信
代理応答	グループ音声呼び	PHS 呼出信号音識別
手動転送	DGL/MSA	PHS 発信
会議通話	ドアホン収容	通話中情報転送
DIL 着信	FAX 接続	発信者番号通知
着信音識別	外線着信機能	PHS 圏外代行
内線相互通話	ID 機能	通話中着信
ホットライン	発信者番号通知	内線キャッチホン
リダイヤル	理由通知	内線キャンプオンビジー
放送結合	発信者番号表示・規制	シリーズコール
外線発信	ISDN DID 着信	

■ デジタルコードレス電話機 (PHS) の操作手順

デジタルコードレス電話機 (PHS) を内線電話として使用する場合の操作手順について説明します。本書では、IP OFFICE MX/EX の内線電話機として接続できる PHS 電話機のうち、VB-C911A と UM7700 の 2 機種について説明します。

特番のダイヤルが必要な箇所は《 》で囲み、特番を記入するための欄 [] を設けています。

記入例：[1 2]

ここに実際にお使いになる番号を記入しておくくと便利です。特番については、取扱店にご相談ください。

VB-C911A の操作手順

Ⓚ開始・・・[開始]キー


Ⓚ終了・・・[終了]キー

Ⓚ保留・・・[保留]キー


機能名称	操作手順
PHS 個別着信	① PHS の着信音が鳴る ② [開始] キーを押す ③ 通話する (通話が終わったら、[終了] キーを押します)
PHS 一斉着信	① 自分の PHS が鳴動中 (このとき他の PHS、PHS 以外の他の電話機も鳴動中) ② 自分の PHS の [開始] キーを押す ③ 通話する (通話が終わったら、[終了] キーを押します) ※鳴動音やネーム (発番号以外) をグループごとに変えることができます。
発信	<p>●一括ダイヤル (プリセットダイヤル) 発信</p> ① 待受中 ② 相手先番号をダイヤルする ③ [開始] キーを押す ④ 通話する (通話が終わったら、[終了] キーを押します) <p>●電話番号の入力を間違えたとき</p> 番号の最後から 1 ケタずつ消すとき・・・ソフトキーの一番右 (F3) を押す 番号をすべて消してダイヤルしなおすとき・・・[終了] キーを押す <p>●分割ダイヤル発信</p> ① 待受中 ② [開始] キーを押す ③ ダイヤルトーンが鳴っているのを確認 ④ 相手先番号をダイヤルする ⑤ 通話する (通話が終わったら、[終了] キーを押します)
転送	<p>●口頭転送</p> ① 通話中 ② [保留] キーを押す ③ 《パーク保留特番 []》をダイヤルする ④ 転送先に口頭で連絡する(「〇〇さん△△番に外線です」) ⑤ [終了] キーを押す (自分の通話を終わり、転送先で [開始] キーのあとパーク保留特番をダイヤルすると、相手先と転送先との通話になる) <p>●ダイヤル転送</p> ① 通話中 ② [保留] キーを押す ③ 転送先番号をダイヤルする ④ 転送先と通話する ⑤ [終了] キーを押す (自分の通話を終わると、相手先と転送した先との通話になる)


機能名称	操作手順
不在転送設定	① 待受中 ② [開始] キーを押す ③ 《不在転送先 & モード登録特番 []》をダイヤルする ④ 転送先の番号をダイヤルする ⑤ 転送先が内線以外の場合は、[#] を押す（または タイムアウト） ⑥ [終了] キーを押す
不在転送解除	① 待受中 ② [開始] キーを押す ③ 《不在転送先 & モード解除特番 []》をダイヤルする ④ [終了] キーを押す
PHS 圏外転送	<p>● PHS からの転送先の登録</p> ① 待受中 ② [開始] キーを押す ③ 《不在転送先登録特番 []》をダイヤルする ④ [*] を押す ⑤ 転送先をダイヤルする ・内線の場合：《相手先内線番号》 ・外線の場合：[#] [0] 《相手先番号》 → [#] または [保留] キーを押す ・PBXの場合：[#] [2] 《相手先番号》 → [#] または [保留] キーを押す ・発信者選択：[*] → [保留] キーを押す <p>● PHS 圏外転送モード登録/解除</p> ① 待受中 ② [開始] キーを押す ③ 《PHS 圏外転送モード特番 []》をダイヤルする <p>● PHS 圏外転送モード登録/解除（プリセットで行う場合）</p> ① 待受中 ② 《PHS 圏外転送モード特番 []》をダイヤルする ③ [開始] キーを押す (※) PHS 圏外転送モードが登録されたか解除されたかは音で判別できます。 登録されたときは「ブーブ」 と 1 回鳴り、解除されたときは「ププププ」 と鳴ります。
保留	<p>● 保留操作</p> ① 通話中 ② [保留] キーを押す <p>● 保留解除</p> ① [保留] キーを押す
通話中着信	<p>● 発信</p> ① 話し中の音が聞こえる ② 《通話中着信特番 []》をダイヤルする ③ 相手呼出し音が聞こえる ④ 相手が応答したら通話する <p>● 着信</p> ① 通話中 ② 「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ [保留] キーを押す ※この時、元々通話していた人は保留されています。[終了] キーを押すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。
内線キャッチホン	<p>● 着信</p> ① 通話中 ② 「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ [保留] キーを押す ※この時、元々通話していた人は保留されています。[終了] キーを押すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。


機能名称	操作手順
内線キャンブオンビジー	<p>●予約</p> <p>① 話し中の音が聞こえる</p> <p>② 《予約特番 []》をダイヤルする</p> <p>●相手内線が空きになると</p> <p>① 自分の内線が鳴る</p> <p>② [開始] キーを押す（システムが通話相手呼び出す）</p> <p>③ 相手と通話できる</p>
シリーズコール	<p>① 待受中</p> <p>② [開始] キーを押す</p> <p>③ 内線をかける（例：100）</p> <p>④ 話し中の音が聞こえる</p> <p>⑤ ダイヤルキーで、話し中の内線の近くの内線番号の下1桁を押す（例：1）</p> <p>⑥ 近くの内線（例では101）が呼出される</p> <p>※内線番号の下1桁の範囲の内線のみ呼び出すことができます。 （上の操作例でいうと、内線101～109を呼び出すことができます）</p>
トランクキャンブオン	<p>●予約</p> <p>① 話し中の音が聞こえる</p> <p>② 《予約特番 []》をダイヤルする</p> <p>●内線空きの状態から任意の方路を予約登録する場合</p> <p>① 受話器を上げる</p> <p>② 《予約特番 []》をダイヤルする</p> <p>③ 方路番号をダイヤルする</p> <p>●内線空きの状態から登録を解除する場合</p> <p>① [開始] キーを押す</p> <p>② 《予約特番 []》をダイヤル</p> <p>●外線・専用線が空きになると</p> <p>① 自分の内線が鳴る</p> <p>② [開始] キーを押す</p> <p>③ ダイヤルトーンが聞こえる（ダイヤルできる）</p>

 **メモ** システム設定で、シリーズコールが「許可」に設定されているときには、「通話中着信」「内線キャンブオンビジー」「トランクキャンブオン」の機能は使用できません。システム設定の変更については、取扱店にご相談ください。

UM7700 の操作手順

 . . . [通話] キー
通話を開始します。

 . . . [電源] キー
通話を終了します。

 . . . [保留/クリア] キー
通話を保留します。

機能名称	操作手順
PHS 個別着信	① PHS の着信音が鳴る ② [通話] キーを押す ③ 通話する (通話が終わったら、[電源] キーを押します)
PHS 一斉着信	① 自分の PHS が鳴動中 (このとき他の PHS、PHS 以外の他の電話機も鳴動中) ② 自分の PHS の [通話] キーを押す ③ 通話する (通話が終わったら、[電源] キーを押します) ※鳴動音やネーム (発番号以外) をグループごとに変えることができます。
発信	●一括ダイヤル (プリセットダイヤル) 発信 ① 待受中 ② 相手先番号をダイヤルする ③ [通話] キーを押す ④ 通話する (通話が終わったら、[電源] キーを押します) 電話番号の入力を間違えたとき 番号の最後から 1 ケタずつ消すとき . . . [保留/クリア] キーを押す 番号をすべて消してダイヤルしなおすとき . . . [電源] キーを押す ●分割ダイヤル発信 ① 待受中 ② [通話] キーを押す ③ ダイヤルトーンが鳴っているのを確認 ④ 相手先番号をダイヤルする ⑤ 通話する (通話が終わったら、[電源] キーを押します)
転送	●口頭転送 ① 通話中 ② [保留/クリア] キーを押す ③ 《パーク保留特番 []》をダイヤルする ④ 転送先に口頭で連絡する (「〇〇さん△△番に外線です」) ⑤ [電源] キーを押す (自分の通話を終わり、転送先で [通話] キーのあとパーク保留特番をダイヤルすると、相手先と転送先との通話になる) ●ダイヤル転送 ① 通話中 ② [保留/クリア] キーを押す ③ 転送先番号をダイヤルする ④ 転送先と通話する ⑤ [電源] キーを押す (自分の通話を終わると、相手先と転送した先との通話になる)
不在転送設定	① 待受中 ② [通話] キーを押す ③ 《不在転送先 & モード登録特番 []》をダイヤルする ④ 転送先の番号をダイヤルする ⑤ 転送先が外線以外の場合は、[#] を押す (または タイムアウト) ⑥ [電源] キーを押す

機能名称	操作手順
不在転送解除	① 待受中 ② [通話] キーを押す ③ 《不在転送先 & モード解除特番 []》をダイヤルする ④ [電源] キーを押す
PHS 圏外転送	<p>● PHS からの転送先の登録</p> ① 待受中 ② [通話] キーを押す ③ 《不在転送先登録特番 []》をダイヤルする ④ [*] を押す ⑤ 転送先をダイヤルする ・内線の場合：《相手先内線番号》 ・外線の場合：[#] [0] 《相手先番号》 → [#] または [保留/クリア] キーを押す ・PBX の場合：[#] [2] 《相手先番号》 → [#] または [保留/クリア] キーを押す ・発信者選択：[*] → [保留/クリア] キーを押す
保留	<p>● 保留操作</p> ① 通話中 ② [保留/クリア] キーを押す
通話中着信	<p>● 発信</p> ① 話し中の音が聞こえる ② 《通話中着信特番 []》をダイヤルする ③ 相手呼出し音が聞こえる ④ 相手が応答したら通話する
内線キャッチホン	<p>● 着信</p> ① 通話中 ② 「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ [保留/クリア] キーを押す ※この時、元々通話していた人は保留されています。[電源] キーを押すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。
内線キャンプオンビジー	<p>● 予約</p> ① 話し中の音が聞こえる ② 《予約特番 []》をダイヤルする

機能名称	操作手順
シリーズコール	① 待受中 ② [通話] キーを押す ③ 内線をかける (例: 100) ④ 話し中の音が聞こえる ⑤ ダイヤルキーで、話し中の内線の近くの内線番号の下 1 桁を押す (例: 1) ⑥ 近くの内線 (例では 101) が呼出される ※内線番号の下 1 桁の範囲の内線のみ呼び出すことができます。 (上の操作例でいうと、内線 101 ~ 109 を呼び出すことができます)
トランクキャンプオン	●予約 ① 話し中の音が聞こえる ② 《予約特番 []》をダイヤルする ●内線空きの状態から任意の方路を予約登録する場合 ① 受話器を上げる ② 《予約特番 []》をダイヤルする ③ 方路番号をダイヤルする ●内線空きの状態から登録を解除する場合 ① [通話] キーを押す ② 《予約特番 []》をダイヤル ●外線・専用線が空きになると ① 自分の内線が鳴る ② [通話] キーを押す ③ ダイヤルトーンが聞こえる (ダイヤルできる)

**メモ**

システム設定で、シリーズコールが「許可」に設定されているときには、「通話中着信」「内線キャンプオンビジー」「トランクキャンプオン」の機能は使用できません。システム設定の変更については、取扱店にご相談ください。

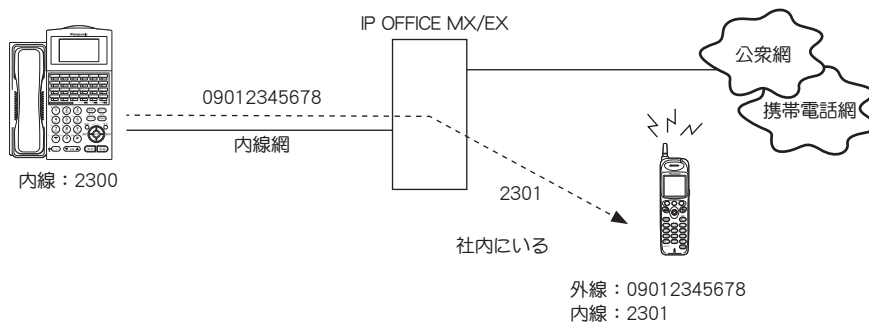
6-4 無線 LAN デュアル端末について

IP OFFICE MX/EX の電話端末として無線 LAN デュアル端末を使用すると、社内では内線、外出先では携帯電話として 1 台 2 役で使用できます。

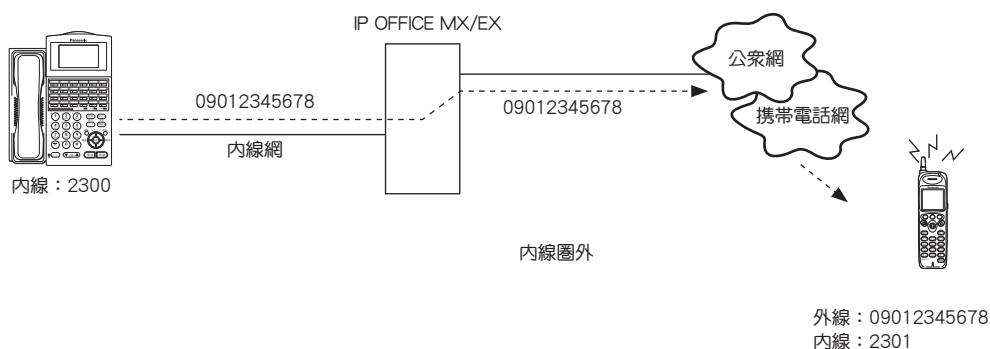
無線 LAN デュアル端末を持つ相手へ電話する場合は、いつでも携帯電話番号でかけられます。相手が社内にいる場合は内線として接続され、外出先にいる場合は携帯電話網経由で接続されます。

※無線 LAN デュアル端末とは、無線 LAN と携帯電話網を利用できる電話機です。IP OFFICE MX/EX では、この電話機を無線 LAN 圏内では内線、無線 LAN 圏外では携帯電話として使用できます。

- 社内から無線 LAN デュアル端末へかける（内線として接続）

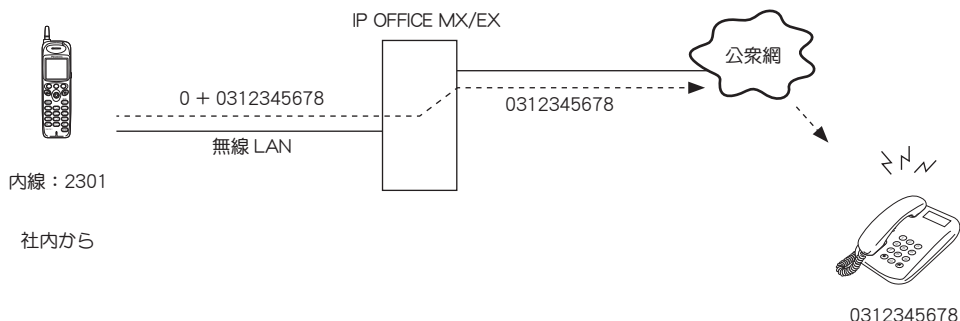


- 社内から無線 LAN デュアル端末へかける（携帯電話として接続）



無線 LAN デュアル端末で社内から外線へ発信する場合は、公衆電話網を使用するため、通信コストを削減できます。

- 社内の無線 LAN デュアル端末から外線へかける（公衆電話網で接続）



**メモ**

- 内線圏外の無線 LAN デュアル端末に対して内線番号をダイヤルしても、携帯電話網への接続は行われません。
- 無線 LAN デュアル端末に発信した後は、オートリPEAT 操作では発信できません。
- リダイヤルで無線 LAN デュアル端末に発信して内線接続になった場合、クイックリダイヤルはできません。(キーを押しても何も起こりません。)
- 受話器を上げるだけで外線にかけられる電話機(オフフック外線自動捕捉)からは、無線 LAN デュアル端末に内線として電話をかけることはできません。

6-5 集中受付装置 (DSS) の使い方

漢字表示付電話機に集中受付装置 (VB-F631A) を接続すると、72 個のフレキシブルキーを増設することができます。各キーに内線 DSS (Direct Station Selection) を割り付け、相手の内線番号を登録しておいて、オペレータや受付業務などに利用すると、外線を集中して受け付けて、在席している内線に転送することができます。これにより、電話受付業務の合理化が図れます。

集中受付装置の各キーはフレキシブルキーとして使用できます。
 各キーに内線 DSS を割り付ける方法については、p.90「フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける」を参照してください。
 キーに一斉呼出や夜間切替などの機能を割り付ける方法については、p.88「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

メモ ●集中受付装置は、最大 4 台 (最大 288 キー) まで増設できます。
 ●数字表示付電話機、カールコードレス電話機には接続できません。

集中受付装置の各部の名称と説明 漢字

フレキシブルキー


集中受付装置のフレキシブルキーの設定例

[内線DSS]キー	内線呼出するときに使用します。使用中はランプが点灯します。
[夜間切替]キー	昼夜モードを切り替えるときに使用します。キーを押すごとに昼夜モードが切り替わります。詳細はp.110「4-4 昼夜モードを切り替える」を参照してください。

転送/終話 キー
電話を切るときや通話を転送するときに使用します。

応答 キー
電話を受けるときに使用します。

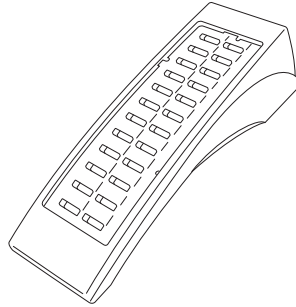
メモ ●グループ内の電話を一斉に呼出したり、構内放送で一斉に呼び出したりするには、特番を使用します。詳細は p.129「グループ内の電話を一斉に音声で呼び出す」、p.131「他のグループを呼び出す」、または p.192「構内放送装置との接続」を参照してください。
 ●特番をフレキシブルキーに割り当てて使用することもできます。操作方法については、p.85「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。

-  **メモ** ●集中受付装置のランプ表示は、それぞれ割り当てているフレキシブルキーの機能と同様です。
- 外線転送中や、内線を個別に呼び出したときに、相手が応答しないときや呼出先を間違えたときは、呼出し中とは別の [内線 DSS] キーを押すことで、呼出先を簡単に切り替えられます。

 **24 キー増設ユニットについて**

漢字表示付電話機に 24 キー増設ユニット (VB-F331A) を接続すると、24 個のフレキシブルキーを増設することができます。

数字表示付電話機、カールコードレス電話機には接続できません。



付録

フレキシブルキー機能一覧	214
短縮ダイヤル、電話帳、ワンタッチキー、オートダイヤルキーの機能のちがい	216
用語解説	217
故障かな？とお考えになる前に	223
保証とアフターサービス	224

フレキシブルキー機能一覧

No.	フレキシブルキー名	機能の概要
01	リダイヤル	直前に発信した相手にかけ直す場合に使用します。
02	オートリポート	外線発信で呼び出そうとした相手が通話中の場合、自動的にかけ直す場合に使用します。(最大 15 回)
03	ダイヤルメモリ	後で電話をかけたい番号を記録し、簡単に発信する場合に使用します。通話中に電話番号などをメモすることも可能です。メモした電話番号は発信に使用できます。
04	短縮	短縮ダイヤルとして登録した相手先番号に内線から発信する場合に使用します。多機能電話機と IP 多機能電話機からは、[短縮] キーを使った発信、短縮ダイヤルごとの相手先名からの発信 (ネーム検索) も可能です。
05	代理応答	自分が属する代理応答グループの着信、もしくは、他の代理応答グループの着信に、キー操作または特番操作で応答する時に使用します。
06	秘話/会議	秘話解除による会議参加 (最大 4 者)、または通話中に別の相手にダイヤルして会議通話 (最大 4 者) を行うときに使用します。
07	夜間切替 nnn	外線からの着信形態の昼夜モードを手動で切り替える場合に使用します。
08	集中着信	すべての一般系着信にオフフックのみで応答する場合に使用します。
09	指定外線転送 [T-T 転送]	指定した外線からかかってきた電話を、別に指定した外線へ自動的に転送する場合に使用します。
10	自己保留	通話を一時保留する場合に使用します。保留解除は、自己保留した電話機からのみ可能です。
11	不在設定	不在中に発信者の電話機ディスプレイ画面に表示するメッセージを選択し、登録する場合に使用します。発信者の電話機ディスプレイには、選択されたメッセージが表示 (不在/外出/会議) され、不在であることを伝えます。
12	PB 信号	通話中にプッシュホン信号を送出する場合に使用します。ダイヤル回線でもプッシュホン信号が送出できます。
13	予約	外線の空きがない場合や内線の相手が通話中の場合に、電話がかけられるようになったことを呼出し音で知らせる機能です。
14	ID	システム単位で設定する 1 ~ 12 桁の ID 番号により、発信の規制を行う場合に使用します。
15	不在転送	離席の際に、着信を登録した番号へ自動転送します。着信識別には、内線着信、外線着信、専用線着信があります。
16	ARS 停止	発信時の ARS 機能を停止する場合に使用します。
17	クラス切替 nnn	クラス切替グループごとに内線クラス (規制クラス) を切り替える場合に使用します。
18	指定代理応答	指定した他の代理応答グループの着信に応答する場合に使用します。このキーを押して、グループ番号をダイヤルすることで代理応答ができます。
19	着信ウェイト	外線からの一般系着信 (一般着信、DGL 着信) に対して、誰も応答できる人がいない場合、通話中の多機能電話機または IP 多機能電話機からの操作で、発信者に対して、待ち合わせメッセージ (例:「ただ今、混み合っております。しばらくお待ち下さい」) を送出する場合に使用します。
20	割込	通話中の内線/外線/専用線に対して、通話に割り込んで 3 者通話する場合に使用します。割込み通話は、設定された特定の内線からのみ可能です。
21	フッキング	通話中に、外線にフッキング信号を送ります。内線へ発信中にこのキーを押すと、かけ直しができます。
22	料金	IP OFFICE 専用の MRG を使用して予算管理 (予算無しの場合の外線捕捉規制/外線発信時の警告音送出) を行うときに使用します。このキーを押すと、料金情報が電話機のディスプレイ画面に表示されます。
24	FAX1	FAX を接続している場合に使用します。このキーを押すことで、指定した FAX に転送することができます。FAX に着信があると、このキーのランプに状況が表示されます。なお、FAX は 2 台まで接続することができます。この機能を使用するには、あらかじめシステム設定をしておく必要があります。
25	FAX2	
26	在席/離席	秘書機能を利用時に使用します。幹部電話機が在席中か離席しているかを設定します。

No.	フレキシブルキー名	機能の概要
27	通話録音	ボイスメール機能で使⽤します。通話中の声を自分のメールボックス、または他のメールボックスに録音することができます。通話が録音できるのは、外線/専用線との通話のみです。
29	録音終了	ボイスメール機能で使⽤します。[通話録音]で開始した録音を終了します。
30	一時停止	ボイスメール機能で使⽤します。[通話録音]で開始した録音を一時停止および再開するために使⽤します。
33	外線発信	外線に発信するときに使⽤します。ARS 機能が働いている場合は、このキーを押すとARS 発信となります。
37	非通知	NTT のナンバーディスプレイ対応回線を捕捉して発信する場合、自分の番号を相手に伝えたくない場合に使⽤します。このキーを押すと、非通知用の番号を自動挿入します。ISDN でも有効となります。
38	外線代理応答	代理応答グループ内の外線着信のみに応答する場合に使⽤します。内線着信には応答できません。
39	内線代理応答	代理応答グループ内の内線着信のみに応答する場合に使⽤します。外線着信には応答できません。
40	キーパッド	ISDN の付加サービスの中で、キーパッドファシリティを送信する必要がある場合に使⽤します。たとえばINS ボイスワープなどの転送先登録などで使⽤します。
41	着信履歴	外線から着信した場合に、受信した発信者番号を着信記録として蓄積します。着信記録には、内線、テナント、DGL ごとに蓄積することができます。また、蓄積した着信記録先へ発信することができます。
42	アカウント	このキーを使⽤すると、最大 8 桁のアカウントコードを通話管理情報とともに出力することができます。このアカウントコードをあとで入力することで、通話明細を出力することができます。
45	電源状態	停電などで、バッテリー運用状態となったことを知らせるときに使⽤します。
46	回線制限	指定した ISDN 回線を一時的に使用制限する場合に使⽤します。
47	着信拒否	非通知の着信やあらかじめ登録しておいた電話番号から電話がかかってきた場合に、それらの着信を拒否する場合に使⽤します。
48	ボイスワープ	システムがボイスワープと不在転送、代表スライドを併用している時、ボイスワープの運用を優先させます。
49	代理応答 nn	あらかじめ応答するグループ番号を割り当てることで、グループ番号のダイヤルが不要になります。
51	伝言録音	ボイスメール機能で使⽤します。電話をかけてきた人に、転送先のメールボックスにメッセージを入れてもらうことができます。この機能は、外線/専用線/内線のいずれからかかってきた場合にも利⽤できます。
54	同時呼出	キーを割り当てた電話機と登録した相手を同時に呼び出すために使⽤します。
55	個別遅延転送	着信（内線個別着信、一般系着信）に対して一定時間応答しなかった場合、登録した転送先に転送することができる機能（個別応答遅延転送）で、応答遅延転送先を登録/解除するときに使⽤します。
56	話中転送	個別着信に対して、着信先内線が話中の場合、登録されている転送先に転送することができる機能（話中転送）で使⽤します。このキーを使⽤して、転送先および話中転送モードの登録/解除を行います。
58	キャンプオン	転送相手が話中のときにキャンプオンリングングを行いたい場合に使⽤します。転送操作のとき、このキーを押す代わりに受話器を置くこともできます。
59	DGL 着呼制限	1 つの DGL グループに着信できる電話の数（呼数）を制限するときに使⽤します。


メモ

ファンクション No.07、17、49 の nnn、nn はグループ番号を示します。ファンクション No.07、17、49 を割り付けるときは、付加情報として、グループ番号を入力する必要があります。

短縮ダイヤル、電話帳、ワンタッチキー、オートダイヤルキーの機能のちがい

操作名 (参照ページ)	主な用途	登録件数	ネーム登録の可否	発着信時のネーム表示の有無
短縮ダイヤル (使用方法⇒ p.27) (設定方法⇒ p.76)	社内の共通電話帳として使用できます。 登録した番号は、どの電話機からでも、短縮番号をダイヤルすることで発信ができます。	最大 1,000 件/システム	○	○ (*1)
電話帳 (使用方法⇒ p.25) (設定方法⇒ p.59)	電話機ごとの電話帳として使用できます。 登録した電話機からのみ検索発信することができます。	最大 128,000 件/システム	○	○ (*1)
ワンタッチキー (使用方法⇒ p.28) (設定方法⇒ p.93) ※数字表示付電話機のみ	電話機ごとにワンタッチキー（最大 10 キー）に番号を登録して使用できます。 キーを押すだけで、登録された番号へ発信することができます。	最大 10 番号/電話機	× (*3)	× (*3)
オートダイヤルキー (使用方法⇒ p.28) (設定方法⇒ p.85)	フレキシブルキーに番号を登録することができます。 キーを押すだけで、登録された番号に発信することができます。	最大 24 番号 (*2) /電話機	× (*3)	× (*3)

(*1)

- 同じ電話番号（および名前）を、短縮ダイヤルと電話帳の両方に登録している場合は、短縮ダイヤルで登録した名前がディスプレイに表示されます。
- 外線からの電話番号（または名前）を表示するには、IP OFFICE MX/EX 使用者がナンバーディスプレイの契約をしている必要があります。

(*2) 未使用のフレキシブルキーの数によって、登録可能な番号の数は異なります。

(*3) ワンタッチキー、オートダイヤルキーには、名前を登録できません。そのため、キーに登録されている電話番号から着信があっても、着信時に名前は表示されません。

用語解説

アルファベット

ARS (Automatic Route Selection) 着信	外線に電話するとき、その相手先により最適なキャリア、専用線網、IP 網を経由するルートを選択して接続します。この機能を自動ルート選択、すなわち ARS 発信と言います。
DGL (Direct Group Line) 着信	外線、内線、専用線からの電話をグループ内の電話機に同時に着信させる方法の1つです。
DGL/MSA (Direct Group Line/Multi-Station Access)	DGL 着信、MSA 着信の項を参照。
DID (Direct Inward Dialing)	PBX 環境では、公衆網からかかってきた電話をオペレータなどの介在なしに特定の内線に接続する機能のことです。
DID 着信自動転送	外線/専用線からの内線個別着信をあらかじめ登録した外線に転送できる機能のことです。
DIL (Direct-In-Line) 着信	外線個別着信機能のことです。あらかじめシステム設定しておくことにより、指定外線（DIL 外線）からかかってきた電話を、指定された内線（DIL 内線）で直接受け取ることができる機能を指します。着信先として、内線と DGL（MSA）があります。
DSS (Direct Station Selection)	相手の内線電話をワンタッチのキー操作で直接呼び出す機能のことです。フレキシブルキーに DSS 機能を割り付け、そのキーに登録された内線をワンタッチで呼び出すことができます。割り付けたキーのランプの状態で、相手の電話機が使用中かどうかを知ることができます。
ISDN DID 着信	ISDN 回線からかかってきた電話に対して、システムが指定された内線を識別し、内線を呼び出す機能のことです。
MSA (Multi-Station Access) 着信	DGL グループ内の呼毎に MSA キーを割り当てて着信/応答/保留に使用する方式を言います。DGL（Direct Group Line）着信をさらに進化させた方式で、そのグループに着信可能な数の MSA キーを割り付けることで、例えば総務に着信があると総務の MSA キーのうち、空いているランプが点滅します。発信や保留も同じキーで行えるので、従来の操作と同様の使い方 PBX ダイヤルインを利用できます。
PBX ダイヤルイン	公衆網から受信するダイヤルイン番号に応じて着信先の内線を指定する機能のことです。外線にはダイヤルイン回線を使用する必要があります。
T-T 転送	指定した外線からかかってきた電話を、別に指定した外線へ自動的に転送する機能のことです。「トランクートランク転送」、「指定外線転送」とも言います。

五十音

【ア行】

- 一般着信** 外線からの着信には、複数の内線に着信する一般着信と1つの内線のみに着信する個別着信の2つのパターンがあります。一般着信は、外線または専用線からの電話を、工事設定したすべての電話機に着信させる方法です。これに対し、個別着信とは外線からの電話をグループに着信させる方法で、DGL/MSA 着信などがあります。
- オートダイヤル** ワンタッチキーやフレキシブルキー（オートダイヤル）に相手先番号を登録しておき、そのキーを押すだけで、登録されている相手先へ電話をかけることができる機能のことです。
- オフフック外線自動捕捉** 受話器を上げるだけで外線にかけられる機能のことです。工事設定された内線電話機だけからこの機能を使うことができます。
- オフフック外線自動応答** 外線（または専用線）から電話がかかってきた場合、受話器を上げるだけで応答できる機能です。工事設定された内線電話機だけからこの機能を使うことができます。
- 音声呼出し** 内線呼び出す方法の一つで、相手電話機のスピーカから音声を流して呼び出す方法です。

【カ行】

- 外線／専用線乗り換え** 使用している回線を切断して指定した別の外線（または専用線）に乗り換えることを言います。現在使用している回線が切断され、新たに指定した回線と接続されます。
- 外線発信** 外線（または専用線）へ電話をかけるときに通常使われる機能です。外線発信特番または外線発信用のフレキシブルキーを押した後に、相手の番号をダイヤルすると、ARS 機能が自動的に最適ルートを選択するため、そのルートで空いている外線（または専用線）を使用して発信できます。
- 回線保留** 通話中に「保留」キーを押すことにより、通話相手を保留する機能のことです。自己保留機能とは異なり、別の電話機でも保留を解除することができます。
- キャンプオンリング** 通話中の外線（または内線、専用線、ドアホン）を他の内線へ転送するとき、転送先の内線番号をダイヤルし呼出し音を確認した段階で受話器を元の位置に戻して、回線から抜ける方法を言います。転送先の内線が応答することで、保留中の相手と通話することができます。
- グループ音声呼出し** 複数の内線を音声で同時に呼び出す機能のことです。
- グループ指定代理応答** 「代理応答」を参照。
- グループ着信** グループ内のすべての電話機に着信させる方法です。
- グループ内代理応答** 「代理応答」を参照。
- 個別着信** 内線電話機に個別に着信させる方法です。

【サ行】

- 自己保留** 通話中に「自己保留」機能が割り付けられているフレキシブルキーを押して、通話相手を一時的に保留状態に置くことです。保留状態の解除ができるのは、自己保留した電話機からのみです。
- 指定外線転送** 夜間や外出中の電話をあらかじめ登録された電話番号へ自動的に転送します。フレキシブルキーに割り付ける機能名では「T-T 転送」と言います。
- 自動転送** 内線にかかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた転送先へ自動的に転送する機能の総称です。本システムでは自動転送機能として、不在転送（内線が不在のとき、その行き先へ転送する）、発信番号不在転送（網からの発信者番号ごとに不在転送先を選択できる）、シフト着信（外線からの着信に対して、応答がないときの内線へ転送する）、DID 着信自動転送（DID 着信を外線へ転送する）、フォローミー（不在転送登録を不在転送先から行なう）、選択転送（不在転送の転送先を被転送者が選択する）、転送電話（外線からの着信を外線へ転送する）などの機能を提供しています。
- シフト着信** 外線からかかってきた電話に対して一定時間応答しない時、別の内線に着信を転送（シフト）する機能です。シフト先はシステム設定で内線ごとに設定することができます。
- 主装置** ビジネスホンの本体のことです。
通常、ビジネスホンは 1 台の主装置と複数のビジネスホン用電話機から構成されます。
- 選択転送** 外線からかかってきた電話に対して、メッセージトランクから転送先の選択を促す選択転送ガイダンスを送り、発信者側の操作で外線への転送、代表グループへのスライドのいずれかを選択させてから、選択された転送先に電話をつなぐ機能です。ただし、この機能を行うには、以下の設定を行う必要があります。
- ① 転送先登録
 - ② 選択転送を有効にする登録
 - ③ 選択メッセージ用の音声ガイダンス（選択転送ガイダンス）を付加番号 DID の音声ガイダンスに録音（例：ただ今外出中です。外出先の携帯電話へ転送する場合は 0 を、そうでない方は 2 をダイヤルしてください。）

【タ行】

- ダイヤル転送** 通話中の外線（または内線、専用線、ドアホン）を他の内線へ転送するとき、転送先の内線番号をダイヤルし、応答を待って転送する旨を伝えてから受話器を元の位置に戻す転送の方法です。
- 代理応答** 複数の内線電話で構成される代理応答グループ内の特定の電話機に着信があったとき、その電話機の代わりにキー操作または特番で応答できます。これを「グループ内代理応答」と言います。また他の代理応答グループ内の内線電話機に着信があったときも、その電話機に代わって応答できます。これを「グループ指定代理応答」と言います。
- 短縮オート** フレキシブルキーに割り付けられた短縮ダイヤル機能のことです。キーを押すだけで短縮ダイヤル発信ができます。

短縮ダイヤル	システム内のすべての内線が共通に使用する短縮ダイヤルサービスを言います。短縮番号はあらかじめシステム管理者によって登録されています。「短縮ダイヤル」機能が割り付けられたフレキシブルキーを押して、短縮番号をダイヤルすることで発信できます。相手先の電話番号や名前から短縮ダイヤルを検索・確認して発信することもできます。
チェンジオーバー	ダイヤル転送の操作中、または転送先相手と通話中に、転送者が [設定 / 転送] キーまたはフッキング操作を繰り返すことにより発信元（電話をかけてきた人）と転送先内線を交互に切り替えて通話することを言います。
遅延転送	指定外線自動転送で「遅延タイマー」を指定したとき、一定時間の呼出しに回答がない場合に転送を行う機能です。
着信音	電話がかかってきたことを知らせる音がスピーカーから出ます。発信元のタイプに応じてさまざまな音色があります。内線電話機の好みの音を選択することも可能です。
着信音識別	着信種別（内線／外線一般／外線個別／専用線）ごとに、あるいは網からの鳴動リングごとに内線への鳴動リング周期を変える機能です。さらに、各内線／回線／発信者番号ごとに 4 種類の異なった音色により着信音を識別できるように設定できます。各内線ごとの着信音色は電話機からの操作によっても選択できます。
着信テナント	外線から一般着信があったときに接続するように工事設定されている内線のことです。外線ごとに接続する内線を指定できます。
着信記録	外線から着信した場合に、発信者番号を履歴として記録する機能です。この履歴を利用して相手に電話をかけることもできます。
転送電話	指定した外線からの電話を、別の外線へ転送する機能です。転送先をあらかじめ登録しておいたり、登録してある転送先を変更することができます。
ドアホン着信応答	ドアホンからの呼出しがあったとき、内線電話機から応答できる機能のことです。
ドアホン呼出し	内線電話機からドアホンで扉の外にいる人を呼び出す機能のことです。

【ナ行】

内線相互通話	内線番号をダイヤルして、システム内の端末同士でお互いに通話することを言います。相手呼び出す方法としては、ダイヤルして電話機のベルを鳴らす、スピーカーで呼び出すなどいろいろな方法があります。
内線ハンズフリー	内線音声呼出しに対して、受話器を上げずにハンズフリーの状態でも応答ができる機能のことです。あらかじめマイク状態を ON にしておくことにより、内線音声呼出しで双方向通話ができます。
内線ワンタッチコール	フレキシブルキーに DSS キーを割り付け、DSS キーを押すだけで、指定した内線電話機を呼び出したり、応答できる機能のことです。内線電話の転送にも使います。キーのランプで内線が使用中かどうかを確認できます。

任意外線発信 外線（または専用線）ごとに設定できる「回線」機能を割り付けたフレキシブルキーを押すことにより、その回線を使用して発信できる機能のことです。この機能は多機能電話機でのみ使用できます。

【八行】

パーク保留 「回線」機能をフレキシブルキーに割り付けられない電話機、または内線電話を保留にする場合に用いられる保留機能です。パーク保留に回答できる電話機をグループ化して、グループ内保留に回答できるグループパークと、システム全体に回答できるシステムパークを構成することができます。例えば、会社の受付はシステムパーク、課内はグループパークとして運用することができます。パークの種類に応じて、パーク保留にもグループパーク保留とシステムパーク保留があります。

発信音 電話をかけるとき受話器またはスピーカから出る音のことです。外線発信音と内線発信音があります。外線発信音は「ツー」、内線発信音は「ツーツー」という音がします。

発信者番号通知 公衆網から着信があったとき、発信者番号情報を網から受け取ることができる機能です。発信者番号をディスプレイに表示したり、着信音を選択したり、リダイヤルへ蓄積したり、あるいは着信記録情報として蓄積するなど、さまざまなことができます。

発信者番号リダイヤル発信 外線から電話をかけてきた相手に対して、こちらから [再ダイヤル] キー（または [リダイヤル] キー）を押すことで電話がかけられる機能のことです。この機能が利用できるのは、外線から電話があったとき、発信者番号も一緒に送られている場合のみです。

発番号不在転送 自動転送機能の一つで、網から受け取る発信者番号ごとに不在転送先を指定できる機能のことです。

フォローミー (follow-me) 自分の内線にかかってくる電話を、移動先の内線に不在転送するように、移動先の電話機から登録する機能のことです。

付加番号 DID (Direct Inward Dialing) 外線からの着信に自動で応答して音声ガイダンスを流し、次に外線からのPB信号を受信することで、指定された着信先に電話をつなぐ機能のことです。たとえば、外線から電話があった場合、音声ガイダンスで「こちらは〇〇です。この回線はダイヤルイン回線です。続けて内線番号をダイヤルして下さい」と応答し、続いて内線番号を受信したとき、指定された内線に接続します。

不在設定 内線からの電話に対して、不在メッセージを相手の電話機のディスプレイに表示させる機能です。メッセージは、「不在」、「外出」または「会議」の中から選択できます。

不在転送 離席の際、行き先の相手先番号を登録すると、それ以後にかかってきた電話を、自動的に登録先へ転送する機能のことです。転送先は、着信種別に応じて設定することができます。

フレキシブルオート フレキシブルキーに割り付けられたオートダイヤル機能のことです。オートダイヤル機能はワンタッチキーに割り付けられていますが、ワンタッチキーだけでは足りなくなったときなどに、この機能をフレキシブルキーに割り付けて使います。ワンタッチキーは数字表示付電話機でのみ使用できます。

フレキシブルキー ファンクションキーやシステム短縮ダイヤル番号などを割り付けて使うキーのことです。

- ボイスワープ** NTT 東日本／西日本の転送電話サービスです。無条件転送／無応答時転送／話中時転送などのサービスがあります。
- 放送結合** 内線電話機から構内放送装置にアクセスし構内放送を行なう機能です。呼出し方法には、全放送装置を呼び出す一斉放送と、指定放送装置（1～4）を呼び出す放送呼出しがあります。構内放送で呼び出された場合、電話で応答できます。
- ホットライン** 受話器を上げるだけで、登録されている内線を呼出すことができる機能のことです。
- 保留音** 回線を保留にしたとき、相手に送られるメロディのことです。

【マ行】

- 無線 LAN デュアル端末** 通常の携帯電話の方式とは別に、もう一つの無線方式が搭載された携帯電話端末です。
日本では、無線 LAN（IEEE802.11b/g）を採用したものが一般的です。
- メッセージ着信通知** メールボックスにメッセージが録音されたとき、メールボックスごとに指定した呼び出し先に音声ガイダンスによって通知する機能です。

【ヤ行】

- 夜間切替** フレキシブルキーに割り付けられた〔夜間切替〕キーの操作によって、外線からの着信形態の昼夜モードを手動により切り替えることができる機能のことです。あらかじめシステム設定しておけば、指定時刻および指定曜日に外線からの着信形態の昼夜モードを自動的に切り替えることもできます。

【ラ行】

- リダイヤル** 外線（または専用線）に電話をかけ、その直後にまた同じ相手に電話をかけたいとき、〔再ダイヤル〕キー（または〔リダイヤル〕キー）を押すだけで、相手先を呼び出すことができる機能のことです。直前に電話したときの相手先番号をシステムのメモリに記憶しておくことで、この機能を実現しています。
- ルート選択発信** ルート別に外線（または専用線）のグループが割り付けられた回線捕捉特番または〔発信〕キーを使って、そのルート内で空いている外線（または専用線）を使用して発信する機能のことです。

【ワ行】

- 話中音** 相手が話し中または途中の回線が混雑しているため相手を呼び出せないことを知らせる音です。「ツーツーツ」という音が受話器またはスピーカから出ます。

故障かな？とお考えになる前に

症状	原因と対処
電話機のディスプレイに何も表示されていない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主装置の電源がオフになっているか、または電源コードの抜けが考えられます。POWERランプが消えている場合、電源スイッチをオンにしてください。または、電源コードが確実に入っているかを確認してください。 2. 電話機コードの抜け、接触不良が考えられます。確実に入っているかを確認してください。
受話器から「ツー」という音が聞こえない。	受話器（ハンドセット）のカールコードの抜け、接触不良が考えられます。確実に入っているかを確認してください。
【モニター】キーを押したのに、スピーカから音が出ない。	<p>電話機設定機能の「ハンドセット切替」が「ヘッドセット」に設定されていることが考えられます。「ハンドセット」に設定してください。</p> <p>詳細は、p.188「5-7 ハンドセット／ヘッドセットを切り替える」を参照してください。</p>
内線番号をダイヤルしたのに電話がかからない。	「オフフック外線自動捕捉」が設定されている可能性があります。これが設定されていると、ダイヤルした電話番号は自動的に外線へとつながってしまいます。内線にかけるときは、受話器を上げる前に【モニター】キーを押してください。詳細は、本書の各操作説明の冒頭のメモ欄をご確認ください。
音声呼び出しに受話器を上げないで応答しようとしたら、相手に声が伝わらなかった。	【トークバック】ランプを確認してください。点灯していない場合は、マイク（トークバック）がOFFに設定されています。p.183「マイクのオン／オフを切り替える」を参照して、マイクをONに設定してからご利用ください（通話中にマイクをON/OFFに切り替えることはできません）。

保証とアフターサービス

■ 保証について











- 本システムには、保証書がついてあります。
本体の保証書は「はじめにお読みください」に添付されています。また、品番が VB で始まるパナソニック システムネットワークス製の製品の保証書は、お買い上げ時に取扱店からお渡ししますので、「取扱店名、システム運用開始日」など必要事項の記入をお確かめになり、保証規定に記載されている保証内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、システム運用開始日から 1 年間です。
※保証期間中でも有料になることがあります。保証書をよくお読みください。
※本システムの不具合により生じた損害の補償については、ご容赦ください。

■ 修理を依頼されるときには

- 本書の p.223「故障かな？とお考えになる前に」の項目をよくご覧になって、もう一度ご確認ください。
それでも異常が続く場合は、ご使用を直ちにやめ、次のことをご確認のうえ、取扱店へご相談ください。
 - ・ 品名「IP OFFICE MX」または「IP OFFICE EX」
 - ・ 故障の状況（できるだけ詳しく）
 - ・ お客様の名前、住所、電話番号
- 保証期間中の修理は…
正常な使用状態で発生した故障につきましては、保証書の記載内容に基づき無料で修理いたします。修理時に保証書をご提示ください。
- 保証期間経過後の修理は…
修理によって本システムの性能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理いたします。

■ おわかりにならないことは

- 本システムの取扱いに関するご質問、および増設、移設については、取扱店へご相談ください。

機能名称		操作手順
メッセージの転送		① 転送するメッセージを再生する (前頁「メッセージの再生」の操作を参照) ② ① ③ _{DEF} を押す ③ 受話器におかって、転送するメッセージに追加するコメントを話し、#を押す (転送を中止する場合は、③ _{DEF} を押すとコメントを消去後、サービス番号選択画面に戻る) ④ 転送先のメールボックス番号をダイヤルする 転送先が複数ある場合は、ガイダンスに従って、順にメールボックス番号をダイヤルする。 ⑤ #を押す ⑥ メールセンターから切断して操作を終了する
通話の録音★ (外線/専用線との通話中のみ)		① 通話中に  を押す ②  を押す ③ 他の内線メールボックスに録音する場合は、メールボックス番号をダイヤルする (自分のメールボックスの場合は設定不要) ④ 録音を終了するときに  を押す
通話相手によるメッセージの録音★ (録音転送)		① 通話中、相手に録音転送することを伝える ②  を押す ③ 転送先のメールボックス番号をダイヤルする ④ メッセージ録音のガイダンスを確認して受話器を元に戻す (通話相手が、転送先のメールボックスに直接メッセージを録音できる)
留守番電話機能 ★※ (不在代行)	不在時の転送先としてボイスメールを設定	①  を押す ②  を押す ③ 0 を押す ④ # を押す ⑤ ③ _{DEF} (転送先種別：代行) を押す
	不在転送を有効に設定	① 待受状態で  を押す ②  を押す ③  を押す
	不在転送を無効に設定	① 待受状態で、赤く点灯している  を押す
応答メッセージの録音 (応答メッセージ管理)	録音	① メールセンターに接続する ② ① ④ _{CH} を押す ③ ⑥ _{MNO} を押す ④ 受話器におかって応答メッセージを話し、#を押す ⑤ ⑤ _{JL} を押す (録音したメッセージが再生される) ⑥ #を押す ⑦ メールセンターから切断して操作を終了する
	削除	① メールセンターに接続する ② ① ④ _{CH} を押す ③ ③ _{DEF} を押す ④ #を押す ⑤ メールセンターから切断して操作を終了する



機能名称		操作手順
通話相手をメールセンターに接続させる (ボイスメールサービス転送)		① 通話中、相手をメールセンターに接続させることを伝える ② 設定/転送 を押す ③ メールセンター接続番号 [] をダイヤルする ④ 受話器を戻す (通話相手がメールセンターに接続され、ガイダンスに従って操作できるようになる)
メールボックス キーの設定	設定	① 待受状態で 保留 を押す ② 4 GH を押す ③ 割り付けるフレキシブルキー  を押す ④ メールボックス番号をダイヤルする ⑤ 保留 を押す ⑥ モニター を押す
	解除	① 待受状態で 保留 を押す ② 4 GH を押す ③ MEX  を押す ④ 保留 を押す ⑤ モニター を押す
メールボックスの パスワード設定	登録	① メールセンターに接続する ② * を押す ③ 1 を押す ④ パスワード (数字4桁) をダイヤルする ⑤ メールセンターから切断して操作を終了する
	削除	① メールセンターに接続する ② * を押す ③ 2 ABC を押す ④ # を押す ⑤ メールセンターから切断して操作を終了する
メッセージの着信 通知 (メッセージ着信 通知)	通知先の設 定	① メールセンターに接続する ② 1 6 MNO を押す ③ 3 DEF を押す ④ 着信通知先の電話番号をダイヤルし、 # を押す ⑤ メールセンターから切断して操作を終了する
	着信通知 ありに設定	① メールセンターに接続する ② 1 6 MNO を押す ③ 1 を押す ④ メールセンターから切断して操作を終了する
	着信通知 なしに設定	① メールセンターに接続する ② 1 6 MNO を押す ③ 2 ABC を押す ④ メールセンターから切断して操作を終了する



索引

番号

- 3人以上で通話する…………… 122
- 24キー増設ユニット…………… 211

欧字

D

- DGL グループ呼出し…………… 131
- DGL (ダイレクトグループライン) モード…………… 30
- DGL 着信…………… 72
- DIL (Direct-In-Line) 方式…………… 33
- DSS キー…………… 21

M

- MSA (マルチステーションアクセス) モード…………… 30

P

- PBX ダイヤルイン方式…………… 33
- PB 遠隔保守…………… 137
- PHS…………… 200

かな

あ

- アナログ電話機…………… 196

い

- 一般電話機…………… 15

お

- オートダイヤル…………… 28
- オフフック外線自動捕捉…………… 19
- 音量を調節する…………… 181

か

- 会議通話…………… 124
- 回線保留…………… 35
- カナの入力…………… 50
- 漢字の入力…………… 49
- 漢字表示付電話機…………… 8
- 管理者用パスワード…………… 55

き

- キータッチ音のオン/オフを切り替える…………… 185
- 記入シート…………… 172
- キャッチホン…………… 34
- キャンプオンラインング…………… 40

く

- グループ音声呼出し…………… 129
- グループ着信…………… 72
- グループ呼出し応答…………… 130

こ

- 構成図…………… 4
- 構内放送装置…………… 192
- 個別着信…………… 72
- コマンドナビキー…………… 46

さ

- 再ダイヤル…………… リダイヤルを参照

し

- 自己保留…………… 36
- システム管理電話機…………… 15
- 指定代理応答…………… 133
- 集中受付装置 (DSS)…………… 210
- 集中着信…………… 113
- 主装置…………… 6
- 状態表示盤…………… 161
- シリーズコール…………… 136

す

- 数字表示付電話機…………… 10

た

- ダイヤル転送…………… 39
- 代理応答…………… 132
- 短縮キー…………… 87
- 短縮ダイヤル
 - 相手の名前から短縮ダイヤルを検索する…………… 76
 - 短縮ダイヤルの登録内容を変更する…………… 82
 - 短縮ダイヤルの登録を1件消去する…………… 83
 - 短縮ダイヤルの登録をすべて消去する…………… 84
 - 短縮ダイヤルを登録する…………… 79
 - メモリ番号から相手の名前を検索する…………… 78
- 端末設定メニュー…………… 189

ち

- チェンジオーバー…………… 41
- 着信音…………… 111, 180
- 着信拒否…………… 114
- 着信方式…………… 33
- 昼夜切替…………… 110
- 昼夜モード…………… 110

つ

- 通話録音…………… 153

て

ディスプレイ	
ディ스플레이の濃度を調節する	187
ディ스플레이の見方	12
バックライトタイマを調節する	186
停電	7
デジタルコードレス電話機 (PHS)	200
転送	
かかってきた電話を外線に転送する	43
指定した外線を別の外線へ転送する	107
転送先の内線から転送指示をする	128
転送先の内線と話さずに取り次ぐ	40
転送先の内線と話してから取り次ぐ	39
不在時に他の電話へ転送する	96
転送電話	107
電話機の角度を変える	174
電話帳	
電話帳から1件削除する	67
電話帳にグループ名を登録する	62
電話帳に新規に登録する	59
電話帳の内容を修正する	66
電話帳の内容をすべて消去する	68
電話帳をグループで検索する	65
電話帳を名前で検索する	63
電話帳をメモリ番号で検索する	64
電話を受ける	
外線を受ける	29
特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける	32
内線（音声呼出し）を受ける	31
内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける	32
内線（着信音）を受ける	31
電話をかける	
音声で内線を呼び出す	22
外線にかける	18
ダイヤルしてから受話器を上げる	23
短縮番号をダイヤルして電話をかける	27
電話帳を使って電話をかける	25
内線にかける	21
リダイヤルする	24
履歴を使って電話をかける	26
ワンタッチで電話をかける	28
電話を取り次ぐ	38
電話を保留する	35

と

ドアホン	194
トランクキャンプオン	20

な

内線 DSS	90
内線音声呼出し	22
内線キャッチホン	134
内線キャンプオンビジー	135
内線の名前	57

に

入力モード	47
-------	----

は

パーク保留	37
パスワード	53
各電話機のパスワードを入力する	53
各電話機のパスワードを変更する	54
管理者用パスワードを入力する	55
保守コンソール用パスワード	163
メールボックスにパスワードを設定する	157
ハンドセット／ヘッドセットを切り替える	188

ひ

日付・時刻を合わせる	176
秘話解除	123

ふ

ファンクションキー	88
フォローミー	128
付加番号 DID 方式	33
不在設定	126
不在転送	97
フッキング	196
フレキシブルキー	
オートダイヤルを割り付ける	85
短縮キーを割り付ける	87
内線 DSS を割り付ける	90
ファンクションキーを割り付ける	88
メールボックスキーを割り付ける	92
割付けをクリアする	91
フレキシブルキー機能一覧	214

ほ

ボイスメール機能を使う	140
ボイスワープ	165
ホットライン	21
保留	35

ま

マイクのオン／オフを切り替える	183
-----------------	-----

む

無線 LAN デュアル端末	208
---------------	-----

め

迷惑電話	114
メインメニュー	52
メールセンター	142
メールボックス	140

も

文字入力	47
------	----

よ

予告音のオン／オフを切り替える	184
予約	
外線が空いていないときは	20
話し中の内線を予約する	135

リ

リダイヤル..... 24

履歴

着信記録を表示する..... 71

発信記録を表示する..... 69

履歴を1件ずつ削除する..... 74

履歴をすべて削除する..... 75

履歴を電話帳に登録する..... 73

る

留守番電話機能を使う..... 103

わ

ワンタッチキー..... 93

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お 買 い 上 げ 日	年 月 日	品番	
取 扱 店 名		電話 ()	—
お 近 く の 販 売 会 社		電話 ()	—

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの取扱店へお申し付けください。

パナソニックCCソリューションズ株式会社